

縮尺 20 万分の 1

土地分類図付属資料

京都府

昭和 51 年

国土庁土地局

縮尺 20 万分の 1 土地分類図付属資料

目 次

利用者のために

A 土地条件等の概要

1. 地形区分とその性状等の概要	1
2. 表層地質の分布とその性状等の概要	17
3. 土壌統群の分布とその性状および生産力可能性等の概要	21
4. 土地利用可能性分級等の概要	32
4-1 土地利用現況の概要	32
4-2 土地利用可能性分級の地域別の概要	37

B 統計の部

1. 土地利用現況	42
1-1 土地利用現況別面積市町村別内訳	42
1-2 D、I、D おおむね 10 万人以上の都市の土地利用現況の内訳	44
2. 自然的土地条件	46
2-1 傾斜区分別面積市町村別内訳	46
2-2 標高区分別面積市町村別内訳	48
2-3 地形区分別面積市町村別内訳	50
2-4 表層地質分布面積市町村別内訳	54
2-5 土壌統群分布面積市町村別内訳	58
3. 土地利用可能性分級	60
3-1 土地利用可能性分級別面積市町村別内訳	60
3-2 土地利用可能性分級と自然条件との関連	62
3-2-1 土地利用可能性分級と地形区分との関連	62
3-2-2 土地利用可能性分級と傾斜区分との関連	62
3-2-3 土地利用可能性分級と標高区分との関連	63
3-2-4 土地利用可能性分級と土壌生産力可能性との関連	63
3-3 土地利用可能性分級主要地域の概要	64
3-4 土地利用可能性分級別市町村別内訳	66

利用者のために

I 編集方針

この附属資料は、縮尺 20 万分の 1 土地分類図についての概要説明と面積統計とに分けられるが、面積統計については、原則としてそれぞれの縮尺 20 万分の 1 土地分類図の統計項目に対応した図幅について面積を測定し製表作成したものである。

たとえば、2-2 表「傾斜区分別面積市町村別内訳」は「傾斜区分図」(オーバーレイ)を市町村の行政区単位に面積測定して作成したものであり、3-3-1 表「土地利用可能性分級と地形区分との関連」は、「土地利用可能性分級図」および「地形分類図」を用い、前者においては土地利用可能性分級である類地のパターンを、後者においては地形区分のパターンをそれぞれ重ねて面積を測定し、両者の面積的関連を把握して作成したものである。

ただし、1-1 表「土地利用現況別市町村別内訳」および 1-2 表「D. I. D. おおむね 10 万人以上の都市の土地利用現況の内訳」については、京都府における各種統計資料等を調整して作成したものである。

なお、縮尺 20 万分の 1 の土地分類図の各図幅と付属資料統計表との関連を示すと次のとおりである。

統計表作成のために使用した土地分類図等の一覧

統計表の名称		土地分類図等の名称										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		地形分類図	起伏量・谷密度図	傾斜区分図	表層地質(平面的分類図)	表層地質(垂直的分類図)	土壌	土壌生産力可能性等級区分図	土地(土地利用可能性分級図)	土地利用可能性分級図	標高区分図	都道府県統計資料
1-1	土地利用現況別市町村別内訳											○
1-2	D. I. D. おおむね 10 万人以上の都市の土地利用現況の内訳											○
2-1	傾斜区分別面積市町村別内訳			○								
2-2	標高区分別面積市町村別内訳										○	
2-3	地形区分別面積市町村別内訳	○										
2-4	表層地質分布面積市町村別内訳					○						
2-5	土壌統群分布面積市町村別内訳						○					
3-1	土地利用可能性分級別面積市町村別内訳									○		
3-2	土地利用可能性分級と自然的条件との関連											
3-2-1	土地利用可能性分級と地形区分との関連	○								○		
3-2-2	土地利用可能性分級と傾斜区分との関連			○						○		
3-2-3	土地利用可能性分級と標高区分との関連									○	○	
3-2-4	土地利用可能性分級と土壌生産力可能性等級区分との関連							○	○			
3-3	土地利用可能性分級別主要地域の概要	○	○	○	○	○				○	○	○
3-4	土地利用可能性分級別市町村別内訳									○	○	○

II 利用上の留意事項

土地分類図の各図から測定された項目別パターン面積値は、各図の図示表現の技術的な制約、すなわち縮尺20万分の1の土地分類図の場合は最少図示単位として1km²（図上では5mm四方）を原則とし、特殊な場合においても最少経400m（図上で2mm）を限度としたため、実在の面積とは一致しない場合もあると考えられる。とくにパターンの小さい性格をもつ分類項目にあたっては、やや少なめに数値が出る傾向がある。

したがって、この統計表を各種資料として使用する場合は、項目ごとの絶対値を使用するのではなく、概括的把握ないし、項目の構成比率等を用いるようにされたい。

III 表中の記号について

「○」は数値が掲載単位に満たないもの

「-」は概当事実のないもの

「 」(空白)は編集時において資料がなく不明なもの

IV 調査機関一覧

(1) 総括調整	京都府農林部耕地課	京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町 075-451-8111
(2) 地形分類	京都教育大学 教育学部地理学研究室	京都市伏見区藤ノ森 03-641-9281
(3) 地質分類	京都教育大学 教育学部地学研究室	〃
(4) 土壌	京都府農業研究所 京都府林業試験場	亀岡市余部町和久成9 07712-2-0424 〒621
(5) 土地生産力可能性 等級区分	〃	〃
(6) 土地利用可能性分級	京都府農業研究所 京都府林業試験場	京都府船井郡和知町大字本庄小字土屋 07718-4-0365 〒629-11
(7) 土地利用現況	京都府農業研究所 京都府林業試験場	

A . 土地条件等の概要の部

I 地形区分とその性状等の概要

1-1 総説

京都府は北西-南東方向の長さ140 Kmの細長い形をなしていて、その中央部に中国山地の東への延長部の山地がひろがっている。その南側は、瀬戸内低地帯の東への延長部にあたる。北側の日本海沿いには丹後半島の山地があって、グリーンタフ地帯の一部と重なっている。中国山地と瀬戸内低地帯の関係は撓曲で隆起した山地と沈降した低地との関係にある。

中国山地の延長部はいわゆる丹波山地である。丹波山地は、その東部において、瀬戸内低地帯に向って、比良の断層崖を境いにして、逆断層で衝き上げている。したがって丹波山地の南北断面は撓曲面地形であるが、東西断面は東高西低の一つの大きな傾動地塊をなしている。東方の琵琶湖はこの衝き上げにより、比良断層崖下にめり込んだ部分に湛水したものである。そのようなわけで、丹波山地は西半分の標高500 mくらいであるのに対して、東半分は一段と高くなっていて800 mくらいである。とくに逆断層崖の背頂部が高く、1,000 m級となっている。

他方、京都府の付近は、基盤岩石の中に縦横に構造線が入っていて、構造線に沿って^{ブロック}地塊毎に示差的に変位するモザイク地形が著しい。構造線の方向は、東西、南北、北西-南東、北東-南西の四方向に大別できる。東西や南北の方向は斜めの方向よりもその生成年代が古いようである。丹波山地の中に発達する盆地や河谷の^{くぼ}ような^{しゅうち}凹地のうち、福知山盆地や須知盆地は東西方向、舞鶴低地や京都盆地は南北方向に属する。それに対して北西-南東、北東-南西の方向は新しく、亀岡盆地の方向はその前者に属するであろう。

丹後半島は丹波山地と類似の岩石からなっているが、さらに第三紀の火山活動による安山岩がつけ加わっている。地形的には丹波山地と類似しているが、丹波山地よりも北東-南西、北西-南東の方向の構造線に沿うモザイク地形が著しい。

瀬戸内低地帯に属する地域は、第四紀の構造運動である六甲変動の影響が著しい。この変動により、六甲山地の方向すなわち、南北方向やそれに近い斜め方向の撓曲、断層をとともなり基盤撓曲運動が卓越し、南北方向の構造地形が発達した。京都盆地、その西側の西山山地や生駒山地、東側の醍醐^{しがらき}山地、笠置山地がそれである。

京都府は丹波山地の北斜面の由良川水系、南斜面の大堰川水系、信楽^{しがらき}山地などにひろがる木津川水系などによって集水、排水されている。琵琶湖の水は宇治川を通して淀川へ排水されている。丹後半島は竹野川など小河川により排水されている。

これらの河川に沿って、由良川水系では、河床段丘が、狭いけれどもよく発達している。構造線に支配された広い盆地の中にも河谷内の河岸段丘に連続する段丘が広く発達している。大堰川水系では、段丘の発達が悪く、その点で由良川と非対称的である。とりわけ中位の段丘を欠いている。低位の段丘は京都盆地や亀岡盆地にみられる。由良川水系と大堰川水系の段丘の発達度の差異は地盤運動の型式や速度の差異にもとづくものであろう。由良川水系の流域は撓曲型式でゆっくりと変位したものであり、さらに第四紀における日本海海面変動の影響を受けているのであろう。大堰川水系は、地塊運動の形で急激な大きい変位を受けているものであろう。木津川水系でも本流沿いの段丘の発達を欠いている。瀬戸内低地帯の地史が周囲山地の隆起に対して盆地底の著しい沈降を続けているためであろう。

盆地地形は福知山盆地、須知^{しゅうち}盆地、上林川河谷では、断層角盆地を呈し、その造盆地の過程において南北断面における南高北低、南低北高のシーソー運動をくりかえしてきた。それに対して京都盆地では、南

北断面においては伸びによる撓曲低下、東西断面においては圧縮によるはげしい褶曲や断層による階段化をともなった。桃山丘陵や盆地の東西の階段地形がそれである。

日本海沿いの低地は丹波山地の北側の撓曲低下により、沈水した山地の谷を埋めて小さい谷底低地がくっついている。野田川、宮津、舞鶴の低地がそれである。由良川下流部は感潮河川となっている。

丹後半島の安山岩や花崗岩のくずれやすい地質は海岸の漂砂を促し、天橋立や小天橋の砂州を形成し、あそのうみ阿蘇海や久美浜湾をラグーンとして抱いている。砂州や漂砂による海岸の砂質裸地は飛砂をともない、一部分には砂丘がみられる。砂丘は第四紀の海面変動や気候変動とともに新旧の砂丘を生じた。

京都盆地や亀岡盆地のような山間盆地では、周囲の山地から運び出された土砂による扇状地地域と、盆地の出口の排水難により、洪水の湛水、氾濫による三角州状泥質堆積地域とからなっている。福知山盆地や上林川河谷にも同様の傾向がみられる。集中豪雨が襲うと、山地では風化生産物の蓄積が山地崩壊をもたらす。とくに花崗岩地域、大江山破砕帯の斑岩、蛇紋岩地域に著しい。盆地の中では、扇状地上の分流に起因する破堤、氾濫と、盆地の出口における破堤と溢流氾濫、逆流により湛水災害をともなり。丹後半島の第三紀安山岩は地這りをともなり。そのようなわけで、治山や河川の築堤や河道の修正がかなり進んでいる。とくに淀川水系の人工的流路変遷（三川合流点付近など）、木津川両岸に注ぐ支流の天井川化、などが著しい。それにくらべると、大堰川や由良川の治水はかなり較差がみられる。

また、土地利用の面から巨椋池などの排水干拓が進み、低地は徹底的に水田化されてきた。山地には前輪廻の小起伏面が標高400～800mにわたってひろがり、いわゆる丹波山地の様相を呈していて、その大部分は民有林でおおわれ、造林が進んでいる。一部では中川の台杉、京都盆地西縁の竹林のように労働集約的林業が営まれているところもみられる。

1-2 地形区分

大地形区分 京都府の地形区は、西の中国地方における中国山地と瀬戸内低地帯の大きい地形区分に従って、北の丹波山地地域と南の京都盆地地域に2大別されよう。

丹波山地地域は、南の丹波山地プロパーの地域、その北の、中生地層の舞鶴帯に一致して、北東から南西にのびるやや低い舞福山地(2)と名づける地域(舞鶴と福知山を含む地域という意である)、その北のグリーンタフ造山の影響を受けて第三紀安山岩が分布する丹後半島(1)と名づける地域に分ける。丹波山地は国鉄山陰線が通るところの亀岡盆地、由良川河谷を北西-南東に連ねる線を境にして、東半分の一段高い若丹山地(3)と、西半分の一段低い撰丹山地(4)に分ける。京都盆地側は、宇治川、淀川を連ねる東西方向の線より北側の、主として桂川水系に属する京都盆地周辺山地(5)の地域と、南側の、木津川水系に属する木津川河谷周辺山地の地域(6)とに分ける。以上6つにわけらる。

中区分 丹後半島(1)は南北方向にのびる峰山盆地をはさんで東側を丹後半島東部山地(11)と名づける。ここでは北東-南西方向の構造線が顕著である。峰山盆地の西側を丹後半島西部山地(12)と名づける。ここでは南北方向をいし、北西-南東方向がみられる。

舞福山地(2)は北東-南西方向にのびる由良川河谷をはさんで東側を由良川下流東岸山地(22)と名づける。中生代層の分布する地帯(中生代層と古生層がサンドウィッチ構造をなしている)と一致して、やや低く、南北方向や東西方向の盆地や低地がやや大きい。由良川河谷の西側を由良川下流西岸山地(21)と名づける。ここでは大江山山地の隆起をともなり地盤運動の影響が卓越する地域- 西岸山地にくらべると一段と高い。

若丹山地(3)は、全体として東高西低の傾動地塊をなしていて、由良川や大堰川が西流しているのは地表の一般傾斜に対して必従河流の関係にある。地盤の隆起が著しいから河谷はやや深い峡谷をなしている。

若丹山地の中に東西方向の隆起軸と沈降軸があって、南北に波状の撓曲運動がみられる。由良川は隆起軸と、大堰川は沈降軸と一致する。由良川の河谷は深く、段丘地形が発達し、大堰川の河谷は開けて、段丘地形をほとんど欠いているのは、このような地盤運動の性質の差異に対応したものであろう。若丹山地には一般に地塊運動が乏しく、撓曲運動が強くあらわれている。若丹山地のうち高い東半分に小起伏面の残存が著しい。小起伏面は新第三紀中新世における準平原化作用の遺物と考えられている。京都盆地に面して、小起伏面は傾き下りながら保存されている。

撰丹山地(4)は由良川中流部の河谷(綾部一和知間)と亀岡盆地を結ぶ北西-南東の線(現在、国鉄の山陰線が通る)を境にして、西側にひろがる。この線は亀岡盆地のような断層角盆地の生成をともなう構造線である。

この山地は東の若丹山地にくらべて、一段と低く、標高400~500mである。やはり小起伏面が発達していて、その起伏は若丹山地の山頂の小起伏面遺物の起伏よりややあらい。北の由良川と南の大堰川の流域にわけられ、両水系やその支流相互間(高屋川と土師川)はこの山地の中で、標高200mくらいで谷中分水している。その場所は上位段丘面と考えられるから、上位段丘面時代の古水系の流路は両水系にまたがっている。撰丹山地の中に北西-南東方向の亀岡盆地、本梅川の河谷盆地、東西方向の須知盆地など規模の大きい断層角盆地がひろがり、盆地には段丘層がみられる。亀岡盆地は東に神吉、越畑盆地を、西に本梅川河谷盆地を副断層として階段断層状にともない、全体として北西-南東方向を軸とする大きい下方撓曲帯をなしている。撰丹山地のひろがりはこの下方撓曲帯とほぼ一致する。須知盆地は西の篠山盆地にほぼ平行する。撰丹山地のうち、由良川流域は地塊運動があまり明瞭でないのに対して、大堰川流域は地塊運動による地塊化が顕著である。撰丹山地のうち、須知盆地の北方の、地塊地形があまり顕著でない、由良川と土師川に排水される地域を土師川流域周縁山地(41)と名づける。撰丹山地のうち、大堰川流域地域は、亀岡盆地の形成にともなう地塊運動により、地塊化が著しく、この点、土師川流域周縁山地(41)と対照的で、この地域を亀岡盆地西縁地域(42)と名づける。

若丹山地のうち、由良川河谷は隆起する撓曲軸に沿って刻みこんでいる深い谷で、その東半分では、谷の横断面形における南岸の斜面が長いに対して西半分では、北岸の斜面が長いというようにやや非対称な形を示している。ほぼ由良川流域を由良川上流北岸山地(31)と名づける。

大堰川河谷は、下降する撓曲軸に沿って刻みこんだ広く浅い谷で、南岸の斜面が短かく、北岸の斜面が長い。ほぼ大堰川流域を大堰川上流北岸山地(32)と名づける。

大堰川と京都盆地との間の山地は京都盆地に向って、伸びの形の形でゆるやかに傾斜し、下降している撓曲面を示している。この京都盆地北縁山地を大堰川上流南岸山地(33)と名づける。

京都盆地はその中央部を東から西へ流れる人工流路としての淀川の支流、宇治川を境にして、北側が大きくひろげられていて、地構をなしている。地構をはさんで東西両側には撰丹山地に類似した山地がひろがる。この地域を京都盆地周辺山地(5)と名づける。そのうち京都盆地と、盆地の東側の山地とを含めて、京都盆地東縁山地(51)と名づける。それに対して京都盆地の西側の山地を京都盆地西縁山地(52)と名づけた。京都盆地西縁を両山地の境界線とした理由は、この線が北西の丹波山地と、南東の瀬戸内低地帯の境界線として扱われることが多いからである。

宇治川を境にして南側は京都盆地の南半部に当るが、他方、木津川の河谷の性質を帯び、東西の幅が狭くなっている。この河谷の両側には、大阪層群よりなる丘陵や古生層、花崗岩よりなる山地が広がる。この地域を木津川河谷周辺山地(6)と名づける。木津川河谷周辺山地(6)のうち、木津川河谷の低地とその東側の山地を含めて、木津川東部山地(61)と名づけた。木津川の南岸地域を木津川南岸山地(62)、木津川河谷低地の西側の地域を木津川西岸山地(63)と名づける。木津川河谷の低地は西縁を木津川東

岸山地(61)と木津川西岸山地(63)と境いとみなしたのは、東岸山地は北方の京都盆地周辺山地と類似した性質が強く残っているのに対して、西岸山地は生駒山地の北への延長部に当り、大阪湾岸の地形との関係がより強いようにみえるので、ここに東岸山地と西岸山地の境いを置いた。

小区分

丹後半島東部山地(11)、丹後半島を東西に分水する山地を太鼓山山地(111)、その東側の一段低い山地を伊根山地(112)、西側の山地を弥栄^{やさか}山地(113)、南側の山地を五十河^{いかわ}山地(114)と名づける。北の日本海岸には網野低地(115)や間入^{たりま}低地(116)などが小河流の河口部にひらけている。竹^{たか}野川中流域には峰山盆地(117)がひらけている。太鼓山山地(111)、丹後半島の分水界がここを通過して、標高500~600mの定高性がみられ、小起伏面をなし、そこに地じりがみられる。地盤は第三紀安山岩で、小起伏面は水田化している。

伊根山地(112)太鼓山山地(標高500~600m)に対し、階段をなして、標高300mの小起伏面がひろがる。さらにその中に谷が入り、谷底面がひらけ、標高100~200mの小起伏面をなしている。これらの面地形は第三紀層や第三紀の新旧安山岩を切っている。山地の東縁は北東-南西方向の直線海岸となっていて、断層海岸と思われる。その南西端に天ノ橋立の砂州がのび、阿蘇^{あそ}海を抱いている。近年、砂州が海岸侵食を受けてやせつつある。その原因は、伊根山地を刻む溪谷の治山事業が進み、土砂流出が減じ、漂砂が少なくなったためと思われる。

弥栄^{やさか}山地(113)標高200~300mの山地で、花崗岩、第三紀層、第三紀の安山岩よりなる。竹野川や宇川などに沿って、やや広い谷底平地がひらけている。海岸には段丘や砂州がみられる宇川は弥栄山地と太鼓山山地の境界線付近の第三紀(112)安山岩のところで著しく蛇行している。弥栄山地は太鼓山山地が北西へ下方撓曲している斜面の一部分に当たるものであろう。この標高200~300mの弥栄山地の中に標高540mの依遅ヶ尾山が孤立丘として突起する。これは第三紀安山岩よりなり、残丘に相当するものであろう。

五十河^{いかわ}山地(114)標高500~600mの太鼓山山地に対して、一段低い階段をなし、標高200~300mの小起伏山地をなし、花崗岩よりなる。

竹野川上流沿いに谷底平野が開けていて、この谷底平野と山地との間には、標高100~200mの緩斜丘陵がみられる。

網野低地(115)、浅茂川の下流は開けて広い沖積平野となっている。基盤山地が沈水して、かつての湾入が堰き込められてラグーンとなり、離れ湖ができたように思われる。低地の中や周辺には、鮮新更新統と思われる地層よりなる小丘がみられる。海岸には琴引浜などの砂浜がみられ、飛砂により砂丘化しているところもある。浅茂川の下流は、一部が埋め立てにより干拓された。

間入^{たりま}低地(116)竹野川下流はひらけた沖積平野となっている。基盤山地の沈水地形を埋積したもので、平野の周辺には段丘がみられ、海岸には砂洲がみられ、飛砂をともっている。

峰山盆地(117)竹野川中流部に盆地状の広い谷底平野がひらけている。盆地は北西から南東へ、丹後半島を胴切りにしてのびている。

谷底平野の東西両側には標高50~100mの丘陵が広がっていて、短い谷によって整然と刻まれている。丘陵は主として花崗岩よりなり、一部に洪積層がみられ、浸食面であると思われる。盆地付近は昭和2年の丹後地震の時に活動し、郷村断層のような地震断層が盆地の西縁を北西から東南に走っていて、その変位量は垂直に数10cm、水平移動は1~3m(東側が西へ移動)に達した。

丹後半島西部山地(12)峰山盆地の西方では南縁に高い高竜寺山山地(122)があり、北に向って低下し、比治山峠山地(121)が広くひろがる。比治山峠山地(121)の西半ではさらに低下して久美浜湾

低地となる。

高竜寺山山地(122)標高500~600mに盛り上がり、高竜寺山637m、磯砂山^{いさなご}661mなどを含み、主として花崗岩よりなる。この山地には多くの峠があり、久美浜と外側とをつないでいる(岩屋峠、円城寺峠、駒返峠など)。

比治山峠山地(121)峰山盆地や久美浜湾低地を取り囲む山地は標高300~400mで、竹野川、浅茂川、佐濃谷川、川上谷川などにより切りひらかれている。谷底には沖積平野がひろがる。山地の麓には、標高100mの丘陵がみられ、低位段丘面がくっついているところがある。山地は第三紀層、第三紀安山岩、花崗岩、流紋岩よりなっている。

久美浜湾低地(123)久美浜湾は小天橋の砂州により外海と隔てられた湾入である。湾に注ぐ佐濃谷川、川上谷川などに沿って、やや広い沖積低地がかなり上流までひろがっている。佐濃谷川はもともと外海へ注いでいたが、河口の砂州や砂丘の発達により閉じられて、流路が変更し、久美浜湾に注ぐようになったと考えられている。湾の東岸には段丘がみられる。小天橋の砂州や段丘の上には飛砂がみられ、砂丘地形化しているところがある。久美浜湾東岸の段丘は2段にわけられる。砂丘層は新砂丘と古砂丘にわけられ、そのさかいに火山灰層や植物性の有機物を含んで黒色を帯びているクロスナ層(黒砂層)をはさんでいる。

由良川下流西岸山地(21)は、南の舞鶴帯(地質学上から区分された)の、古生層と中生代層とがサンドウィッチ構造になっている地帯と、北の花崗岩よりなる地帯とからなる。全体として北東-南西方向の帯状構造が卓越している。その中に大江山山地(211)とその南に孤立して、三岳山山地(212)が高く突き出て、分水界をなしている。大江山の東麓には標高200~300mの小起伏面がひろがる。河守の谷(官川)を境にして、東側を西方寺平山地(213)と名づけ、西側を天ヶ峰山地(214)と名づける。三岳山山地(212)の西側は起伏がややあらく、居母山山地(215)と名づける。大江山の西麓は^{かや}加悦山地(216)と名づける。加悦山地は野田川低地(219)や宮津低地(220)に沿って構造地形的に大きく切りひらかれている。由良川下流西岸山地の南縁は牧川河谷(218)、東縁は由良川河谷によって限られている。

大江山山地(211)大江山(833m)、赤石岳(736m)江笠山(738m)、赤岩山(650m)などが浅丘状に突起する。主として塩基性岩よりなり、その山地の東西両縁は急崖で囲まれ、構造線が存在することが予想され、山地は堅牢浅丘と地塁の2つの性質を持っているようである。

三岳山山地(212)三岳山(834m)は花崗岩よりなり、東西両縁を北東-南西方向に走る構造線に限られているらしく、急崖をなしていて、地塁らしい。三岳山のまわりには標高200~400mのひろげた谷が発達している。上佐々木、中佐々木、下佐々木、上野条、下野条、西石、山谷、雲原がそれである。一部に鮮新更新統がみられる。

西方寺平山地(213)大江山の東麓に標高200~300mの小起伏面がひろがる。主として古生層よりなり、部分的に中生代層、石英斑岩を含んでいる。これらの岩石を切って、由良川の左岸に注ぐ短い支流が刻み、それらの谷底には沖積平野がやや開けている。

天ヶ峰山地(214)天ヶ峰(632m)など標高300~500~600mの山地が、大江山、三岳山の東側にひろがり、由良川河谷に向かって低くなる。古生層や古生代層、斑礫岩よりなる。その中に発達している谷は、上流がひろげて緩斜した地形を示している。中の茶屋、口北原、橋谷、雲原、天座、仏谷、山谷、西谷、行積、上野条、中野条がそれである。標高100m以下には谷に沿って河岸段丘が分布している。

居母山山地(215)出石川^{いづし}(円山川の支流)、牧川(由良川の支流)の上流域は、標高600~800mの山地で、わりあい粗大な谷で分けられて、起伏のあらい山地となっている。(鉄鉾山798m、富岡

山707m、居母山731m、竜ヶ城山646m、伏見山710m)。谷底の標高は200mで、したがって、起伏量は500mに達する。地質は流紋岩、第三紀層、花崗岩、古生層がみられる。

加悦^{かや}山地(216)大江山の西斜面は急崖をなして、野田川の河谷に下る。その崖麓や、野田川と竹野川にはさまれた山地や、北東の宮津の谷との間にはさまれた山地は類似の地形を示している。野田川と竹野川との間は標高300mの低い分水界、出石川^{いげし}との間は標高400~500mの分水界(岩屋峠(240m)加悦奥峠(300m))となっている。いずれも花崗岩よりなり、尾根筋は南北や北東-南西の方向を示し、この付近の構造線に支配されているようである。

由良川下流河谷(217)由良川下流西岸山地(21)の東縁を限る由良川下流河谷は、北東-南西方向に流れ、斑礫岩、中生代層、古生層の配列に対して斜交して流れていて、その流路の方向は構造線に制約されていると思われる。河床勾配がゆるい上に、谷幅が狭く、しかも河水の流量が多いので、洪水時に氾濫をくりかえし、河畔には自然堤防が発達し、水害の常習地帯となっている。また下流は感潮河川である。河守^{こうもり}や有路^{ありじ}の付近には段丘がみられる。河口付近には低い氾濫原に遺跡が見出されている。

牧川河俗(218)牧川は由良川の支流で、東西方向の流路をとる。北の古生層と南の斑礫岩との間にはさまれたうすい中生代層に沿って刻みこまれた谷で、地質構造や岩質に支配されている。上流には第四紀の火山であるトロイデ状の宝山^{たくらやま}があり、その麓には夜久野ヶ原の溶岩台地がある。その火山活動によって、牧川と円山川との間に流路の変遷があったと考えられる。その結果、付近を流れる小さい河流と大きくひらけた谷との間のアンバランスが顕著である。牧川の上流は溶岩の流出により、一時、堰き止められて湖水ができ、湖成層を堆積した。

野田川低地(219)野田川の上流半分は南北方向を示し、下流半分は北東-南西方向を示し、いずれも構造線に支配されているようである。谷底は野田川にくらべて不釣り合いに広く、地盤の沈降や海面上昇によって、沖積層による埋積が進んだように思われる。河口では、天ノ橋立の砂州によって閉じられた阿蘇^{あそ}海にデルタを形成している。東側の山地の麓では開析された基盤岩石や第四紀層が緩斜した地形をつくっている。

宮津低地(220)宮津低地は南北方向の構造線に支配された谷で、標高500mくらいの山地を切り開く古い谷を沖積層が埋積してできたと思われる。

由良川下流東岸山地(22)は、古生層、中生代層を主とする舞鶴帯にひろがる山地である。岩層は全体として北東-南西方向にのびる帯状分布を示し、舞鶴湾や福知山盆地(228)、上林川^{かんばやし}河谷(229)舞鶴低地(230)が、それぞれ、東西、北東-南西、南北の方向に発達する。これらの方向はこの地域に発達する地質構造線の方向を踏襲していると思われる。この地域の山地は一般におだやかな起伏を示している。舞鶴湾を囲んで東に三浜峠山地(221)、西に金ヶ崎山地(225)がある。それらの南側には黒谷山地(222)が北東-南西にひろがっている。その東部はやや高く、君尾山山地(223)として区別している。黒谷山地の西部には福知山盆地の谷がのびて、山地をわけているので、盆地の東北を鬼ヶ城山地(224)、西北を鳥帽子山地(226)、西南を穴裏峠山地(227)と分けた。黒谷山地(222)など由良川下流東岸山地(22)の地形は、西岸山地(21)の西方寺平山地(213)や天ヶ峰山地(214)の地形と連続的であるが、由良川下流河谷(217)舞鶴湾や舞鶴低地(230)、福知山盆地(228)の低地が発達している地域の特徴に注目して、由良川河谷(217)を境いとして西岸山地(21)と区別した。

三浜峠山地(221)舞鶴湾の東側を囲む大浦半島は標高400~600mの山地よりなり、周囲は沈水地形を示す。山地の中に大きい谷がひらけ、細長い沖積平野がのびている。山地の日本海に面した岬には海食崖地形がみられる。山地は塩基性岩類、流紋岩、花崗岩、古生層、第三紀新安山岩よりなるが、福井

泉側に第四紀火山の青葉山があり、その周囲の山地の背面には小起伏面を形成している。

黒谷山地(222)南東を上林川^{かんばやし}河谷(229)、北西を由良川下流河谷(219)に限られ、標高400mくらいの山地で、山地の方向は北東-南西方向の中生代層の地質構造に支配されている。北の舞鶴湾から舞鶴低地(230)がくい込み、南側の福知山盆地側から八田川、犀川などの浅く広い谷が山地内部までひらけている。前者には段丘地形を欠くが、後者には標高100mくらいの段丘が発達している。舞鶴低地(230)を流れる伊佐津川は上流の於与岐^{およぎ}の谷を八田川^{やた}から争奪したようである。

君尾山山地(223)黒谷山地の東縁は、上林川^{かんばやし}河谷に平行して、北東-南西の方向に一段と高く、標高600~700mの山地をなし、君尾山山地(223)と名づける。三国岳(616)、養老山(665)君尾山(582)、弥仙山(640)、蓮ヶ峰(596)などを含む。山地は斑礫岩の分布とほぼ一致している。

鬼ヶ城山地(224)標高540mの鬼ヶ城を中心とする山塊は主として斑礫岩よりなり、北の古生層や中生代層よりなる黒谷山地より200mくらい高い。山地のまわりは福知山盆地、由良川河谷、犀川河谷などひらけた谷地形に囲まれている。

金ヶ崎山地(225)西の由良川河谷(219)と東の舞鶴湾の間に南北にのびる標高400~500mの山地で、古生層、石英斑岩、塩基性岩類などよりなる。東西両斜面には短いがかなりひらけた谷が入り、谷底には沖積平野がみられる。

鳥帽子山山地(226)北の牧川と南の福知山盆地の西端の、和久川の谷との間にはさまれた、標高400~500mの山地は斑礫岩などよりなる。鳥帽子山(513m)や姫髪山(406m)を含む。南北から短いがひらけた谷がくい込み、段丘や沖積平野がみられる。

穴裏峠山地(227)福知山盆地の和久川の谷、土師川、竹田川、佐治川(加古川の上流)に囲まれた山地は標高400~600mで、周囲からひらけた谷にくい込まれ、段丘や沖積平野がみられる。山地は主として斑礫岩よりなる尾根には福知山とその外側とを結ぶ数多くの峠がみられる。(梨の木峠、塩久峠、穴震峠、榎峠、蓮根峠)。

福知山盆地(228)綾部から福知山まで、東西に長く、由良川沿いに谷底盆地がのびる。南の古生層と北の斑礫岩との境いに沿うて、斑礫岩側にひらけた盆地であって、構造盆地であると思われる。盆地の北側の斑礫岩よりなる標高100~400mの山地の中に、八田川、相良川、犀川などのひらけた谷が深くくい込み、段丘や沖積平野がのびていて、福知山盆地はそれらを含み谷に沿って樹枝状に発達した盆地であるといえる。段丘の中では、長田野^{おさだの}や以久田野^{いくた}がとくに広い。由良川は福知山盆地の中ではかって、網状流をなしていたらしく、河跡湖や川中島(河間地)の地形を残している。盆地から下流への由良川の出口をみると、天津の下流でとくに谷幅が狭い上に河床勾配も小さいので、福知山盆地西半は洪水時に湛水、逆流による氾濫をくりかえしてきた。最近では昭和28年9月の台風13号の時の災害が著しかった。

上林川^{かんばやし}河谷(229)北東-南西方向の直線谷で、断層線に支配された構造地形である。八津谷^{やつたに}を中心に段丘や沖積低地がややひらけている。段丘はとくに上林川の右岸に発達している。上林川をはさんで河谷の平面形が左右非対称であって、右岸が直線的であるのに対して、左岸は山脚の輪部がイレギュラーである。その山脚と山脚の間に環流丘陵をだしている。馬場の小丘はその一例である。

舞鶴低地(230)舞鶴湾の湾奥には、広い沖積平野が三浜峠山地や黒谷山地の中に、谷に沿ってくい込んでいて、特に、南北方向の谷に幅が広い。東舞鶴と西舞鶴の市街がひろがる谷がそれである。これに対して、東西方向の谷は長くのびている。いずれも沈水した舞鶴湾の奥の谷を沖積層が埋めて形成された低地と思われる。

由良川上流北岸山地(31)若丹山地を東西に通る撓曲の隆起軸にほぼ一致して、由良川が東西に流れる。

流域の谷間地には原面の小起伏面をわずかに残し、谷は大きくひらけ、峡谷をなしている。それら大きい支流によっていくつかの山塊に分けられる。由良川上流河谷(316)、上林川、草壁川、和知川に囲まれた山地を和知山北(311)と名づける。由良川上流河谷(316)、和知川、棚野川、川下西川に囲まれた山地を長老ヶ岳山地(312)と名づける。上林川、棚野川、草壁川、川下西川に囲まれた山地を頭巾山山地(313)と名づける。由良川上流河谷(316)棚野川、知見谷川に囲まれた山地を八ヶ峰山地(314)と名づける。由良川上流河谷(316)の源流、知見谷川に囲まれた山地を三国岳山地(315)と名づける。いずれも福井県、滋賀県との県境や分水界にあたる山地であって、標高800～900mに達する。

和知山北(311)上林川河谷(229)と和知川を分水する山地で、北東の標高800mから南西の600mへ低下し、その南西への延長部を由良川上流河谷(316)が横谷をなして、北西-南東の方向に横切っている。上林川河谷(229)や和知川の谷底の標高は200mであるから、山地の比高は400～500mに達し、ややあらい起伏を示している。

長老ヶ岳山地(312)由良川上流河谷(316)、和知川、棚野川に囲まれた山地で、長牟ヶ岳(916.9m)を中心に標高900mの山地で、標高600～700mのあたりに緩斜した小起伏を残す山頂地形がみられる。標高900mの尾根は北東-南西にのび、標高600～700mの小起伏面は、和知川や棚野川の谷に沿って、標高900mの山地の中にくい込んでいる。従って両者は山麓面のように浸食の時期を異にする地形と考えられる。標高600～700mの山地は若い谷によって開析され、谷底の標高は200mで、比高は400～500mに達する。

頭巾山山地(313)上林川河谷(229)、棚野川、福井県側の南川を分水する頭巾山(871m)を中心とする山地である。これらの谷底は標高200～300mで、その比高は500～600mに達し、起伏のやや大きい山塊である。標高800～900mの尾根はほぼ東西に走り、若狭湾と由良川上流河谷(316)との間を結ぶ峠がみられる(尼来峠、堀越峠)。

八ヶ峰山地(314)由良川上流河谷(316)、棚野川、知見谷川、福井県側の南川に囲まれた山地で、八ヶ峰(800m)など標高700～800mの尾根の山地で、付近の谷底の標高は300mで、山頂の比高は400～500mでややせたい山地である。

三国岳山地(315)由良川上流河谷(316)の源流にひろがり、西を知見谷川に限られた山地で、三国岳(959.0m)天狗岳(928m)などを中心に、主として由良川上流の北岸にひろがり、由良川の最上流部を占めている。丹波山地の屋根をなし、福井県側との県境をなす。標高800～900mで、小起伏面遺物を広く残している。由良川の谷底の標高は300～500mであるから、山地の比高は300～600mである。この付近は京都大学が演習林として借地しているいわゆる^{あしう}芦生であって、原始林景観を残している。

由良川上流河谷(316)は上流の田歌(谷底の標高300mくらい)から下流の福知山盆地(谷底の標高10m)まで、本流沿いに河岸段丘が発達している。特に中位段丘が広く発達し、和知より下流には下位段丘が局部的にみられる。いずれも基盤岩石の古生層を切って、うすい段丘砂礫層をのせている。中位段丘面の高度は上流で300m、下流の^{おさだの}長田野で70～80mくらいである。現河床には、大野ダムをはじめ、和知^{たちき}などにダムが設けられ、発電などに利用されている。

大堰川上流北岸山地(32)は、北の由良川上流河谷(316)と南の^{おおい}大堰川との間にはさまれた地域で、北の由良川上流河谷(316)の位置と大堰川の南側とに、ほぼ北東-南西方向の撓曲による隆起軸が存在することが予想されるのに対して、由良川上流河谷(316)と大堰川とにはさまれた大堰川上流北岸山地(32)は撓曲による貯降軸の部分に当たる。大堰川上流北岸山地(32)の西部は大堰川の流

域に属する。山地は東から西へ高度を減じる。由良川河谷源流、大堰川上流河谷、別所川に囲まれた山地を久多山地(321)と名づける。東の大堰川、佐々里峠から西の弓削川、深見峠にはさまれた地域を佐々里峠山地(322)と言い、弓削川、深見川、深見峠から西の海老坂、南の田原川に限られた山地を深見峠山地(323)と言い、海老坂から西の胡麻の谷中分水界にはさまれた地域を海老坂山地(324)と言い、北の田原川から南の細野川に限られた山地を日吉山地(325)と言う。大堰川と弓削川にはさまれた、一段と低い山地を比賀江山(326)と言い、その付近の大堰川や弓削川沿いにやや開けた谷底盆地を周山盆地(327)と言う。

久多山地(321)由良川上流河谷(316)大堰川、別所川、安曇川^{あど}に囲まれた山地で、標高800~900mで、丹波山地の屋根をなし、滋賀県との県境をなす。付近の谷底の標高は400mくらいである。由良川上流河谷(316)の源流部には小起伏面地形がよく保存されているのに対して、この山地ではやや保存が悪い。逆に大堰川や久多の谷(安曇川の支流)の谷底の勾配に平衡化が進んでいる。大見^{おおみ}、尾越^{おごし}には標高800m前後の小起伏面山地が残っている。そこでは江賀谷、足尾谷、大見川など安曇川の支流の谷頭部が小起伏面につながり、小起伏面上のひらけた谷地形を呈している。

佐々里峠山地(322)北の由良川と南の大堰川、東の佐々里峠、西の深見峠の間にはさまれた山地は、標高700~800mで、八丁^{はつちよう}など由良川の上流域に小起伏面の断片を多く残している。現谷底の標高は300mくらいである。

深見峠山地(323)由良川と大堰川の間、東の深見峠から西の海老坂までの間に、標高600mくらいの山地がみられる。山地は東に高く、西に低い。その中に標高200~300mの谷が細長くくい込んでいて、比高は300mくらいの山地となっている。

海老坂山地(324)北の由良川、南の田原川、東の海老坂、西の胡麻の谷中分水界にはさまれた山地で、尾根の標高は600~700mで、由良川と大堰川の分水界をなしている。この山地を取り囲む由良川、高屋川、畑郷川、胡麻川、田原川には段丘が発達している。とりわけ、胡麻の谷中分水界は旧大堰川と旧由良川の河川争奪の場で、広い旧河床が分水界をなしている。段丘は由良川側によく発達していて、大堰川側に貧弱である。

日吉山地(325)北の田原川、南の細野川、東の弓削川にはさまれた山地で、標高は500mくらいで、谷底高度は200~300mくらいで、典型的な丹波山地の起伏を示していると考えられる。谷底はややひらけ、断片的に狭い段丘が見られる。この山地を大堰川が東から西へ貫流し、宇津峡谷をつくる。

比賀江山(326)東の大堰川、西の弓削川の間にはさまれた山地で、井戸峠を境にして、北側の標高が650m以上であるのに対して、南側は500m以下である。この山地は、標高500mの高度水準の尾根が大堰川に沿って東の上流地域へくい込んでいる東限にあたり、西隣りの日吉山地と類傾している。

周山山地(327)大堰川と弓削川が周山でY字型に合流するあたりは、谷がややひらけて、河谷盆地を形成している。大堰川は周山より下流で峡谷をなし、排水難のために洪水時に湛水、逆流氾濫をみる。この盆地の形成は基盤の地塊運動にもとづくと思われる。

大堰川上流南岸山地(33)、大堰川上流南岸山地(33)は北の大堰川と南の京都盆地との間に北東一南西方向の撓曲による隆起軸をつくる。この山地の南斜面を刻む谷が、京都盆地に高野川や賀茂川の扇状地をつくる。東の鞍馬川から西の清滝川までの山地は南の京都盆地へ緩斜する斜面をなし、これを北山山地(331)と名づけ、高野川の東側の山地を比叡山山地(322)と名づけ、高野川と西の鞍馬川との間の山地を金毘羅山山地(333)と名づける。賀茂川の上流の祖父谷川^{かぶと}と、西の清滝川、北の細野川に囲まれた山地と棧敷岳山地(324)と言い、東の清滝川、細野川、西の神吉^{かみよし}、越畑^{こしはた}盆地にはさまれた山地を愛宕山山地(325)と言い、東の神吉、越畑盆地と西の亀岡盆地に挟まれた山地を三郎ヶ岳山地

(3 3 6) と名づける。

北山山地 (3 3 1) 東の鞍馬川、西の祖父谷川、真弓川、清滝川に挟まれた山地で、花背峠、魚谷峠の峻線から、南の貴船山 (6 9 9.8 m)、十三石山 (4 9 5.3 m)、城山 (4 7 9.8 m)、沢山 (3 1 6.0 m)、小倉山 (2 4 5. m) まで低下する。これは丹波山地が南へ撓曲して、小起伏面が低下していることを示している。この山地は、清滝川を挟んで、北西側の半国高山や愛宕山との間にくいちがい断層 (splinter fault) の関係があるように見える。山麓の西賀茂から祇王寺にかけて、大阪層群が変位して引きずり (drag) の状態を示し、その一部分は山地の中にも残されている。

比叡山山地 (3 3 2) 高野川の東側にある山地を言い、北の途中峠から大尾山、水井山、横高山を経て、四明ヶ岳まで標高 7 0 0 ~ 8 0 0 m の山地である。西は高野川の断層谷 (断層線谷であろう) に限られ、東は断層崖をなして堅田丘陵 (賀賀丘陵) に接し、比叡山には小起伏面を残している。比叡山 (四明ヶ岳) が少し高く突き出ているのは、北の古生層に南の花崗岩が逆入し、接触してホルンフェルス化し、岩質がより堅くなっているためである。

金毘羅山山地 (3 3 3)、東の高野川と西の鞍馬川の間で挟まれた山地で、北の天ヶ岳 (7 8 7 m) から金毘羅山 (5 7 2.8 m) を経て、瓢箪崩れ (5 3 2.4 m) に至る。丹波山地が南に向って撓曲により低下して、京都盆地の底に没するまでの斜面に相当する。

棧敷ヶ岳山地 (3 3 4)、棧敷ヶ岳 (8 9 5.0 m) 飯森山 (7 9 3 m) より西の周山街道 (清滝川、余野川に沿う) に至る山地で、真弓川、大森の谷、余野川により開析されているが、余野川の西には小起伏面遺物の地形がみられる。

愛宕山山地 (3 3 5) 西の神吉、越畑の盆地、愛宕谷川を連ねた線、東の清滝川、細野川、大堰川を連ねた線に挟まれた山地である。南の愛宕山 (8 9 0.5 m) から北西へ、地藏山 (9 4 7.6 m)、三頭山 (7 2 8.2 m)、鎌ヶ岳 (6 1 8 m)、千歳山 (6 2 2.3 m) を連ねる稜線、愛宕山から北東へ竜ヶ岳 (9 2 4 m)、朝日峯 (6 6 8.3 m) を連ねる稜線などよりなる山地で、断層により支配された傾動地塊山地をなしている。山体は開析を受けてあらいひだを示している。愛宕山、地藏山、竜ヶ岳は一きわ高く突き出し、残丘状をなしているが、その山頂には小起伏面遺物がみられ、この残丘状の地形は地塊山地であるらしい。山地の周囲の断層比形としては、神吉、越畑の盆地の東を限る崖、清滝川の北東-南西方向に断層による谷などが著しい。清滝川をはさんで、西側の愛宕山山地側の高度は 6 0 0 ~ 9 0 0 m、東側の北山山地は 3 0 0 m で、3 0 0 ~ 5 0 0 m の高度差を示す。かって愛宕山の斜面を刻み、直接に京都盆地に達したところの南東方向の谷は、現在の清滝川に争奪されて、それらの谷の遺物が北山山地の中に残されている。菖蒲谷池の鞍部などがそれである。

三郎ヶ岳山地 (3 3 6) 西の亀岡盆地に対しては大きい断層崖をなし、東の愛宕山に対しては、神吉、越畑を連ねる断層角崖地をなしている。三郎ヶ岳山地全体が階段断層地形をなしている。南から牛松山、三郎ヶ岳、竜王ヶ岳、紅葉山、諸木山を連ねた尾根が傾動地塊の崖頂を連ねた尾根に当たる。山地は愛宕谷川、七谷川、三俣川に刻まれて、山麓に複合扇状地を形成している。越畑の盆地には鮮新更新統が埋積していて、この階段断層崖の形成時期が第三紀末以降であると思われる。

土師川流域国線山地 (4 1) 東高西低の傾動地塊の形を呈している丹波山地は、亀岡盆地、由良川中流を連ねる線、すなわち国鉄山陰線が通る位置から西側では、東側にくらべると一段低い。由良川上流河谷 (3 1 6) と土師川に囲まれた山地を三峠山山地 (4 1 2) と言い、土師川の西岸山地を三和山地 (4 1 1) と有り。由良川斜面と大堰川斜面の分水界にあたる山地を観音峠山地 (4 1 3) と有り、その西に東西に連なる一段高い山地を櫃ヶ岳山地 (4 1 4) と有り、櫃ヶ岳山地 (4 1 4) の北の、土師川と高屋川が分水する一段低い山地を兜山山地 (4 1 5) と名づける。これらの山地に囲まれた須知、胡麻の盆地や河谷

を須知盆地（４１６）と名づける。

三和山地（４１１） 東の土師川と西の竹田川との間にはさまれた山地で、標高４５０～５５０ｍである。山地は開析されて、土師川、竹田川の支谷である大きい谷がはいり、その谷底に段丘や沖積平野がみられる。土師川、竹田川の段丘はとくに幅が広い。

三峠山山地（４１２） 東の由良川、西の土師川、南の高屋川に囲まれた山地で、三峠山（６６７ｍ）を中心に、標高５５０～６５０ｍの山地がひろがっている。土師川や高屋川の支谷が刻み込み、谷底はやや開けている。丹波山地の中の、北東－南西方向にのびる高度分布の隆起軸の南西への延長部に当たり、由良川は横谷をなしてその隆起軸を横切り、そこに峡谷状の地形を呈している。山地を取り囲む由良川、土師川、高屋川沿いに盆地地形が開け、段丘や沖積平野が広がっている。最近、藤田和夫によって、三峠山に横ズレ断層を空中写真上で読みとれることが指摘されている。

観音峠山地（４１３） 北の須知盆地と南の園部盆地の間、標高４００ｍの山地が北東から南西へ延びる。山地の中に、標高１００～２００ｍの谷が刻んでいる。この山地は由良川斜面と大堰川斜面の分水界をなし、国道９号線は観音峠で越えている。この山地の付近は、南東の亀岡盆地から北西へ延びる低地帯の中にあつて、この地帯の東西両側の山地より一段低くなっている。

櫃ヶ丘山地（４１４） 須知盆地の南側には、^{ささやま}篠山盆地との間に、標高５００～６００ｍの山地があつて、東西に延びている。櫃ヶ岳（５８２ｍ）、雨石山を含み、北に急崖を向けた傾動地塊をなしている。北の高屋川と南の篠山川の間の分水界をなしている。

兜山山地（４１５） 須知盆地の西方への延長部に当たり、山北の標高４００～４５０ｍ、谷底の標高２００ｍの小起伏山地である。篠山盆地の北側に、平行に東西に延び、大部分は土師川流域に属する。兜山山地では、谷により開析され、幅の狭い丘陵や段丘がみられるのに対して、東方の高屋川の流域に属する須知盆地は広く開けて、広い洪積台地や沖積平野がみられる。両者は流域の差異にもとづくと思われる。

須知盆地（４１６）北の三峠山山地（４１２）と南の観音峠山地（４１３）の間に挟まれて、東西に延びる盆地で、洪積台地や沖積平野がやや広く開けている。須知盆地（４１６）の東に続く胡麻の広い谷底とともに、丹波山地の由良川斜面と大堰川斜面の分水界付近に位置している盆地である。また、南東の亀岡盆地から北西へ延びる低地帯の一部を占めていて、丹波山地の中でも一段低い部分に当たっている。標高４００～４５０ｍの古生層よりなる基盤起伏を埋めて、台地をつくっている段丘層時代の古地理については、次のような議論がある。盆地は現在、高屋川によって由良川へ排水されているが、かつては、下流の中山に分水界があつたのが由良川によって争奪されたとする説や、大堰川が胡麻を越えて由良川に注いでいたのを、殿田で亀岡盆地側へ争奪されたとする説などいろいろの推定がなされている。

亀岡盆地西縁山地（４２） 亀岡盆地が断層を伴う沈降によって、盆地を形成していく過程で、盆地の外側の地域もそれに連れて変位し、全体として大きい下方撓曲を示した。盆地の南側には、亀岡盆地の造盆地運動にあまり影響されない地域がある。一段高い鴻応山山地（４２１）がみられ、その東側に明神ヶ岳山地（４２２）がみられる。亀岡盆地と京都盆地の間を結ぶ低い部分を唐櫃越山地（４２３）と言い、亀岡盆地と本梅川河谷との間に広がる山地を行者山山地（４２４）と言い、本梅川河谷の西にある一段高い山地を半国山山地（４２５）と言う。亀岡盆地（４２６）は北西－南東に延びる低地帯の中にある大きい盆地である。亀岡盆地の北端には、観音峠山地（４１３）と行者山山地（４２４）との間に園部盆地（４２７）がある。亀岡盆地（４２６）の西の本梅川河谷（４２８）は、亀岡盆地（４２６）を形成する造盆地運動に伴う副盆地であろう。

鴻応山山地（４２１） 鴻応山（６７８．９ｍ）と湯谷ヶ岳（６２２．４ｍ）がまわりの標高３５０～４５０ｍに広がる小起伏面の上に残丘状に突出している、岩石は古生層よりなる。南側の花崗閃緑岩の逆入によ

り変質してかたくなっているのであろうか。

明神ヶ岳山地(422) 亀岡盆地の南縁を取り囲む山地には標高300~400mの小起伏面がよく発達している(上寒谷^{さむいぶに}、神原、外畑、中畑、杉生、田能、西別院、東別院など)。小起伏面の間に明神ヶ岳(523.5m)、黒柄岳^{くろがたけ}(526.9m)などが突起した尾根をなしている。これらは古生層中のチャートよりなり、特に堅い岩石の部分が骸骨状に高く残ったものである。北西方の霊仙岳(536.3m)についても、同様に花崗岩の部分が高く残ったものであろう。かくして小起伏面は標高500~550mの尾根水準、標高400~450mの小起伏の尾根水準、標高300mくらいのやや開けた谷底の水準の3段階にわかれている。これは浸食基準面の低下に対応して形成されたものであろう。

唐櫃越山地(423) 北の愛宕山山地(335)や三郎ヶ岳山地(336)と南の西山山地(521)との間は一段低くなって、標高400mの山地をなし、亀岡盆地と京都盆地をつなぐ大きな風隙谷(wind gap)となっている。その中に保津峡が刻み込み、谷中谷をなしている。老の坂もこの山地を越える。上治寅次郎によると、ここに古生層の背斜部が考えられている。

行者山山地(424) 東の亀岡盆地(426)、西の本梅川河谷(428)の盆地、北の園部盆地に囲まれた地域に広がる山地で、標高400~450mである。亀岡盆地(426)が東の愛宕山、西の半国山の間に陥没した時に、階段断層を伴う下方撓曲をなし、盆地層で埋められたが、その時に埋め残された山地がこの山地である。この山地は愛宕山や半国山に比べると、一段低い。岩石は古生層の他に一部分に花崗岩が見られる。

半国山山地(425) 本梅川河谷(428)の西、千ヶ畑の谷の北に、半国山(774m)を中心とした山地がある。西の篠山の断層角盆地の南縁を限る、東西方向の地塊山地の東部に当り、500~800mの標高の小起伏面がみとめられる。その高位の小起伏面から標高300~600mの低位の小起伏面へ低下する場合に階段をなして、そこに瑠璃溪の溪流がみられる。本梅川河谷(428)はさらに一段低い、標高150~200mの谷底面をなす。

亀岡盆地(426) 亀岡盆地(426)は丹波山地を北西-南東に横切る大きい構造的低地帯の中にある代表的構造盆地である。東側の愛宕山などの山地と西側の半国山などの山地の間に、幅12kmにわたって下方撓曲してできた。東西両側に階段断層地形を伴っている。東縁を比高500mの亀岡断層崖に限られた大きい断層角盆地で、盆地の西半分の輪郭は不規則である。盆地の中には上下2段の段丘面がみられ、大堰川に貫流されていて、広い沖積平野が発達している。段丘のうち、上位の段丘は盆地の南東隅に見られ、大阪層群を切って、鶴ノ川沿いなどに局部的に発達している。下位段丘は大堰川の右岸に広く発達し、亀岡盆地に湛水した時に湖成層として堆積したような層相を示している。亀岡断層崖麓には三俣川^{みつまた}、七谷川、愛宕谷川の扇状地をはじめ多くの扇状地が複合扇状地状に発達している。沖積平野にはかつて大堰川が乱流し、その下流部では、保津川の排水難により、洪水時に、湛水、逆流氾濫が現在も続いている。

園部盆地(427) 亀岡盆地(426)を含む、北西-南東方向の低地帯と、西の篠山盆地を含む東西方向の低地帯とがクロスする部分が、周囲より沈降して園部盆地(427)になっているらしい。標高300~400mの低い山地を埋積したものである。谷を埋めてやや広くなった沖積平野が八ツ手状^{やって}に広がった盆地である。

本梅川河谷(428) 西の半国山山地と、東の一段低い亀岡盆地とに挟まれた河谷盆地で、亀岡盆地と平行に、北西-南東に連る階段断層にもとづくものであろう。階段断層は亀岡盆地が下方撓曲の造盆地運動を受けた時に、それに伴って生じたものである。この階段断層は亀岡盆地の造盆地運動の西翼に当り、東翼の神吉、越畑盆地も相対するものである。本梅川河谷の盆地底が標高150mで、神吉、越畑盆地の標高300~400mとの間に著しい高度差があるのは、亀岡断層崖を境にして、断層変位した落差を

示すものであろう。河谷には段丘と沖積平野がみられる。

京都盆地東縁山地(51) 比叡山山地(332)の南から如意ヶ岳まで続く山地を比叡平山地(511)と言ひ、京都盆地(515)と琵琶湖とを分ける。如意ヶ岳の南側から稲荷山までを東山山地(512)と言ひ、京都盆地(515)と山科盆地(516)とを分ける。如意ヶ岳の南から音羽山を経て、大峰山に至る山地を醍醐山地と言ひ、山科盆地(516)と琵琶湖や瀬田川河谷とを分ける。稲荷山の南側から桃山までを桃山丘陵(514)と言ひ、京都盆地(515)と山科盆地(516)とを分ける。京都盆地(515)は南北方向に大きい盆地である。南北方向は近畿地方中部に顕著にあらわれる構造線の方向で、鮮新更新世以来のいわゆる六甲変動の運動軸の方向である。丹波山地と京都盆地(515)など中部の瀬戸内低地帯との境界を京都盆地の西縁に置いているので、京都盆地(515)を山科盆地(516)とともに京都盆地東縁山地(51)の中に一括した。

比叡平山地(511) 比叡山山地(332)の南から如意ヶ岳(474m)までの間はその北側に比べて一段低く、標高400~550mの定高性を示す。この部分は南北両側の岩質が古生層であるのに対して花崗岩よりなる。花崗岩は風化にもろいために低下してこの地形ができた。花崗岩の逆入時に接触変成を受けてホルンフェルスとなった比叡山や如意ヶ岳は岩質が堅くなったために周囲より高く残っている。比叡平は宅地開発やゴルフ場化が見られる。比叡平山地(511)の東西両側は断層で支配された崖となっている。両側の断層は花折断層や比叡山の東側の断層の延長で、一部に泥断層を伴っていると言ひ。

東山山地(512) 如意ヶ岳の南から稲荷山まで古生層よりなる小起伏山地の尾根が一本、南北に通る。これにより、西の京都盆地と東の山科盆地が分けられる。山地は両盆地を埋める鮮新更新世以来の地層により埋め残された基盤の起伏であって、その西麓を南北に断層が通っていると思われる。

醍醐山地(513) 標高500mの定高性を示し、標高100~200mの谷底との間に200~400mの比高を示す起伏面で、南北方向に刻み込んだ谷底に沿って開けている。醍醐山地はその東西を断層で支配された比壘であって、かつてその一部分を大阪層群(や古琵琶湖層群)により覆われていたが、隆起するとともに、宇治川がこの山地の南端を東西に横切って、峡谷を刻んだ。峡谷は先行谷や表生谷の考えが検討されている。

桃山丘陵(514) 東山山地(512)の稲荷山の南側は一段低く、南北方向に小起伏丘陵をなし、主として大阪層群よりなる。六甲変動の影響を受けて、南北方向の構造線に沿う変位により隆起した丘陵である。標高100mくらいであるが、大岩山(184m)は基盤の古生層の起伏があらわれているもので、やや高い。

京都盆地(515) 近畿地方の中部には南北方向の盆地と山地が並んでいる。六甲変動(鮮新更新世以来の地盤運動)によって生成したもので、京都盆地はその1つである。盆地は東西を断層崖で限られて、地溝状を呈し、盆地の中に、桃山丘陵のような副次的な構造地形(断層や褶曲による)を伴っている。この桃山丘陵の隆起により、京都盆地から山科盆地が分離された。盆地は、鮮新更新統の大阪層群などにより、埋積されているが、現在は、木津川、宇治川、桂川、高野川、賀茂川などにより埋積されている。しかし、木津川、宇治川、桂川は上流に盆地があるので、京都盆地に土砂を供給して扇状地地形をつくることは少ないようである。他方、賀茂川、高野川、白川、紙屋川などの小河川は、京都盆地の北東隅を中心に扇状地を広げる。それに対して西部や南部は低湿地をなし、その一部分に巨椋池があった。巨椋池は山崎の狭隘が排水難であるために湛水していたが、昭和10年代に排水干拓された。賀茂川、宇治川をはじめ、現流路には人工的にいじられた部分が多い。

山科盆地(516) 鮮新更新世以来の六甲変動により、東山山地(512)や桃山丘陵(514)が隆起すると、京都盆地(515)から分離して、山科盆地(516)が独立した盆地として形を整えてい

た。盆地の東縁の醍醐断層崖麓では、大阪層群の地層や引き摺りを受けて傾斜し、それが浸食されて、山麓に緩斜した地形をつくる。盆地の北東隅には醍醐断層崖を刻む音羽川の扇状地が堆積して、緩斜面をつくる。南部は旧巨椋池の北限の低湿地がみられたが、現在は埋め立てられて乾陸化した。

京都盆地西縁山地(52) 京都盆地(515)の西は断層崖により限られ、西の撰丹山地(4)に接している。断層崖を西山断層崖と言ひ、背後に小塩山(641m)、ボンボン山(678.9m)など西方の明神ヶ岳山地(422)に対して一段高い傾動地塊山地をなしている。これを西山山地(521)と名づける。この山地は鮮新更新世以来の地盤運動により隆起したもので、山地には変位を受けた鮮新更新統(大阪層群)の断片が残っている。西方断層崖の崖麓には、主として大阪層群よりなる丘陵、台地の地形が広がる。これを西山丘陵(522)と名づける。丘陵は北西-南東方向の、西山断層崖に斜交する断層群により切られている。

西山山地(521) 京都盆地は地溝盆地であって、その西縁を西山断層崖で限られている。西山山地(521)は傾動地塊をなし、崖頂は標高500~600mで、小塩山、ボンボン山、釈迦岳が突起して、残丘状をなしている。また、崖頂の小起伏面の中の谷の一部分は、杉谷で、西山断層崖により beheaded されていて、そこに滝をかけ、外畑への谷の途中で谷中分水界をつくっている。

西山丘陵(522) 京都盆地西縁では、西山断層崖麓に、大阪層群が隆起して、開析を受けて、丘陵や台地の地形を示している。その中に、西山断層崖に斜交して、北西-南東に走る断層により切られ、階段地形を呈している。その構造線の一部に沿って小畑川が刻み、段丘地形を伴っている。

木津川東岸山地(61) 木津川河谷とその東方の山よりなる。山地には、北東-南西方向に走る和東断層崖を伴って隆起している鷲峰山山地(611)と、ほぼ東西に走る上野断層崖を伴って隆起する童仙房山地(612)とがある。鷲峰山山地(611)と北の醍醐山地(513)の間に、東の琵琶湖と西の京都盆地をつなぐ、広い帯状の鞍部をなした宇治丘陵(613)がある。鷲峰山山地(611)と童仙房山地(612)の間には、和東断層崖に伴う断層角盆のような和東川河谷(615)がある。これらの山地の西縁は、ほぼ南北に直線状に走る構造線に伴う急斜面を境にして、南北に延びる木津川河谷(614)と接している。この南北の構造線に伴う急斜面は、北の高野川の谷を通る花折断層や琵琶湖の西を限る断層が、比叡平山地(511)、東山山地(512)、醍醐山地(513)、桃山丘陵(514)の西を限り、さらに南方の奈良盆地の東を限る崖に続くものの一部分である。木津川河谷(614)は北の京都盆地(515)が南の奈良盆地へ続く地溝盆地の一部分をなしている。

鷲峰山山地(611) 鷲峰山(640)を中心に、北東-南西の方向へ隆起軸をもつ山地で、南東に面する新鮮な和東断層崖(鷲峰山断層崖)を伴っている。この断層は和東谷の盆地に対して逆断層の関係にある。鷲峰山山地(611)は傾動地塊をなし、背面に小起伏面遺物を残していて、犬打峠には大阪層群の一部の礫層が残存している。山地の西部は、小起伏面が西へ緩斜していて、玉川がそれを刻んでいる。

童仙房山地(612) 標高500m内外の小起伏山地で、花崗岩よりなり、比高100mぐらいの小起伏が広がる。谷底は開拓されて、水田化している。山地の南縁を上野断層崖、西を和東川の谷に限られていて、それぞれ断層崖麓を木津川、和東川が西流している。山地は昭和28年8月の南山域水害の折に、烈しい山地崩壊を生じた。

宇治丘陵(613) 北の醍醐山地(513)と南の鷲峰山山地(611)の間に、標高200~300m、南北の幅4kmの低地帯が、琵琶湖から京都盆地へ東西に続いている。この低地帯と宇治川の現流路とはかなりの部分が一致する。宇治川は低地帯の北縁を西流する。低地帯は、東部を古琵琶湖層群、西部を大阪層群により厚く覆われ、両層群はいずれも鮮新更新統であって、互いに連続するようである。その構造は東西に傾斜していて、南北軸による隆起を示している。低地帯は比高100mぐらいに開析された丘

陵地形を呈している。かって古宇治川が琵琶湖の水を京都盆地へ排水した当時の扇状地状三角州が開析された地形のように見える。しかしその地層から当時の営力を検討すると、低地帯は、東西をつなぐ水道のようなもので、そこへ南北から土砂が供給されたように見える。その古水流の流れの方向は西流であった。この地層の一部に粗粒の土砂がみられる。丘陵は茶畑、ゴルフ場、砂利採取場となっている。宇治川は基盤山地に対して横谷をなし、先行谷のように考えられるが、基盤起伏を覆った大阪層群が隆起して、化石した基盤起伏の中に峡谷を刻み込んだ表生谷とも考えられる。

木津川河谷(614) 木津川は木津で、西流から北流へ向きを変える。京都盆地が示す南北軸に従うもので、この南北軸は六甲変動による沈降軸である。この広い河谷は構造谷で、東岸の井手付近に玉川の合成扇状地や段丘が発達している。しかし全体として、兩岸とも木津川本流の段丘を欠いている。兩岸の支流には天井川が発達し、堤内に内水氾濫の災害がみられる。兩岸の沖積平野には条里地割がみられる。木津川は京都盆地の中央にある最低部で宇治川や桂川と合流して淀川となって、大阪湾へ排水される。しかし淀川は山崎の狭隘から排水されにくいことも、京都盆地の造盆地運動により、盆地に巨椋池を広げていた。この池は昭和10年代に排水干拓された。木津川は流路変遷をくり返し、河畔に自然堤防や盛土の微高地を残している。

和東川河谷(615) 鷲峰山地(611)の南東側の、逆断層による鷲峰山断層崖(和東断層崖)の麓に、断層角窪地があり、大阪層群により埋積されている。現在、そこを南西流和東川により開析されている。昭和28年8月の南山城水害の時に烈しい山地崩壊を生じた。和東川沿いの段丘地形や、その背後の領家変成の花崗岩よりなる山地は茶畑化している。

木津川南岸山地(62) 木津川を挟んで、北の童仙房山地と類似の山地が、南岸にもみられるが、約200m低い。これは上野断層崖に伴って低くなったものであろう。信楽^{しがらき}山地や笠置山地(大和高原)の花崗岩上には小起伏面地形が広がっている。名張川より東を月ヶ瀬丘陵(621)、名張川から白砂川までを高尾丘陵(622)、白砂川から木津までを加茂丘陵(623)と名づける。

月ヶ瀬丘陵(611) 笠置山地の北東端は、伊賀上野盆地を埋める伊賀累層などにより覆われ、標高200~300mの丘陵地形を呈する。名張川は基盤の花崗岩の中に深い峡谷を刻みこんでいる。

高尾丘陵(612) 東の名張川と西の白砂川との間に挟まれた地域は、領家変成を受けた花崗岩よりなり、標高300~350m、比高100mの小起伏面地形を呈し、水田化が進んでいる。この小起伏面地形を高尾丘陵と名づけた。小起伏面地形は、木津川、名張川、布目川、白砂川の谷に深く刻みこまれている。

加茂丘陵(613) 笠置山地の北西端は、北の和東川河谷の構造地形が南西へ延長した部分に当たり、鷲峰山断層崖の断層線の影響を受けている。領家変成を受けた花崗岩よりなる山地は北西へ低くなり、大阪層群により覆われて、比高100m内外の丘陵となっている。

木津川西岸山地(63) 生駒山地の北への延長部に当たり、主として大阪層群よりなる甘南備山丘陵(631)が広がる。

甘南備山丘陵(631) 木津川の西岸は北の男山から甘南備山(201.6m)を経て、南北に延び標高100~300mの丘陵が広がる。一部分は花崗岩や古生層よりなるが、大部分は大阪層群よりなる。この丘陵は木津川河谷(614)と大阪平野とを分けている。丘陵の起伏量は100m内外で、西の板方^{ひらかた}台地に向けて急崖を持つ。丘陵を刻む山田川などは東流して、木津川河谷に入って天井川をなしている。

水山高幸(京都教育大学)

古藤田一雄(京都教育大学)

植村美恵子(京都教育大学)

大 区 分	中 区 分	小 区 分	
		山 地	低 地
丹後半島 (1)	丹後半島東部山地 (11)	太鼓山山地 (111) 伊根山地 (112) 弥栄山地 (113) 五十河山地 (114)	網野山地 (115) 間入低地 (116) 峰山盆地 (117)
	丹後半島西部山地 (12)	比治山峠山地 (121) 高宍寺山山地 (122)	久美浜湾低地 (123)
舞福山地 (2)	由良川下流西岸山地 (21)	大江山山地 (211) 三岳山山地 (212) 西方寺平山地 (213) 天ヶ峰山地 (214) 居母山山地 (215) 加悦山地 (216)	由良川下流河谷 (217) 牧川河谷 (218) 野田川河谷 (219) 宮津低地 (220)
	由良川下流東岸山地 (22) (舞鶴帯山地)	三浜峠山地 (221) 黒谷山地 (222) 君尾山山地 (223) 鬼ヶ城山地 (224) 金ヶ崎山地 (225) 鳥帽子山山地 (226) 穴裏峠山地 (227)	福知山盆地 (228) 上林川河谷 (229) 舞鶴低地 (230)
若丹山地 (3)	由良川上流北岸山地 (31)	和知山地 (311) 長老ヶ峠山地 (312) 頭巾山山地 (213) 八ヶ峰山地 (314) 三国島山地 (315)	由良川上流河谷 (316)
	大堰川上流北岸山地 (32)	久多山地 (321) 佐々里峠山地 (322) 深見峠山地 (323) 海老坂山地 (324) 日吉山地 (325) 比叡賀江山地 (326)	周山盆地 (327)
	大堰川上流南岸山地 (33)	北山山地 (331) 比叡山山地 (332) 深見峠山地 (333) 海老坂山地 (334) 日吉山地 (335) 比賀江山地 (336)	
撰丹山地 (4)	土師川流域周縁山地 (41)	三和山地 (411) 三峠山山地 (412) 観音峠山地 (413) 櫃ヶ岳山地 (414) 兜山山地 (415)	須知盆地 (416)
	亀岡盆地西縁山地 (42)	鴻応山山地 (421) 明神ヶ岳山地 (422) 唐櫃越山地 (423) 行者山山地 (424) 半国山山地 (425)	亀岡盆地 (426) 園部盆地 (427) 本梅川河谷 (428)
京都盆地周辺地 (5)	京都盆地東縁山地 (51)	比叡平山地 (511) 東山山地 (512) 醍醐山地 (513) 桃山丘陵 (514)	京都盆地 (515) 山科盆地 (516)
	京都盆地西縁山地 (52)	西山山地 (521) 西山丘陵 (522)	
木津川河谷周辺 山地 (6)	木津川東岸山地 (61)	鷲峰山山地 (611) 童仙房山地 (612) 宇治丘陵 (613)	木津川河谷 (614) 和東川河谷 (615)
	木津川南岸山地 (61)	月ヶ瀬丘陵 (621) 高尾丘陵 (622) 加茂丘陵 (623)	
	木津川西岸山地 (63)	甘南備山丘陵 (631)	

II 表層地質の区分とその性状等の概要

表層地質の概要

京都府は主として農林業生産の特徴にもとづいてつぎの四地域に区分されている。

- I 丹後地域
- II 中丹地域
- III 南丹地域
- IV 京都・山城地域

それぞれの地域について表層地質の特徴を述べる。

I 丹後地域

本地域には後期中生代～古第三紀の花崗岩類とそれらを不整合におおひ、新第三紀堆積岩類および安山岩～流紋岩質火山岩・火砕岩が広く分布する。なお本地域の一部には大江山岩体に代表される超苦鉄質岩体（一部蛇紋岩化している）が含まれる。

花こう岩類： 竹野郡弥栄町、中郡峰山町、大宮町、熊野郡久美浜町、与謝郡加悦町、岩滝町、野田川町、宮津市にかけて分布し宮津花こう岩とよばれている。岩質は黒雲母花こう岩を主とするが、一部に角閃石を伴うものや、石英閃緑岩も知られている。ときにベグマタイトを伴い、フェルグソン石、褐れん石、河辺石、チエフキン石などの稀元素鉱物を含む。

花こう岩の放射性年代については、Rb-Sr法によって68 m.y.（宮津市）、55 m.y.（久美浜町）などの値が得られている。

一般に風化は深部にまで及んでおり、ことに粗粒黒雲母花こう岩において著しい。

新第三系： 主として与謝郡伊根町、竹野郡丹後町、網野町、熊野郡久美浜町に分布している。これらの地域の新第三系中新流は、北但層群の一部に包含されており、全体として、宮津花こう岩を不整合におおっている。

同層群は下位から養父・城崎の2亜層群に分けられ、さらに前者は高柳・八鹿の2累層、後者は豊岡・網野・丹後の3累層に分けられる。

養父亜層群高柳累層は厚さ50 m以下の花こう岩質礫岩、アルコース砂岩からなり、等楽寺礫岩砂岩層とよばれている。

八鹿累層は高柳累層に整合的に重なる。層厚300～500 mで、主として安山岩質の溶岩、火砕岩からなり、一部に火山岩質礫岩・同質砂岩を伴う。

城崎亜層群豊岡累層は湖成碎屑岩層を主とし、上部に流紋岩層を伴うことがある。

碎屑岩層は層厚600 m以上あり、下部に礫岩が発達し、上部に砂岩・頁岩が多くなる。一般に岩相の側方変化が著しい。

岩滝町には、本累層に属する礫層（厚さ500 m）が顕著に発達し、松尾礫岩層とよばれている。この礫岩層には径1～2 mの巨礫を含むことがあり、礫種としては花こう岩を主とするが、夜久野岩類など南方からの供給を示す岩石も混在する。

網野累層は豊岡累層に整合的に重なる。本累層は久美浜町・網野町の境界付近をはじめ、丹後町、伊根町にかけて広く分布する。

下部は礫層、砂岩頁岩層からなり、上部には安山岩質溶岩および火砕岩層、流紋岩質および安山岩質凝灰角礫岩層がつづき、最上位には泥岩砂岩層が重なる。

丹後累層は丹後半島先端部および丹後町付近に分布する。両輝石安山岩、角閃石安山岩、石英安山岩、

黒雲母安山岩などの溶岩および火砕岩からなる。

超苦鉄質岩： 宮津市、加佐郡大江町、与謝郡加悦町の境界付近に分布する超苦鉄質岩体は、ダンかんらん岩、輝石かんらん岩、輝岩からなり蛇紋岩化している。この岩体の風化・崩壊物の一部は、かつてニッケル鉱床として採掘されたことがある。

丹後地域の未固結堆積物は由良川、野田川、および竹野川流域に分布する沖積層を主とするが、他に網野町海岸に砂丘層が認められる。

II 中丹地域

本地域には主として舞鶴地帯に分布する中・古生界の堆積岩類、夜久野複合岩類とよばれる深成・変成岩類および丹波地帯の古生界を主とする堆積岩類が分布する。

舞鶴地帯の中・古生界： 本地域の中生界は三疊系からなり、中・下部三疊系に属する夜久野層群、志高層群および上部三疊系に属する難波江層群、荒倉層に区分されている。

夜久野層群は加佐郡大江町公荘付近から天田夜久野町にかけて分布している。下部は砂岩を主とし、頁岩を伴う。層厚は約450～550m、上部は頁岩および砂質頁岩からなり、層厚は約300m、二枚貝、菊石化石などを産し、中・下部三疊系とみなされている。

志高層群は舞鶴市志高付近に分布し、舞鶴炭田の夾炭層として知られている。礫岩、砂岩、頁岩などの碎屑岩層からなり、層厚は約1100mと積算されている。炭層は厚さ1～2mで無煙炭を産する。

難波江層群は天田郡夜久野町、綾部市北西部などにおいて、巾1km以下の狭い巾で分布している。頁岩および砂岩を主とする。一部に無煙炭層を挟む。

荒倉層は舞鶴市荒倉付近において北東―南西に帯状に分布する。難波江層群に不整合におおわれており、主として黒色頁岩、砂岩頁岩で構成され、稀に細粒砂岩層を挟む。層厚は70m以上。

舞鶴地帯の古生界は舞鶴層群とよばれている。本層群は舞鶴市から天田郡夜久野町にかかけ東北東―西南西に帯状に分布する。主として頁岩・粘板岩、砂岩、礫岩、輝緑凝灰岩からなり、石灰岩レンズを伴う。層厚は2000m以上。上・中・下に3分され、下部層はおもに輝緑凝灰岩からなり、層厚700m以上。中部層は黒色頁岩・粘板岩からなり、石灰岩レンズや礫岩を伴う。層厚550m、上部層は砂岩・頁岩互層を主とし礫岩を伴う。層厚800m以上。地質時代はサンゴや紡錘虫化石にもとづいて、中・上部二疊系とされている。

夜久野複合岩類： 従来、夜久野塩基性岩類とか夜久野貫入岩類とか呼ばれてきた。近年の研究により、舞鶴花こう岩も成因的に密接に関連していることが明らかにされたことから、夜久野複合岩類と称されてきている。

舞鶴市、綾部市、福知山市、夜久野町にかけて分布している。

猪木ら(1961)によれば、本岩類は下記の4岩類に区分される。

第1岩群： 舞鶴変成岩、河守変成岩、主として黒雲母片岩、黒雲母片麻岩、角閃石片麻岩、角内石片岩、角閃岩などからなる。古生代に形成されたものが、三疊紀末あるいは後三疊紀の造構造運動により再動したと考えられる。

第2岩群： 輝緑岩および輝緑凝灰岩からなる。

第3岩群： 舞鶴花こう岩。舞鶴層群の一部に貫入しており、志高層群に不整合におおわれる。

第4岩群： 超苦鉄質岩および斑れい岩で、舞鶴地帯の伸びに平行に発達する断層帯に沿ってレンズ状に貫入している。三疊紀後期または三疊紀以後に貫入。

丹波地帯の古生界： 由良川および上林川流域より南部に分布する。ことに綾部南部、福知山市南部、天田郡三和町に顕著に認められる。主として頁岩・粘板岩からなるが、チャートや輝緑凝灰岩も伴われる。

三和町においては、輝緑凝灰岩層やチャート層の分布をもとに、複雑な褶曲構造が明らかにされている。輝緑凝灰岩層にはしばしば“赤白”珪石鉱床が伴われ、チャート層にはマンガン鉱床が胚胎されている。なお丹波地帯の古生界については、南丹地域の記述の際に詳しくふれる。

本地域の未固結堆積物は主として、綾部市、福知山市をはじめ由良川流域および舞鶴市の沖積地と由良川沿いに発達する河岸段丘堆積層および洪積層として分布する。ことに後者については、福知山市南部の長田野に広く分布し、工業団地として開発がすすめられている。

Ⅲ 南丹地域

本地域には丹波地帯の古生界が広く分布しており、これらを岩株状の花こう岩体が貫ぬき接触変成を与えている。

丹波地帯の古生界： 本地域の全域にわたって分布している。主として頁岩・粘板岩からなり、砂岩、チャート、輝緑凝灰岩を伴う。まれに石灰岩小レンズや礫岩薄層を挟む。

頁岩・粘板岩は岩質によって、2つの型に分けられている。1つは含砂岩レンズ頁岩とよばれ、一般に淘汰が悪く、しばしば砂岩やチャートのレンズ状小岩体を含んでいる。

他の1型は均質でよく成層し、層状チャートに漸移することが多い。成層珪質頁岩とよばれている。一部は“鳴滝砥石”として採掘されている。

砂岩は塊状均質のもの、層理の発達するものが認められる。後者はタービダイトとみなされている。砂粒は一般に淘汰が悪く、円磨度も低い。石英、長石類、酸性火山岩片を主とする。層理の発達する砂岩には、級化構造や平行葉理が認められることが多い。

チャートは典型的な層状チャートを主とし、一部に塊状チャートや団塊状チャートを伴う。チャートにはしばしば、層状マンガン鉱床が伴われる。ことに北桑田郡、船井郡においては、かつて盛大に採掘されたことがある。

輝緑凝灰岩は数層準に発達し、最大層厚し、700mに達する。主として玄武岩質溶岩からなり、一部に同質の火砕岩を伴う。溶岩層では枕状構造が発達することが多い。

礫岩は淘汰の悪い泥質基質をもつ、いわゆる泥質礫岩で、礫の淘汰も悪い。礫種としては多量の酸性火砕岩が含まれ、花こう岩礫やオルソコーツタイト礫を伴うことが特徴とされている。

石灰岩はきわめて稀で、主として輝緑凝灰岩に付随して産するにすぎない。比較的大きな岩体としては船井郡瑞穂町質志、園部町観音峠などに分布する。

丹波地帯古生界の層序については、丹波地帯研究グループ(1969, 1971)によって、下位からa~lの12層準に区分されている。下位の層準(a~e)では頁岩・粘板岩一層状チャートを主とし、中位の層準(f~i)は輝緑凝灰岩一層状チャート一頁岩で特徴づけられる。上位の層準(j~l)は砂岩層の発達が顕著で、最上位の砂岩層には礫層を伴うことがある。

層厚は全体として、8000m以上と見積られている。

地質構造については、東西性の軸をもつ褶曲構造が基本的で、さらに高角度断層によりブロック化している。

主要な褶曲構造としては北から、八丁背斜、周山向斜、保津川背斜、桜井向斜と命名されている。

断層はNNE-SSWとNNW-SSEの共役断層系とENE-WSWとWNW-ESEの共役断層系、さらにE-W方向のものも発達している。

地質時代については、従来、紡錘虫化石にもとづいて中・下部二畳系を主とすると考えられてきたが、最近、京都西北山地や西山山地においてモノチス、ハロピヤなどの二枚貝のほか、三畳紀コノドントが発見され、一部には上部三畳系の分布することが明らかにされてきている。

花こう岩： 本地域において、丹波地帯の古生界を貫ぬく花こう岩体として亀岡市鹿野の行者山花こう岩が最も規模が大きい。

本岩体は東西3km、南北4kmの岩株で、黒雲母花こう岩からなる。周囲の古出界に顕著な接触変成作用を与えており、堇青石、紅柱石などが形成されている。なお、灰重石、錫石などを伴う石英脈が発達しており、日本有数のタングステン鉱床として、大谷鉱山において採掘されている。

船井郡園部町南西部、亀岡市西部にかけて流紋岩質火砕岩が分布しており、濃飛流紋岩類などと同時期の活動によるものとされている。るり溪や半国山の景勝を形成している。

未固結堆積物としては、亀岡盆地をおおう大堰川の沖積層と盆地周辺にらびに由良川に沿って発達する段丘堆積層がある。

Ⅳ 京都・山城地域

本地域には京都北山、西山、醍醐山地などの丹波地帯古生界、相楽郡を中心に分布する領家深成・変成岩類、綴喜郡宇治田原町を中心に分布する新第三系中新統および京都・山城盆地周辺の丘陵を形成する鮮新～洪積統、盆地周辺の段丘堆積層、盆地内部の沖積層が発達している。

丹波地帯の古生界： 中丹、南丹地域において述べた特徴を備えている。ただ京都西山や北山においては中・南丹地域に比して、砂岩の発達が顕著となる傾向が認められる。

京都東北山地においては、北白川花こう岩などの貫入により接触変成作用をうけている。

領家深成・変成岩類： 綴喜郡井手町、相楽郡山城町、木津町、加茂町、笠置町、和束町、南山城村にかけて分布している。吉沢ら(1966)によれば、本岩類はつぎのような特徴をもっている。

本岩類は(1) 堆積岩起源の変成岩、(2) 塩基性岩、(3) 花こう岩類からなる。

(1) 堆積岩起源の変成岩： 変成帯としては粘板岩帯、片状ホルンフェルス帯、縞状変麻岩帯に区分される。原岩は層状チャート、砂岩を主とし、ほかに泥岩、輝緑岩、少量の石灰岩が含まれる。縞状片麻岩帯においては、珪線石、柘榴石などが形成されており、低圧・高温型の変成作用がおこなわれたと推定される。

(2) 塩基性岩： 細粒・塊状で、岩床状をなして産する。鉱物組成は角閃石ー(黒雲母)ー斜長石ー石英。原岩は輝緑岩または微斑れい岩と推定される。

(3) 花こう岩類： 花こう閃緑岩、細粒花こう岩、粗粒花こう岩からなる。

花こう閃緑岩には片麻状をなすものと塊状のものがある。

細粒花こう岩は斑状花こう岩、細粒花こう岩プロパー、アブライト質花こう岩に3分される。斑状花こう岩は微斜長石の斑状変晶が発達することが特徴で、相楽郡笠置町に分布する。

粗粒花こう岩は比較的新期に貫入したと考えられている。綴喜郡井手町のもは、部分的に優白質で均質である。

中新統： 綴喜郡宇治田原町に分布し、古生界を不整合におおう。綴喜層群と命名されている。東西約6km、南北1.6kmにわたって分布する。下部より礫岩層(約50m)、砂岩層(約20m)、凝灰質泥岩層(約60m)、砂岩層(約40m)、花こう岩質砂礫岩層(50m以上)の順に重なる。産出化石にもとづいて、中新世中期とされており、岐阜県瑞浪地方から西に連なる第1瀬戸内海に堆積したものと考えられている。

鮮新～洪積統： 向日市、長岡京市などの丘陵、京都東山麓の清水、稲荷、深草丘陵、桃山丘陵、山科盆地周縁の丘陵、宇治市、城陽市の丘陵、綴喜郡八幡町、田辺町、相楽郡精華町にかけての丘陵には大阪層群およびその相当層が分布しており、未固結～半固結の砂・粘土・礫から構成されている。

向日市、長岡京市の大阪層群については、西山団研グループ(1967)による詳細な研究がなされて

いる。それによるとこの地域の地層は層厚約170mで、礫・砂・シルト・淡水成粘土・海成粘土の互層からなり、海成粘土層は6層確認されている。これらの海成粘土層は大阪層群の標準層序のMa 2～Ma 7に相当する。

深草丘陵の大阪層群については、深草団体研究グループ(1962)により5枚の火山灰層、4枚の海成粘土層が確認されている。海成粘土層はMa 3～Ma 6に相当する。

段丘砂礫層：前記の大阪層群分布地域において、これらを不整合におおって未固結の砂礫層からなる段丘堆積層が分布している。とくに向日市、長岡京市の丘陵、深草丘陵、山科盆地、緑の丘陵、宇治市、城陽市の丘陵などに顕著にみられる。

沖積層：京都・山城盆地内に広く分布する。京都盆地では大堰川・加茂川の河床堆積物、氾濫原堆積物のほか、周縁部には扇状地性の堆積物も発達する。山城盆地では、主として木津川、宇治川による堆積物が分布する。京都市伏見区向島、久世郡久御山町にかけては旧巨椋池の泥質堆積物がおおる。

井本 (京都教育大学)

Ⅲ 土壤統群の分布とその性状及び生産力可能性等の概要

京都府における山地、丘陵地、台地及び低地の土壤は、土壤群11、土壤統群26に分類されるが、その内訳は次表のとおりである。

土壤統群一覧表

土壤群	土壤統群	土壤群	土壤統群
岩石地	岩石地	ポドゾル土	乾性ポドゾル化土壤
岩屑土	岩屑性土壤	赤黄色土	赤色土壤
未熟土	残積性未熟土壤		黄色土壤
	粗粒残積性未熟土壤		暗赤色土壤
	砂丘未熟土壤	褐色低地土	褐色低地土壤
	人工未熟土壤		粗粒褐色低地土壤
黒ボク土	黒ボク土壤	灰色低地土	細粒灰色低地土壤
	多湿黒ボク土壤		灰色低地土壤
褐色森林上	乾性褐色森林土壤		粗粒灰色低地土壤
	乾性褐色森林土壤(黄褐系)	グライ土	細粒グライ土壤
	乾性褐色森林土壤(赤褐系)		グライ土壤
	褐色森林土壤		粗粒グライ土壤
	湿性褐色森林土壤	泥炭土	黒泥土壤

3-1 山地及び丘陵地土壤(林地土壤)

3-1-1 概要

本府の森本面積は3,449km²であるが、このうち褐色森林土が約96%を占めている。ほかには赤黄色土1.5%、未熟土1.3%で、岩石地・黒ボク土・ポドゾル・岩屑土などは、いずれも1%以下の分布にすぎない。

これらの7土壌群は、さらに15土壌統群に分類される(土壌統群一覧表参照)

このうち、砂丘未熟土壌・人工未熟土壌・黒ボク土壌などは農地土壌と共通している。本府の山地は丹後、中丹、南丹、京都・山城の4地域に大別される。

次に地域別の土壌統群の分布状況について記述する。

3-1-2 丹後地域

本地域における山地の地形は、小起伏山地が多く、中起伏山地これに次ぎ、大起伏山地は一部にみられる。丘陵地についてみると、このうち小起伏丘陵は大起伏丘陵地よりも多い傾向がみられる。

山地の発達時期による分類(浸食輪廻の考え方による分類)については、一般に晩壮年期ないし老年期の様相を示している。

本地域での土壌統群の分布状況についてみると、褐色森林土壌が大半を占め、土壌型ではそのほとんどがB_B型土壌(乾性褐色森林土-緩斜地型)である。

褐色森林土壌のうち土壌型のB_D(d)型土壌(適潤性褐色森林土-偏乾亜型)及びB_D型土壌(適潤性褐色森林土)などは山腹斜面の中下部から山麓にかけて分布しているが、いずれも少面積である。また、中丹地域北部と境を接する赤岩山(669m)から大江山(832.6m)を経て赤石岳(736m)に至る一連の山稜は、かんらん岩及び蛇紋岩を主とする超塩基岩からなるが、これらを母材とした暗赤色土壌がまとまって分布している。

前記土壌統群のほか岩石地・岩屑性土壌・残積性未熟土壌・砂丘未熟土壌・黒ボク土壌・赤色土壌などがみられるが、いずれも少面積である。

このほか、あまりにも分布面積が狭く、一部図示不可能な湿性褐色森林土壌がある。

3-1-3 中丹地域

本地域における山地の地形については、前記の丹後地域とほぼ同様である。

丘陵地については、大起伏丘陵地は小起伏丘陵地に比べて多く、丹後地域のそれとは逆の傾向がみられる。

本地域での土壌統群の分布状況を見ると、乾性褐色森林土壌は北東部から南部にかけて地域全体に及んでいる。

本地域の中央部から南部にかけては乾性褐色森林土壌(赤褐系)が、北部ないし北東部にかけては赤色土壌が比較的まとまって分布している。南丹地域の北部及び北西部と境を接する本地域の東部(丹波山地の屋根の部分)及び兵庫県と接する本地域の西部にはスギ、ヒノキなどの人工造林に適した適潤性の褐色森林土壌が比較的まとまって分布している。また本地域の北部ないし北西部の中・小起伏山地は、丹後地域にまとまって分布している暗赤色土壌に連なっている。

前記のほか残積性未熟土壌・黒ボク土壌・湿性褐色森林土壌などが小面積分布している。

3-1-4 南丹地域

本地域の北東部から北西部にかけて中・小起伏山地が多くみられ、大起伏山地はごく一部に分布している。これらの山地は本府のほぼ中央部を占め、普通、「丹波山地」とよばれている。これらの多くは早壮年期の様相を示している。また、丹波山地のなかには、山頂の定高性が認められ、隆起準平原の地形を示す部分がみられる。いずれも谷沿いの斜面は急し、んである。本地域の中央部は小起伏山地で占められるが、老年山地の様相を示している。京都市の北部と境を接する京北町の一部と、大阪府と接する亀岡市及び園部町の一部には中起伏火山地が若干みられる。

本地域の西部から南東部にかけては、小起伏丘陵地が帯状に分布している。

土壌統群の分布状況を見ると、中起伏山地を主とする丹波山地は地形・気候などの自然的条件に恵まれ、

土壌型ではB_D(d)型土壌、B_D型土壌及び一部にB_B型土壌(弱湿性褐色森林土壌)がみられ、スギ・ヒノキなど有用樹種の育成に適した土壌が広く分布し、本府の代表的な林業地帯が形成されている。

乾性褐色森林土壌は本地域全体に及んでいるが、とくに亀岡市を中心として本地域の南部に多い傾向がみられる。

乾性褐色森林土壌(赤褐系)は、本地域の中央部から南部にかけて比較的まとまって分布している。乾性ポドゾル化土壌は北部の福井県と境を接する中起伏山地(京都大学芦生演習林を含む)に少面積分布している。

前記のほか、岩石地・黒ボク土壌・乾性褐色森林土壌(黄褐系)・赤色土などが分布しているが、いずれも少面積である。

3-1-5 京都・山城地域

本地域の北部を占める京都市北部の山地は普通、「京都北山」とよばれ、丹波山地の屋根の部分をしてなしている。

山地の地形は中起伏山地がほとんど占めているが、早壮年期の様相を示している。

スギ・ヒノキなどの人工造林に適した褐色森林土が多くみられ、このうちB_D(d)型土壌、B_D型土壌などが広く分布し、一部にはB_B型土壌もみられる。本地域の北西部ないし北東部から南東部にかけて中・小起伏山地が分布しているが、多くは老年期の様相を示している。これら山地での土壌統群は乾性褐色森林土壌及び褐色森林土壌などが分布しているが、概して前者のほうが多い。

京都盆地(山城盆地)の東縁部及び西縁部には、主として鮮新更新統起源の砂礫や粘土の堆積物(大阪層群)よりなる小起伏丘陵地が帯状に広く分布している。

東縁部には残積性未熟土壌・粗粒残積性未熟土壌・乾性褐色森林土壌など西縁部では人工未熟土壌(竹林土壌)・乾性褐色森林土壌・乾性褐色森林土壌(黄褐系)などが分布しているが、乾性褐色森林土壌(黄褐系)の場合は、さらに本地域の南部及び南東部の大・小起伏丘陵地にかけても分布している。

前記のほか岩石地・赤色土などがみられるが、いずれも少面積である。

以下に土壌統群の分布とその性状及び生産力の可能性について記述する。

3-2 山地の土壌

2-2-1 岩石地

丹後半島・栗田半島・大浦半島などの日本海・若狭湾沿岸部の海食崖及び、南丹地域、京都・山城地域などの溪谷に接する急斜面に分布している。日本海・若狭湾沿岸部は、山陰海岸国立公園・若狭湾国立公園などの景勝地となっている。いそ波によって浸食をうけた露岸地または土壌層のほとんどみられない基岩の露出地が主体となっており、林木の生育には不適である。

3-2-2 岩屑土

大江山連峰(最高峰832.6m)を構成するかんらん岩・蛇紋岩などの超塩基性岩の崩壊によって堆積した崖錐の土壌である。

一般に急斜面で、表面浸食をうけて層位の発達是不完全である。

残積性未熟土壌のそれと類似しているが、異なる点は、土層が浅く、地表面より40cm以内に粘礫層が存在し、その下は岩盤に移行していることである。

A₀層(有機物層)及びA層(表層)は、ほとんど認められない。また、B層(下層)はうすく、10cm内外にすぎない。

大江山の北側斜面に小面積分布しているが、アカマツの成長は不良である。

3-2-3 未熟土

この土壌は、浸食の影響を強くうけて土層の一部が欠除された土壌（残積性未熟土壌・粗粒残積性未熟土壌）、母材が比較的新しい堆積物であって、また層位の分化が不完全な土壌（砂丘未熟土壌）、タケノコ畑及び竹材生産用の竹林（モウソウチク）として人為が加えられ、自然土壌とは異なる土壌（人工未熟土壌）の4土壌統群に分類される。

(1) 残積性未熟土壌

丹後地域北西部の兵庫県に接する日本海沿岸部の新第三紀の固結堆積物（礫岩・砂岩など）よりなる小起伏山地、中丹地域の長田野洪積台地、京都市東北部の古生代の固結堆積物（主として砂岩）よりなる小起伏山地及び大起伏丘陵地、京都市東南部の大阪層群よりなる桃山丘陵などに分布している。

表面浸食により、層位の発達が不完全な土壌で、A層を欠いていることが多く、母材の性質の特徴が強くあらわれている。

アカマツ・コナラなどが多く、せき悪化した林地である。

(2) 粗粒残積性未熟土壌

宇治市南部の宇治丘陵に分布している。残積性未熟土壌のうち、とくに砂質及び砂礫質の土壌である。丘陵地の斜面では土壌の移動性が強く、層位の発達は悪い。

土壌生産力はきわめて低く、アカマツの成長は不良である。山砂利採取場やゴルフ場などがみられ、山肌は著しく荒れている。

(3) 砂丘未熟土壌

丹後半島の北岸ないし北西岸及び宮津湾の北西岸・栗田湾の南岸・由良川河口などに帯状に分布している。

砂丘地及び砂州にみられる粗粒質（砂質）の土壌である。土層の分化はきわめて弱く、下層土は一般に彩度の低い黄褐色から灰褐色、ときには灰色を呈していることがある。

砂丘地土壌はその生成過程からみて構成粒子が大きく、粗砂・細砂部分が90%以上占めている。表層における腐植含量は低く、保水力・保肥力などが著しく劣っている。

おもにクロマツによる防風林が造成されているが、これらの間には畑地として利用されているところがある。

(4) 人工未熟土壌

主として大阪層群の地層よりなる京都西山丘陵などに分布している竹林（モウソウチク）の土壌である。これらのなかには、タケノコ栽培を目的とした畑地と竹材の生産を目的とする林地の2つがある。

タケノコ畑は、普通、毎年300kg/10a前後のしきわら及びタケノコ畑と母材を同じくする土壌で、タケノコ畑近辺で採取される30～50t/10aの客土が行なわれている。

したがって、長年の間には50cmないし100cm以上に及ぶ人工の土層が形成されている。現在竹林のところも、かつてはタケノコ栽培が行われており、土壌面からみて、竹林とタケノコ畑との区別は必ずしも明瞭ではない。したがって、これらの土壌を一括して、人工未熟土壌として図示した。

3-2-4 黒ボク土

丹後半島の屋根にあたる中起伏山地の碓高原、大江山連峰中起伏山地の赤石岳及び江笠山、中丹地域西部の小起伏火山地・火山性丘陵地、大起伏山地にあって残丘地形をなしている長老ヶ岳、中丹・南丹地域の小起伏山地、中丹地域の砂礫台地（中位）などに点在している。これらは、いずれも緩斜面に出現している。火山放出物の風化堆積層の上部に黒色ないし黒褐色（明度・彩度ともに2以下）の非泥炭質の腐植

が集積した土壌である。

前記の土色を呈するA層の厚さは25～50cmであって、A層からB層への推移状態は明瞭である。母材は非固結火成岩（火山灰）を主としているが、非火山性の母材が混在するものも一部にみられる。

理化学性の特徴は、A層は一般に容積重が小さく、保水力・塩基置換容量などが大きく、炭素含量が高く、りん酸吸収係数はきわめて大きい。B層の土色は明褐色ないし褐色を呈し、ややち密で、容積重が大きく、透水性は不良である。林地ではアカマツの造林地が多く、農地では普通畑として利用されているが、一部には放牧地として利用されているところがある。一般に土壌生産力は低い。

3-2-5 褐色森林土

褐色森林土は京都府の山地土壌の代表的なものであり、分布面積、範囲ともに他の土壌よりも、特に多く出現している。

これらは、さらに下記の5土壌統群に分類される。

(1) 乾性褐色森林土壌

府下全域にわたって広く分布している。

この土壌型は、 B_A 型土壌（乾性褐色森林土 - 傾斜地型）、 B_B 型土壌（乾性褐色森林土 - 緩斜地形）、 B_C 型土壌（弱乾性褐色森林土）の3つがこれにあたる。

主として山腹上部から尾根筋にかけて出現している。 A_0 層及び粉状・粒状・堅果状などの土壌構造がよく発達し、乾性型土壌としての整った性状を示している。

A層はうすく、B層との境界は明瞭である。一般に酸性が強く、養分に乏しい。

天然性のアカマツ林や落葉広葉樹林となっているが、スギ・ヒノキなどの有用樹種の人工植栽には不適である。

(2) 乾性褐色森林土壌（黄褐色）

南丹地域及び京都・山城地域の小起伏丘陵地など標高400m以下の低山地に分布している。山腹上部から尾根筋にかけて出現しているが、乾燥の影響を強くうけて、 A_0 層や細粒状構造などがよく発達している。

A層の厚さは比較的うすく、腐植含量は低い。B層は10YRの色相をもち、明度及び彩度は高い。

天然性のアカマツ林や落葉広葉樹林となっているが、いずれも成育は不良で、林木の成育を期待することは無理である。

(3) 乾性褐色森林土壌（赤褐色）

丹後地域西南部の花こう岩の赤色風化の影響をうけた小起伏山地及び中丹地域、南丹地域、京都・山城地域の小起伏山地から大・小起伏丘陵地にかけて広く分布している。

前記の乾性褐色森林土壌（黄褐色）とほぼ同一の地形に分布しているが、これと異なる点は、A層は黒褐色ないし暗赤褐色を呈し、粗しうであること、B層は5YRの色相を示していることなどである。

天然性のアカマツ林や落葉広葉樹林が多いが、それらの成長は悪く、利用度は低い。

(4) 褐色森林土壌

最も標準的な森林土壌で、本府では北緯35°から35°30′にわたる林地の主要な部分を占めている。中丹地域・南丹地域北東部及び京都・山城地域北部の中・小起伏山地などにまとまって分布している。一般に斜面の中下部や谷筋に出現しているが、壮年期山地の北斜面では尾根筋まで達している。

A_0 層はとくに発達しない。A層は厚く、土壌構造は団粒状構造がよく発達し、7.5YRの色相をもつB層へ漸変する。

土壌型では $B_{D(d)}$ 型土壌、及び B_D 型土壌がこれにあたる。スギ・ヒノキなどの有用樹種の造林が可能で、かなりの成長が期待できる。

(5) 湿性褐色森林土壌

中丹地域北西部、南丹地域北東部、京都・山城地域北部の中・小起伏山地の谷や沢沿いに細長く分布しているが、その規模は小さい。斜面の下部、山脚部、凹形の斜面などに出現しているが、いずれも崩積土である。

A層は腐植に富んでおり、とくに厚い。

土壌構造は団粒状構造がよく発達し、やや灰味を帯びたB層に漸変する。一般に土壌反応は中性に近く、置換性石灰含量は高く、物理性は良好で、林木の成育に適した生産力の最も高い土壌で、とくにスギの成長は良好である。土壌型ではB_E型土壌(弱湿性褐色森林土)及びB_F型土壌(湿性褐色森林土)の2つがこれにあたる。

3-2-6 ボドゾル土

南丹地域北東部及び京都・山城地域北部の標高600m以上の中起伏山地の尾根、凸型斜面上部など乾燥の影響を強くうけやすいところに、局所的に出現している。

寒冷な気候条件下にあるため、落葉の分解はきわめて悪く、A₀層のうち、とくに下層(腐葉層)が地表面に厚く堆積している。

A層には灰白色の溶脱斑がみられる。

B層は赤褐色ないし暗赤褐色を呈し、鉄の明瞭な集積層が認められる。養分に乏しい強酸性の土壌である。府下に分布している乾性ボドゾル化土壌の土壌型はP_DⅡ型土壌(乾性ボドゾル化土壌)とP_DⅢ型土壌(乾性弱ボドゾル化土壌)の2つが小面積分布している。

温帯性樹種のスギ・ブナ・ミズナラなどがみられるが、天然生林となっている。

スギ・ヒノキなど有用樹種の人工造林は期待できないので、天然生スギを保育するとともに、各種広葉樹の混交を促進して地力の維持、向上をはかる必要がある。

3-2-7 赤黄色土

赤色土壌は小起伏丘陵地及び砂礫台地などの緩斜面に出現している。過去の温暖期に生成され、浸食をまぬがれた前記の地形面に残存する古土壌である。黄色土壌は府下では、農地土壌として洪積台地及び河岸段丘などに分布し、黄色味の強い土壌である。

暗赤色土壌は中・小起伏山地に分布し、赤色土壌のそれと類似するが明度・彩度ともに低く、暗赤的味の強い土壌である。

(1) 赤色土壌

丹後地域北東部の小起伏山地及び丹後地域北東部、南丹地域南部、京都・山城地域北西部(京都市西南部)にかけて、大・小起伏丘陵地に点在しているが、中丹地域の砂礫台地(中位)の一部にもみられる。

A₀層の発達は悪い。一般にA層の腐植含量は低く、土色は黒褐色ないし暗赤褐を呈しているが、なかにはやや灰色の灰黄褐色を呈しているものも一部にみられる。

B層の土色は5YR 4/6よりも赤く、2.5YRの色相をもつものが多いが、明度・彩度はいずれも高い。強酸性で塩基に乏しく、物理性の悪い乾性型の土壌である。土壌生産力は低く、アカマツ林や落葉広葉樹林となっている。

(2) 暗赤色土壌

丹後地域南部から中丹地域北部にかけて、かんらん岩及び蛇紋岩などの超塩基性岩を母材とした中・小起伏山地に3,200haの面積でまとまって分布している。

赤色土壌と類似するが、一般に土色は紫色味がかっており、明度・彩度はいずれも低い。B層の色相は5YRないし、2.5YRで、明度は4以下である。一般にマグネシウム含量と塩基飽和度が高い性質をもっている。

土性は軽植土ないし重植土で、ち密であり、物理性はきわめて不良である。

わい生のアカマツ、ススキ、ヒュウガミズキなどの植物が多くみられる。

ヒノキの人工林が一部に存在するが、成長ははなはだ悪く、土壤生産力の低いせき悪林地である。

香山達男（京都府林業試験場）

3-2 台地および低地土壤

3-2-1 概要

本府の農地は各地に点在する盆地の沖積地およびその平野に流れ込む河川に沿って連なる帯状の沖積地に低地土壤が分布し、その周辺の台地およびそれに連なる丘陵地の一部に台地土壤が分布している。低地は主として水田として利用され、台地はかんがい水の豊富にあるところは水田として、不足するところは畑地として利用されている。農地は府全面積の8.9%を占め約40,900haであり、その内訳は水田約32,600ha、畑地約8,200ha、草地約200haとなっており、水田率は79.7%と比較的高く、府下全域で水稻を主幹とした農業が営まれている。

土壤は、灰色低地土が最も広く、54.5%を占め、次いでグライ土が23.5%、赤黄色土14.9%、未熟土2.7%、黒ボク土2.2%、褐色低地土1.7%、泥炭土0.5%と占め、この7土壤群に分類され、さらに14土壤統群に細分される。（土壤統群一覽参照）。

水田は、灰色低地土、グライ土、泥炭土および赤黄色土、黒ボク土の一部を利用し、比較的生産力の高い地域の大半を占めている。また、老朽化水田が主として灰色低地土に約8,600ha分布し、全水田面積の26.4%を占め、府下の水田土壤の特徴となっている。

畑地は、未熟土、黒ボク土、褐色低地土および灰色低地土、赤黄色土の一部を利用し、水田と比較して、生産力の低い地域に分布し、低地の微高地、周辺の台地ないし一部丘陵地に分布し、小規模の普通畑が大半を占めている。丹後地域では果樹園、中丹地域では桑園・茶園、南丹地域では果樹園、京都・山城地域では茶園・竹林の利用が多い。

3-2-2 丹後地域

この地域は府最北部に位置し、南部を大江山山地および高竜寺山地によって中丹地域、兵庫県に接している。南部は高く、北部が低いため、河川は北流し、西から川上谷川、佐濃谷川、竹野川および野田川があり、それらの河川が、川上谷、佐濃谷、峰山盆地、野田川低地の沖積地を形成し、その沖積地の外縁に小起伏の山地や洪積台地が分布している。北東部の丹後半島には大鼓山山地、伊根山地があり、その東面に小河川が谷をきざみ、小さな沖積を形成し、その周辺には第三紀層の地すべり台地が点在している。

この地域の低地の土壤は、高竜寺山地が花崗岩類を主体にしており、その影響によって中粒～粗粒質の土壤が広く分布している。しかし、丹後半島部では第三紀安山岩類等の風化物の影響を強く受け、細粒質の土壤が多い。さらに、排水の良否等によって、各沖積地の上流部分は比較的排水がよく、灰色低地土を中心に、下流部分および丹後半島部は排水が悪くグライ土を中心に分布し、主として、水田として利用されている。また、低地のやや高い面には泥炭土の分布が小面積ではあるが点在している。台地の土壤は海岸に沿って砂丘が形成されているが、そこには未熟土が分布し、普通畑・果樹園として利用されている。沖積地の周辺の洪積台地には赤黄色土が分布しており、（一部黒ボク土の分布もみられるが…図示せず）主として、果樹園・普通畑として利用されている。

3-2-3 中丹地域

この地域は、府北部に位置し、北部は大江山山地によって丹後地域に、東南部は丹波山地によって南丹

地域に接しており、地質構造の舞鶴帯とほぼ一致している。北西部および東南部が高く、中央部が低くなっており、その中央に由良川が西流し、福知山市で北流に変え、さらに北東に流路をとって若狭湾に注いでいる。この流路変更地点附近に福知山盆地および支流の牧川、土師川、上林川に沿って沖積地が分布している。福知山盆地等の周辺には洪積台地が広く分布し、丘陵地へ連なっている。

この地域の低地の土壌は由良川およびその支流が古生層地帯を流下し、各種岩片の碎屑物を堆積しており、細粒～粗粒質の土壌が分布している。しかし、福知山盆地北部、大浦半島の谷底平地には塩基性岩類の風化物の影響を受けた細粒質の土壌が比較的多く分布している。さらに排水の良否等によって、良好な褐色低地土が由良川に沿った自然堤防上に分布し、主として、桑園・茶園として利用され、比較的良好な灰色低地土が沖積地に広く分布し、主として水田として利用されている。排水の不良地にはグライ土が分布しているが、福知山盆地北部から大浦半島基部にかけて、前述の細粒質の土壌による。さらに地形的な理由による排水不良地域に帯状に集中した分布を示し、水田として利用されている。また、黒ボク土も台地周辺の低地に小面積ではあるが分布している。台地の土壌は、由良川河口の砂丘に未熟土が分布し、普通畑として利用され、沖積地の周辺の洪積台地には黒ボク土が点在し、通常は赤黄色土が分布しており、かんがい水の十分な土地は水田として、不十分な土地は果樹園・普通畑として利用されている。

3-2-4 南丹地域

この地域は府中央部に位置し、北西部は中丹地域に、東部は久多山地によって滋賀県に接し、南東部はおおむね京都盆地によって京都・山城地域に接しており、大半を丹波山地で占められている。また、分水嶺を含み、北半分は由良川およびその支流がほぼ西流し、南半分は大堰川が西流から南流に転ずる地域を含んでいる。

由良川流域は、河岸段丘がよく発達していて、上流にさかのぼるにしたがって、段丘の下に沖積地がみられるようになる。この地域の土壌は、低地には細粒～粗粒質の土壌が分布している。さらに、部分的な排水不良地にグライ土がみられるほかは、おおむね排水は良好で灰色低地土が主として分布している。由良川の上流部の低地には、黒ボク土が広く分布しており、他地域にみられない特徴を示している。台地の土壌は細粒もしくは粗粒質の土壌が多い。台地には黒ボク土がかなり分布しているが、大半がモザイク状に分布しているため、極く一部しか図示できていないが、果樹園・普通畑として利用されている。したがって、赤黄色土が広く分布していて、他地域とは異なり、水の便がよいので主として水田として利用されている。

大堰川流域は、下流部に亀岡盆地、上流部では細長い谷底平地を形成し、沖積地が広がっている。台地は沖積地の周辺部にわずかに点在している。この地域の土壌は、亀岡盆地では花崗岩類の堆積物の影響によって、中粒～粗粒質の土壌が広く分布しているが、支流谷低地等は周辺山地の風化程度などによって、細粒～粗粒質の土壌が混在している。さらに排水の良否等によって区分され、亀岡盆地は排水が比較的良好で灰色低地土が大半を占めているが、支流谷低地では、合流点附近などの排水不良地にグライ土が分布している。さらに一部には黒ボク土が小面積であるが分布している。亀岡盆地北東部には排水の良好な褐色低地土が分布し、畑・水田の混在地域を形成している。他の低地土はほとんどが水田として利用されている。台地の土壌は沖積地の周辺部に点在する洪積台地に一部黒ボク土が分布しているが、水田が多いため図示されていない。のこりは赤黄色土でこの地域も水の便が比較的良好で、ほとんどが水田として利用されている。

3-2-5 京都・山城地域

この地域は府南部に位置し、北西部は丹波山地によって南丹地域と、東部は比叡山地によって滋賀県と、南部は笠置山地周辺で奈良県と、南西部は甘南備丘陵などによって大阪府と接し、その中央部に広大な山

城盆地（京都盆地および木津川河谷の総称）がある。この盆地には、桂川が南流し、木津川が北流し、宇治川が西流し、中央部でこの3河川が合流し、周囲に広大な沖積地を形成している。その周辺には台地および丘陵地が広く分布している。

この地域の土壌は河川上流部の母岩の影響を強く受け、桂川水系では細粒質の土壌を主体に、宇治川・木津川は上流部にある花崗岩類の影響を受け粗粒質の土壌を主体に分布し、その他粒度の土壌も分布している。さらに排水の良否によって区分され、3河川の合流点附近は最近まで巨椋ヶ池が存在していたことで示されるように、排水不良でグライ土が広く分布し、さらに周辺山地・丘陵地のすその湧水地帯にも帯状にグライ土が分布している。合流点から遠ざかった地域は比較的排水が良好で、灰色低地土が分布し、これらは主として水田として利用されている。また、木津川などに沿った排水の良好な自然堤防等には褐色低地土が分布し、茶園・果樹園・普通畑として利用されている。台地の土壌は、山城盆地周辺に広がる洪積台地・丘陵地等に分布し、竹林・茶園等に利用されている。竹林には、長年の客土を行なう土壌管理によって未熟土が形成され、広く分布している。その他の地域は赤黄色土が分布しており、大半は茶園として利用されるほか、水の便のよい所は水田としても利用されている。

3-3 農地土壌

農地の土壌は林地土壌と共通な未熟土、黒ボク土、赤黄色土と、農地土壌でしかみられない褐色低地土、灰色低地土、グライ土、泥炭土があり、詳細は以下に述べる。

3-3-1 未熟土

土壌の生成が十分でなく、層位の分化がほとんどみられない土壌群で成因によって、砂丘未熟土壌と人工未熟土壌の2土壌統群が存在する。

(1) 砂丘未熟土壌

砂丘地および砂州に分布している粗粒質（砂質）の土壌であり、表層の腐植含量は低く、土層の分化は弱い。下層土は彩度の低い黄褐色ないし灰褐色を呈し、ときには灰色を呈していることもある。保水力および肥力は著しく劣り、一部、アルカリ土壌が存在し、農業上、種々の問題をなげかけている。

丹後半島の北岸ないし北西岸、宮津湾の北西岸、粟田湾の南岸、由良川河口などに帯状に分布し、クロマツの防風林の後背地に畑地が分布し、果樹園・普通畑として利用されている。府下のチューリップ球根生産の中心となっている土壌である。

(2) 人工未熟土壌

京都西山丘陵、甘南備丘陵や山城町東部の丘陵などに分布している竹林の土壌である。土壌生成については、林地土壌の項で記述してあるがpHは4.5前後と強酸性を示している。

3-3-2 黒ボク土

火山灰等を母材とした黒色を呈する土壌である。この土層の色相はYR~Y、彩度、明度とも3未満で、容積重が小さく、保水力、塩基置換容量などが大きく、炭素含量が高く、りん酸吸収係数はきわめて大きい。この土壌群には、黒ボク土壌と多湿黒ボク土壌の2土壌統群がある。

(1) 黒ボク土壌

この土壌は、夜久野ヶ原、長田野、似田野、蒲生野など洪積台地ないし丘陵地に集中して分布している。その他の地域にも点在しているが、小面積のため図示することが、できない。普通畑、果樹園、桑園、草地等に利用されているが、生産力は低い。

(2) 多湿黒ボク土壌

上記の土壌等が水による運積によって二次的に堆積したもので、その厚さはおおむね50cm程度であり、下層にグライ層の出現する土壌もある。これは府下各地の黒ボク土壌分布地の周辺の低地に分布し、中丹、南丹地域に比較的多くみられる。ほとんどが水田として利用されているが、生産力は中庸である。

3-3-3 赤黄色土

この土壌群は台地、丘陵地などの上面、緩斜面等に出現し、大半が洪積世堆積であり、1土壌統群がある。

(1) 黄色土壌

表層または次層（作土下）が黄褐色の色調をもつ、細粒～粗粒質の未発達な台地土壌であって、色相はYR～Y、彩度、明度はともに3以上である。府下各地の山麓地、洪積台地および開析谷底に分布している。一部、谷底沖積地の同様色相をもつ褐色低地土も、図上区分不能のためこの土壌に包含している。南丹地域の由良川沿岸の河岸段丘および山城盆地周辺の台地上にまとまって、分布している。南丹地域のこの土壌は水の便がよく、水田として利用されており、その他の地域では主として畑地として利用されている。府下の大半の畑地がこの土壌であり、丹後地域では普通畑、中丹地域では桑園、茶園、南丹地域では果樹園、京都・山城地域では茶園など、地域の特徴を示す作物が栽培されている。この土壌の生産力は中庸もしくはやや低い。

3-3-4 褐色低地土

この土壌群は、表層下に黄褐色の色調をもつ土壌である。色相はYR、彩度、明度はともに3以上が中心である。河川に沿った自然堤防、微高地に分布している排水は良好で、主として畑地として利用されている。生産力のやや低い土壌である。この土壌群は、土性によって褐色低地土壌と粗粒褐色低地土壌の2土壌統群に区分される。

(1) 褐色低地土壌

細粒～中粒質の土壌で、中丹地域の由良川沿岸および京都・山城地域の木津川・桂川沿岸に分布している。前者では、桑園・茶園として、後者では、茶園、普通畑として利用されている。水田としての生産力は高く、桑園・茶園としては、やや高い、が普通畑としては低い土壌である。

(2) 粗粒褐色低地土壌

粗粒質の土壌で、京都・山城地域の木津川沿岸に小面積分布し、砂土の排水良好な特徴を生かして果樹園（ブドウ）等として利用されている。

3-3-5 灰色低地土

表層および次層、または次層が灰色～灰褐色の色調をもつ土壌である。色相はおおむねYR～Y、彩度3未満、明度3以上で、各種形状の斑紋が出現し、また地表下80cm以内にグライ層が出現しない土壌である。府下各地の沖積地に広く分布し、ほとんどが水田として利用されている、生産力の高い土壌である。同時に老朽化水田の大半がこの土壌群に含まれている。この土壌群は地表下50cmの平均土性によって、細粒灰色低地土壌、灰色低地土壌、粗粒灰色低地土壌の3土壌統群に区分される。

(1) 細粒灰色低地土壌

府下各地の沖積地に広く分布し、中丹地域の福知山盆地および京都・山城地域の桂川流域に多く分布しており、ほとんどが水田（乾田）として利用されている。排水がやや不良で、生産力のやや高い土壌であり、一部、老朽化水田を含む土壌である。

(2) 灰色低地土壌

府下各地の沖積地に広く分布し、南丹地域の亀岡盆地、丹後地域の峰山盆地上流部、および京都・山城地域の木津川河谷上流部に多く、ほとんどが水田（乾田）として利用され、排水は中庸で生産力の高い土

壤であり、一部、鉄欠乏等による老朽化水田を含んだ土壌である。

(3) 粗粒灰色低地土壌

地表下50 cm以内の平均土性が粗粒質もしくは、80 cm以内に礫層および砂礫層のある灰色低地土で、府下各地の沖積地に分布し、ほとんどが水田として利用され、排水は良好で生産力のやや高い土壌である。しかし浅耕土、漏水過多、鉄欠乏などによる老朽化水田を多く含んだ土壌である。

3-3-6 グライ土

地表下80 cm以内にグライ層が出現する土壌である。地下水位が高いか排水不良等によって、グライ層をもつ低湿地土壌で、ほとんどが水田として利用されている。水田としては生産力は中庸であるが、畑地としては低い。この土壌統群は地表下50 cmの平均土性によって、細粒グライ土壌、グライ土壌、粗粒グライ土壌の3土壌統群に区分される。

(1) 細粒グライ土壌

丹後地域の半島部山間低地（地すべり台地上を含む）、中丹地域の福知山盆地の丘陵間の低地、京都・山城地域の桂川、宇治川流域の低湿地に分布し、ほとんどが水田として利用されている。土壌の還元化が強く、生産力のやや低い土壌であって、畑利用は不適な土壌である。

(2) グライ土壌

土性が中粒質の土壌で、丹後地域の峰山盆地周辺の谷底沖積地、および京都・山城地域の木津川河谷に主として分布し、ほとんどが水田として利用されている。土壌の還元化が強く、生産力のやや低い土壌で、木津川東岸は湿田となっていて畑利用には不適な土壌である。

(3) 粗粒グライ土壌

地表下50 cm以内の平均土性が粗粒質もしくは80 cm以内から礫層あるいは砂礫層の出現する土壌で、丹後地域の川上谷川下流、峰山盆地、野田川低地下流部、および京都・山城地域の木津川下流部、宇治川両岸や、丘陵地間の谷底に多く分布しており、いずれも、上流部に花崗岩類の地域があって石英砂を多く含む土壌である。ほとんどが、水田として利用されているが、生産力の低い土壌である。

3-3-7 泥炭土

泥炭とは肉眼によって植物繊維が認められる程度に腐朽した植物残滓であるが、府下には泥炭をもつ土層はほとんどみられなく、黒泥層をもった黒泥土壌のみがみられる。

(1) 黒泥土壌

地表下80 cm以内に厚さ30 cm以上の黒色あるいは黒褐色の有機物に富み、その分解が進み植物遺体のこん跡がほとんど認められない層をもち、作土下の土層は一般に灰色～灰褐色を呈している湿潤な土壌である。かつては、沢瀉の湖岸部とみられる沖積地周辺の微高地に存在し、府下各地に分布しているが、いずれも、きわめて小面積のため図示できなく、丹後地域の沖積地周辺部等に小面積であるが図示してある。ほとんどが水田として利用されている。土壌の還元化が強いので、水田においても生産力が低い。

足立健夫（京都府立農業研究所）

Ⅳ 土地利用可能性分級等の概要

4-1 土地利用現況の概要

4-1-1 総説

京都府はわが国のほぼ中央部にあたり、近畿地方の北中部に位置している。

北は福井県、東は滋賀・三重の両県、南は奈良県、西は兵庫・大阪の両府県と接している。南北両端の長さ122km、東西107kmにのびた本府の総面積は461262km²で、全国の1.2%を占めている。

山城盆地を除くと、大部分は1,000m以下の浸食の進んだ老年山地で占められている。

山地は現在浸食の回春を受けていて二輪廻性の地形をなしている。山地地域の中にやや大きな盆地として亀岡盆地と福地山盆地が分布している。これらの盆地には沖積平野がひろがっていて、盆地以外にも河川沿いに細長く分布している。

京都府を流下する河川は、丹波山地の三国岳より佐々里峠・胡麻・観音峠を経て西に延びる線に沿った高地が分水嶺となり、南に流れるものは桂川で、八幡町において宇治川・木津川と合流して淀川となり大阪湾に注いでいる。他方、北流するものは由良川で、丹波山地のブナノキ峠(939m)付近より水源を発生し、美山町を西流して福知山より北東に転じ、若狭湾の一部栗田湾の東端付近に注いでいる。南流する大堰川・宇治川・木津川流域には亀岡盆地及び山城盆地が展開し、本府の穀倉地帯となっている。北流する由良川の流域には、福知山盆地がひろげ、肥沃な水田が形成されている。さらに由良川の沿岸には桑園が細長く分布し、府下一の養蚕地帯が形成されている。またこれら桑園の間には「両丹茶」を生産する茶園が局所的に分布している。

なお、由良川は中丹地域に位置する内陸工業団地として、わが国最大の長田野工業団地への工業用水の供給源として重要な役割を果たしている。京都府には、標高1,000mを越える高山がなく、滋賀県との境にある皆子山(972m)が最も高い。

年平均気温が約13~20℃または標高が約600m以下の地域は暖帯に属している。

したがって京都府の大部分は暖帯に属している。京都府は古くから人が住んでいたため、原生林はきわめて少い。原生林が比較的大規模に残っている地域は雪が多く、交通も不便なために残された美山町の京都大学芦生演習林、急斜面のために造林ができずに残った美山町西部の洞峠付近である。小規模なものとしては、伊根町青島、社寺林として残った大江町内宮の皇大神社の森ヶ城山、大江山、京都市左京区鞍馬山、大悲山などがあるにすぎない。暖帯の低地は市街地や田畑となっているが、山地は天然更新によるアカマツの二次林が多く分布している。

土地利用の現況についてみると、森林の面積は344,916haで、総面積の74.9%を占めている。この内訳は私有林306,824ha(89.0%)、公有林23,470ha(6.8%)、国有林14,622ha(4.2%)となっている。森林の種別面積では針葉樹169,761ha(49.2%)、広葉樹161,646ha(46.9%)、竹林6,502ha(1.9%)、伐採跡地1,478ha(0.4%)、未立木地5,529ha(1.6%)となっている。林種別の面積についてみると、人工林は、89,477haで竹林・伐採跡地・未立木地を除く森林面積の27.0%を占めている。

このうち針葉樹88,683ha(99.1%)、広葉樹794ha(0.9%)となっている。天然林は、241,930haで、竹林・伐採跡地・未立木地を除く森林面積の73.0%を占めている。このうち針葉樹81,078ha(33.5%)、広葉樹16,0852ha(66.5%)となっている(1970年世界農業センサス京都府統計書(林業編)による)。

京都府における森林面積について、昭和30年度と昭和48年度の両者を比較してみると、前者は、352,248 ha、後者は348,056 haであって、ほとんど変化していない。しかし、地域的にみるとかなりの変化が認められる。すなわち、過疎地にあたっては人口の流出、労働力の老化に伴って農地の一部が森林に移行し、他方、都市近郊にあつては、森林が住宅地に開発され、またゴルフ場等の転用がなされ、森林面積が減少している（府林政課資料による。）

私有林の経営規模についてみると、経営規模は零細であり、林家総数45,538戸のうち、5 ha未満の林家数は41,325戸（90.7%）を占め、5～20 haは3,500戸（7.7%）、20 ha以上はわずか713戸（1.6%）にすぎず、その多くは農業との複合経営である（1970年世界農業センサス京都府統計書（林業編）による）。

農地の面積は40,789 haで総面積の8.9%を占める。このうち水田は32,635 ha、普通畑3,732 ha、牧草地56 ha、樹園地（果樹園・桑園・茶園）3,365 haとなっている。農地のうち水田は大半の80.0%を占め、普通畑11.6%、牧草畑0.1%、樹園地8.3%である。草地は173 haで、総面積の0.04%にすぎない。（1970年世界農林業センサス（農業編）による）。

つぎに、昭和48年度における耕地の利用状況及び農作物の作付面積についてみると、耕地の利用状況については、水稻29,600 ha、野菜6,550 ha、果樹1,800 ha、工芸作物1,800 ha、豆類1,200 ha、飼料作物858 ha、桑755 ha、春植えバレイシヨ495 ha、カンシヨ382 ha、麦類73 ha、雑穀8 haで、水稻は府下農業の基幹作物となっている。

農作物の作付面積（200 ha以上）については水稻29,600 ha、茶1,600 ha、クリ702 ha、タケノコ700 ha、ダイコン676 ha、ダイズ663 ha、キャベツ531 ha、春植えバレイシヨ495 ha、アズキ477 ha、カキ452 ha、ナス398 ha、カンシヨ382 ha、牧草（マメ科・イネ科）378 ha、ハクサイ366 ha、キュウリ365 ha、ネギ261 ha、ニンジン226 ha、ミカン224 ha、タマネギ223 ha、レンゲ220 ha、スイカ215 ha、青サヤインゲン209 ha、トマト203 haなどである。（近畿農政局統計情報部編：京都農林水産統計年報、昭48～49年、昭50年3月刊による）。

農地面積の推移についてみると、昭和45年現在の農地面積は40,789 haであるが、昭和30年の農地面積46,352 haを100とすると、昭和45年の指数は88.0となり、農地面積はかなり減少している（1970年世界農林業センサス（農業編）による）

農地の他用途への転用状況をみると、昭和42年以降毎年400～600 haが転用され、特に、住宅用地・工場用地への転用が多くなっている。（京都府農政流通課資料による）

都市計画区域の現状についてみると、都市計画が定められている市町は10市15町である。市街化区域内には5,556 haの農地が存在しており、これらの農地は都市化のなかで、急速に失われつつある緑地空間を提供することにより、都市住民の生活環境の保全に寄与している。（京都府土地利用基本計画（案）昭和50年3月による）

以下地域別に記述する。

4-1-2 各 説

4-1-2-1 丹後地域

山陰海岸国立公園及び若狭国定公園を含む本地域の山地は、スギ・ヒノキなどの人工造林がきわめて少ない。

丹後半島と南部に分布する花こう岩地帯では、天然更新によるアカマツの二次林が広く分布している。丹後半島に分布する新第三紀層及び安山岩地帯では、コナラなど落葉広葉樹の二次林が比較的広い面積を

占めているが、この中には、アカシデ、イヌシデなどの群落もみられる。丹後半島北東部には新第三紀堆積岩及び安山岩質火山岩・火山砕屑岩からなる北但層群が分布しており、その地帯の谷沿いではケヤキ・カラスザンショウ・エノキなどの落葉樹の混交林がみられる。

丹後半島の内陸部にも少面積ではあるが、ネムノキ・コナラ・クリなどの混交林がみられる。また、丹後半島の経ヶ岬東部には、エノキ・カラスザンショウなどの混交するケヤキ林が発達し、内陸部にも少面積ながら続いている。

久美浜町の湊宮から網野町浜詰にかけての海岸砂丘地では、治山工事により防風林として植栽されたクロマツ林がよく発達している。本地域内には蛇紋岩が分布しているが、ヒュウガミズキなどが分布し、アカマツの疎林がみられる。

若狭湾内の青島のシイ林は沿岸地帯の典型的な自然植生として残存保護されている。

本地域の農業は川上谷川・佐濃谷川・竹野川・野田川の各流域に分布する水田を中心としているが、水稻単作である。

水稻栽培は従来、丹後機業と結合して地域の基幹作物としての最高の地位を保っている。水稻に次いで野菜があげられるがスイカ・秋冬キャベツ・冬ダイコンなどが主なものである。このほかにはチューリップ球根・野菜採種・葉タバコ・果樹（ブドウ・ナシ・ミカン）などが栽培されている。

砂丘地では、チューリップ球根（促成栽培用球根）が特産物としてこの地域の中心的な地位を保っているが、水田裏作への産地拡大も行われ、高収益換金作物として大きな比重を占めている。丹後半島では、地すべり地帯に形成された湿田が点在しているが、水稻単作である。なお丹後半島の東部では、対馬暖流の支流と若狭湾流が還流しており、その影響によって冬期温暖な気候を示しているため、宮津市及び伊根町の海岸付近ではミカン栽培が行われている。

4-1-2-2 中丹地域

本地域における主要な林業地帯は北東部の綾部市の上林谷・西部の夜久野町・舞鶴市の由良川筋などでありスギ・ヒノキなどの人工造林地が広く分布している。

北部から南部にかけての小起伏山地及び大起伏丘陵地の大部分はアカマツ林とコナラの落葉広葉樹の二次林で占められている。

舞鶴市の若狭湾の沿岸には竹林が広く分布している。タケの種類としてはモウソウチクが最も多く、次いでマダケである。

マダケは広葉樹の間に混生し、良竹を生産しているが、成立本数は少ない。

タケノコも生産されているが、京都・山城地域のように施肥・客土などの人為的な肥培管理が行われないので品質は劣っており、黒味がかかっている。若狭湾内の島々（冠島・蛇島）にはシイ林が発達しているがタブ・モチノキ・ヤブツバキ・ヤブニッケイなどが混交している。

大浦半島の三浜・野原のシイ林及び加佐郡大江町内宮の皇大神社（元伊勢）裏山のシイ林は自然植生として貴重である。

加佐郡大江町内宮の城山原生林は暖帯上部のウラジロガシ林として興味深いものである。大江山鬼岳稻荷神社の社叢には、裏日本型のブナ林の小規模なものが残存している。

本地域での特用林産物としておもなものはマツタケ・丹波グリなどがあるが、このほかに夜久野町のナメコ、舞鶴市のワサビなどが生産されている。

本地域の昭和49年度におけるマツタケの生産量についてみると、京都府総生産量137.31トンのうち、28.7トン（20.9%）が生産されているが、年々減少の傾向にある。

クリについては、丹波グリの名で東京・大阪方面にまで名声を博し、全国的に優位に保っている。しか

し、経営規模は一般に零細で、生産性は必ずしも高くない。

昭和49年度におけるクリの栽培状況についてみると、京都府のクリ栽培面積1483.71ha、生産量1107.51トンのうち、本地域での栽培面積は639.9ha(43.1%)、生産量は691.6トン(62.4%)となっている(京都府林政課調べ)

本地域の主要な農業地域は、由良川流域に広がった福知山盆地を中心としている。

基幹作物としてはまず水稻があげられ、次いで畜産の順であるが、ほかに野菜・養蚕などがあげられる。

水田は大部分が水稻単作であるが、綾部市を中心として水稻跡作の冬キャベツの栽培が定着しており、集団化とともに共同出荷体制が確立している。畜産では肉牛肥育・酪農・養鶏(特にブロイラー)などが行われている。桑園は福知山盆地及び由良川下流河谷の自然堤防上に分布しているが、土壌流亡防止をかねた洪水対策として重要な役割を果たしており、古くから府下最大の養蚕の主産地が形成されている。

近年は桑園の間に茶園が導入され、府北部の核に発展し、桑園及び茶園複合の土地利用が行われている。若狭湾に臨む大浦半島には、若狭湾流による冬期の温暖気候を利用したミカン栽培が行われている。更に、この地域の洪積台地や丘陵地などは、里山開発による桑園やクリ園の新規造成が伸展している。

4-1-2-3 南丹地域

本地域は森林帯からみると大部分が暖帯林に属し、一部には温帯落葉樹が出現している。主要樹種についてみると針葉樹ではスギ・ヒノキ・アカマツが、広葉樹ではコナラ・クヌギなどの落葉広葉樹が大部分を占めている。美山町・京北町でのスギは大部分が人工植栽であるが、土壌生産力の高いところでは、山腹上部近くまで植栽されており、その生育は良好である。ヒノキはスギ適地の周辺を中心に植栽されている。

京北町を中心にアカマツ天然生林と混交するヒノキの天然生林が一部に分布している。

アカマツは奥地を除く地帯から里山にかけて広く分布しているが、京北町ではその生育は特に良好である。

丹波山地の東部では暖帯上部から温帯下部にかけてアシウスギの天然生林が分布している。これらは温帯下部に入って、温帯性樹種のミズナラ・イヌブナなどの混交しているが、落葉広葉樹林のアカシデ・イヌシデなどの群落もみられる。

本地域の中・南部の丹波町・園部町・八木町・亀岡市にかけての小起伏山地及び小起伏丘陵地ではアカマツの二次林が広く分布し、アカマツの林業振興地帯を形成している。

特用林産物としては、マツタケ・丹波グリなどが生産されているが、このほかには美山町のナメコ、和知町・美山町にはワサビが栽培されている。

本地域の昭和49年度におけるマツタケの生産量についてみると、93.4トン(京都府総生産量の68.7%)を生産している。

クリについては、栽培面積413ha(京都府栽培面積の34.0%)、生産量376.11トン(京都府生産量の27.8%)となっている。(京都府林政課調べ)

本地域は府下の穀倉地帯であり、基幹作物としては水稻・野菜・果樹・乳用牛・肉用牛・豚などがあげられるが、水稻はこれらの柱となっている。

野菜についてはトマト・キュウリ・ニンジン・キャベツ・タマネギ・イチゴなどが栽培され、生産の伸びの著しい傾向がみられる。

近年、都市化の進行に伴ない、都市近郊農業の性格を帯び京阪神の大消費地への野菜産地として発展しつつある。

畜産では、丹波町に草地をもつ大規模酪農が存在するが、園部町・八木町・亀岡市では乳用・肉用牛・豚などの多頭飼育の産地形成がみられる。特産物としては丹波黒ダイズ・丹波大納言アズキ・丹波グリなどがあげられる。これらに加えて近年、スグキ菜の栽培が普及しつつある。

丹波グリは主として山麓地を利用して栽培されているが、洪積台地や丘陵地などでは里山開発による新規造成園がみられ、特に瑞穂町には開拓パイロット事業による約75 haのクリ園が造成されている。

4-1-2-4 京都・山城地域

本地域における森林の主要樹種は針葉樹ではスギ・ヒノキ・アカマツ・アスナロ、広葉樹ではクヌギ・コナラを含む落葉広葉樹が大部分で、ところによりカシ・ソヨゴなどの常緑広葉樹がみられる。

スギは大部分が人工植栽であるが、北部の花背・広河原地区には伏条更新による天然生林がみられる。人工造林地は京都盆地の東縁及び西縁部の小起伏丘陵地を除いて、一般に肥沃地に造成されている。

大堰川上流及び和東川流域の古生代の固結堆積物（粘板岩・チャート・ホルンフェルスなど）を主とする地帯では、特に生育が良好である。京都市北区小野郷・中川・鷹ヶ峰・梅ヶ畑及び右京区雲ヶ畑の地区では北山林業地帯が形成されている。

この地区では古くから独特の台スギ（株スギ）を仕立て更新する台スギ林業が行われ、磨丸太（北山磨丸太）を生産し、その声価は全国的に知られている。

ヒノキはすべて人工林であり、スギ適地の周辺に植栽されている。

アカマツは山城盆地周辺の小起伏丘陵地及び南部の花こう岩・片麻岩地帯を中心として広く分布しているが、天然下種更新・伐採を繰り返して形成された二次林となっている。

本地域の中・東部に分布している宇治丘陵には、山砂利採取場やゴルフ場などの林地転用がみられ、山肌ははげしく荒れている。

タケ（主としてモウソウチク）は、山城盆地周辺の京都西山丘陵を中心に、南部の小起伏丘陵地に分布している。

京都西山丘陵の竹林では人工角竹・人工斑竹・ゴマ竹・亀甲竹などの銘竹の生産が行われている。近年急激な宅地造成の影響をうけて、竹林の潰廃が目立ち、その面積は減少している。

シイタケについては農山村の大きな所得源となっているが、昭和49年度の京都府における生シイタケの生産量は584.58トンであるが、このうち南部の相楽郡（精華町は除く）では243.5トン（京都府生産量の42.4%）が生産され、共同出荷が行われている。（京都府林政課調べ）

特用林産物としては加茂町にワサビ、大山崎町ではナメコが栽培されている。

本地域における農業生産の基幹作物としては水稻・野菜・茶・養鶏（採卵）・シイタケ・タケノコ・花きなどであるが、水稻が中心となっている。近年、都市開発に伴う農地の潰廃、用水の量質、両面にわたる劣悪化など農業生産条件の悪化が特に目立っている地域である。野菜生産は都市化のなかにあって、都市近郊の有利性を生かした田畑輪換形態による露地野菜の高度輪作体系が古くから確立されている。京都市北部・南部・宇治市、乙訓郡、久世郡の域帯は古くから京都市場へ供給する大きな都市近郊園芸地帯が形成され、乙訓タケノコ・スグキ・クワイ・鳥羽キャベツ・九条ネギ・金時ニンジン・乙訓ナス・淀ダイコンなど歴史的に豊富な特産野菜が生み出されている。

都市部農業地域の縮小に伴ない、前記の作物などは周辺地域へ産地が徐々に移動している。都市近郊園芸地帯の性格を帯びつつあるものとしては精華町のイナゴ、南山城村の抑制トマト、山城町・木津町の山城タケノコなどがあげられる。

木津川の両岸には「アラス」とよばれる粗粒質土壌の微高地が点在しているが、ダイコン・カンショ・ナン・イチジクなどの産地を形成している。

近年、京都市を中心として果菜類に加えて軟弱野菜の水耕・レキ耕を含む施設園芸や花き栽培などが普及している。

本地域における最大の特産物である茶は宇治市を中心として生産されているが、近年、この地帯の茶園は都市化によって縮小されているが、宇治田原町・和束町・南山城村などでは里山開発による新規茶園造成が伸展し、この地帯への産地移動がみられる。

香 山 達 男 (京都府林業試験場)
足 立 健 夫 (京都府立農業研究所)

4-2 土地利用可能性分級の地域別の概要

土地利用可能性分級は標高、傾斜・土壌生産力可能性等級によって決定されるが、京都府では1類地より8類地に区分することができる。これらの類地について、分布面積の多いものから並べてみると4・3・8・2・5・6≒7・1類地の順になる。

府下において最も多い類地は4類地であって、面積は2,004 km²、本府全面積の4.3.5%を占めている。本類地は府下全域にわたって林地に広く分布している。

土地利用可能性分級の示性式については1.4.1、1.4.3、2.4.3などが多く、標高は800 m以下、傾斜はS₄ (15°~30°)、土壌生産力等級区分はP₁またはP₃である。

4類地に次いで多いのは3類地であり、面積は1,354 km²、本府全面積の29.4%を占めている。4類地と同様府下全域にわたり林地に広く分布しているが、一部畑地及び樹園地などにも分布がみられる。

示性式は1.1.3、1.2.3、1.3.1、1.3.3などが多く、標高は400 m以下、傾斜はS₁~S₃ (0°~15°)、土壌生産力等級区分はP₃である。4類地及び3類地に次いで多い類地は8類地(未区分地)であり、面積は757 km²、本府全面積の16.4%を占めている。

8類地に次いで2類地があげられるが、その面積は251 km²、本府全面積の5.4%を占めている。本類地における標高は400 m以下、傾斜は8°以下で、土壌生産力等級区分はP₁ないしP₂である。

林地では示性式1.2.1で区分される褐色森林土壌が府下全域にわたって分布している。

水田では福知山盆地・亀岡盆地・山城盆地(京都盆地を含む)など三角州性低地に広く分布しているが、細粒灰色低地土壌ないし灰色低地土壌で、示性式は1.1.2、1.2.2などである。5・6・7・1類地については、いずれも本府全面積の5%以下である。

5類地の面積は205 km² (4.4%)、示性式は1.5.1、1.5.3、2.3.4、2.4.4、2.5.3などである。6類地及び7類地の面積はいずれも17 km² (0.4%)であり、6類地の示性式は1.2.5、1.5.5で、7類地の示性式は1.2.0、1.3.0、1.4.0、1.5.0、2.3.0、2.4.0などである。

1類地については類地のうち最も少なく、面積は4 km²、本府全面積の0.1%にすぎない。この類地は農地と接する傾斜の緩やかな山麓地に局所的に点在している。

土壌生産力はP₁で、土壌統群は褐色森林土壌、土壌型はB_D型土壌(適潤性褐色森林土)である。

林地における土壌生産力可能性等級区分基準の概略は次のとおりである。

P₁ : 土壌統群の褐色森林土壌で、土壌型ではB_D(d)型土壌(適潤性褐色森林土 - 偏乾亜型)、B_D型土壌(適潤性褐色森林土)、B_P型土壌(湿性褐色森林土)

P₂ : 林地では該当なし

P₃ : 人工未熟土壌、黒ボク土壌、京都市左京区・北区・右京区・南丹地域以北の乾性褐色森林土壌、乾性褐色森林土壌(黄褐色系)、乾性褐色森林土壌(赤褐色系)

P₄ : 岩屑性土壌、残積性未熟土壌、砂丘未熟土壌、京都市東山区・伏見区及び山城地域の乾性褐色森林土壌、乾性ポドゾル化土壌、赤色土壌、暗赤色土壌

P₅ : 岩石地、粗粒残積性未熟土壌

農地における土壌生産力可能性等級区分基準については次のとおりであるが、農地ではP₁・P₄・P₅の分布にみられず、P₂及びP₃である。

P₂ は水田、P₃ は水田・畑地・樹園地に分布している。

P₂ : 多湿クロボク土壌、細粒灰色低地土壌、灰色低地土壌

P₃ : 人工未熟土壌、黒ボク土壌、黄色土壌、褐色低地土壌、粗粒褐色低地土壌、粗粒灰色低地土壌、細粒グライ土壌、グライ土壌、粗粒グライ土壌、黒泥土壌

4-2-1 丹後地域

本地域に分布する類地のうち最も多い類地は3類地(面積397km²、地域全面積の47.2%)であり、4類地(面積245km²、地域全面積の29.1%)これに次いでいるが、1類地と6類地の分布はみられない。

丹後半島及び栗田半島の日本海及び若狭湾沿岸部の海食崖の岩石地は1.20、1.30、1.40などの7類地になっている。

大江山の北側斜面にわずか分布している岩屑性土壌は1.43の4類地に分類される。

丹後半島の北岸ないし北西岸及び官津湾の北西岸、栗田湾の南岸などに分布している砂丘土壌はP₄、傾斜はS₁(0°~3°)で、示性式は1.14の4類地である。

砂丘地の周辺に分布している黄色土壌の果樹園(ナシ・ブドウ)は示性式1.23、1.33などの3類地になっている。

中丹地域に接する南部の中・小起伏山地に分布している暗赤色土壌は傾斜はS₄(15°~30°)、P₄で示性式1.43、1.44、2.43などの4類地及び2.44の5類地に分類される。川上谷川、佐濃谷川、竹野川、野田川流域など三角州性低地では示性式1.12、1.22の2類地及び1.13の3類地の水田が広く分布している。なお、これら河川流域以外の水田では示性式1.23、1.32、1.33、2.32などの3類地となっている。

なお、丹後半島の北東部では示性式1.42、1.43、2.23、2.43など4類地の棚田がわずかにみられる。

4-2-2 中丹地域

本地域において最も多い類地は4類地(面積511km²、地域全面積の41.2%)であり、3類地これに次ぎ、面積は463km²(37.3%)であるが、6類地の分布はみられない。南部に分布している長田野工業団地(造成面積400.6ha)がみられる残積性未熟土壌の長田野洪積台地は、示性式1.24の4類地であり。中・南部の小起伏山地、大起伏丘陵地に分布している乾性褐色森林土壌(赤褐系)のアカマツ林及び落葉広葉樹林は示性式1.33の3類地ないし1.43の4類地となっている。

北東部の小起伏山地、大起伏丘陵地に分布している赤色土壌のアカマツ林及び落葉広葉樹林は示性式1.24、1.34に区分される4類地である。

由良川流域に分布する黄色土壌の桑園は示性式1.13、1.23の3類地である。

福知山盆地の由良川流域に分布している三角州性低地は細粒灰色低地土壌ないし灰色低地土壌の水田が多く、示性式は1.12、1.22などの2類地であり、盆地の周辺部には1.13、1.23、1.32、1.33など3類地の水田が広く分布している。

4-2-3 南丹地域

本地域で最も多い類地は4類地(面積786km²、地域全面積の57.7%)で、3類地はこれに次いで

多く、面積は270km²（19.8%）であるが、1類地の分布はみられない。北東部から北西部にかけての中・小起伏山地の丹波山地では、傾斜はS₄（15°～30°）、示性式1.41、2.41の4類地及び傾斜はS₅（30°～40°）、示性式1.51、2.51などの5類地が広く分布している。

中部から南部にかけて分布している乾性褐色森林土壌（赤褐色系）のアカマツ林は示性式1.23、1.33の2類地及び1.43の4類地となっている。

小起伏丘陵地など局所的に点在しているクロボク土壌の林地及び普通畑は、示性式1.13、1.23の3類地に区分される。

なお、中起伏山地の一部に、示性式2.43に区分される4類地の黒ボク土壌が点在している。北部の福井県と境を接する中起伏山地の乾性ポドゾル化土壌は、示性式2.44の5類地ないし3.44の6類地に区分される。

亀岡盆地の三角州性低地の水田では、示性式1.12の2類地が広く分布している。

4-2-4 京都・山城地域

本地域において最も多い類地は4類地であり、面積462km²（地域全面積39.6%）で、8類地はこれに次いで多く、面積は325km²（27.9%）であり、他の3地域に比して8類地の面積が多くなっている。

京都市東南部に分布し、山砂利採取場やゴルフ場が多くみられる粗粒残積性未熟土壌の宇治丘陵の林地は、示性式1.25、1.55などの6類地に区分される。

京都盆地西縁の京都西山丘陵と山城盆地の東縁・西縁に分布している竹林（モウソウチク）の人工未熟土壌の示性式は1.13、1.23、1.33などの3類地に区分される。

京都北山の中・小起伏山地の大部分は示性式2.31の3類地ないし1.41、2.41などの4類地に区分されるが、なかには傾斜S₅（30°～40°）の1.51、2.51などの5類地がわずかにみられる。

南部（南山城）の小起伏山地、小起伏丘陵地などに分布している黄色土壌の茶園は示性式1.23、1.33の3類地ないし2.33の4類地に区分される。

山城盆地（京都盆地を含む）の三角州性低地では、細粒灰色低地土壌及び灰色低地土壌の示性式1.12の2類地ないし粗粒灰色低地土壌・細粒グライ土壌・グライ土壌・粗粒グライ土壌など示性式1.13の3類地の水田が広く分布している。

なお、2類地の水田は、都市近郊農業としての有利性を生かして、田畑輪換形態の農用地として利用されている。

香 山 達 男（京都府林業試験場）

足 立 健 夫（京都府立農業研究所）

B. 統 計 の 部

1 土地利用現況

1-1 土地利用現況市町村別内訳

		農 地								草 地				未 利 用 草 地 (原 野)
		田			畑					農 地 計	利 用 草 地			
		普 通 田	特 殊 田	計	普 通 畑	牧 草 畑	樹 園 地				永 牧 草 年 地	自 然 草 地	計	
							果 樹 園	桑 園・茶 園・その他	計					
京 都 市		3,429	6	3,435	470	8	86	301	387	4,300	-	-	5	-
福 知 山 市		2,172	-	2,172	346	8	41	280	321	2,847	-	-	9	-
舞 鶴 市		1,525	-	1,525	398	2	72	64	136	2,061	-	-	2	-
綾 部 市		2,573	-	2,573	516	5	79	163	242	3,336	-	-	6	-
宇 治 市		449	-	449	50	-	1	76	77	576	-	-	1	-
宮 津 市		889	-	889	188	1	68	6	74	1,152	-	-	4	-
亀 岡 市		3,145	-	3,145	107	-	43	8	51	3,303	-	-	1	-
城 陽 市		494	1	495	129	1	52	31	83	708	-	-	1	-
向 日 市		238	-	238	12	-	2	76	78	328	-	-	-	-
長 岡 京 市		279	-	279	24	1	8	108	116	420	-	-	-	-
9 市 計		15,193	7	15,200	2,240	26	452	1,113	1,565	19,031	-	-	29	-
市 部 計		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
乙 訓 郡	大 山 崎 町	54	-	54	3	-	-	4	4	61	-	-	-	-
久 世 郡	久 御 山 町	557	-	557	104	-	12	5	17	678	-	-	-	-
綴 喜 郡	八 幡 町	684	-	684	112	-	18	75	93	889	-	-	-	-
	田 辺 町	929	-	929	106	2	5	74	79	1,116	-	-	-	-
	井 手 町	154	-	154	13	-	34	45	79	246	-	-	-	-
	宇 治 田 原 町	266	-	266	26	-	2	210	212	504	-	-	-	-
相 楽 郡	山 城 町	239	-	239	90	-	12	91	103	432	-	-	-	-
	木 津 町	449	-	449	83	-	28	35	63	595	-	-	2	-
	加 茂 町	495	-	495	102	1	28	60	88	686	-	-	-	-
	笠 置 町	59	-	59	18	-	3	5	8	85	-	-	-	-
	和 東 町	225	-	225	12	-	1	265	266	503	-	-	-	-
	精 華 町	565	-	565	41	-	-	5	5	611	-	-	-	-
北 条 郡	南 山 城 村	255	-	255	24	-	7	104	111	390	-	-	1	-
	京 北 町	687	-	687	41	-	1	-	1	729	-	-	2	-
船 井 郡	美 山 町	546	-	546	120	-	10	2	12	678	-	-	9	-
	園 部 町	995	-	995	42	-	16	3	19	1,056	-	-	-	-
	八 木 町	901	1	902	40	-	3	-	3	945	-	-	-	-
	丹 波 町	738	-	738	145	4	17	5	22	909	-	-	1	-
	日 吉 町	570	-	570	80	10	11	3	14	674	-	-	4	-
	瑞 穂 町	639	-	639	105	-	37	7	44	788	-	-	-	-
天 田 郡	和 知 町	404	-	404	41	-	67	5	72	517	-	-	-	-
	三 和 町	425	-	425	125	1	54	20	74	625	-	-	2	-
	夜 久 野 町	445	-	445	72	-	83	16	99	616	-	-	1	-
与 謝 郡	大 江 町	439	-	439	86	7	12	155	167	699	-	-	2	-
	加 悦 町	543	-	543	39	-	1	4	5	587	-	-	-	-
	岩 滝 町	87	-	87	9	-	1	-	1	97	-	-	-	-
	伊 根 町	343	-	343	86	-	9	9	18	447	-	-	-	-
中 郡	野 田 川 町	448	-	448	33	-	1	-	1	482	-	-	-	-
	峰 山 町	798	1	799	89	-	1	1	2	890	-	-	1	-
竹 野 郡	大 宮 町	699	-	699	71	-	-	-	-	770	-	-	-	-
	網 野 町	491	-	491	117	-	24	-	24	632	-	-	-	-
	丹 後 町	473	-	473	123	-	1	9	10	606	-	-	1	-
熊 野 郡	弥 栄 町	574	-	574	80	-	3	8	11	665	-	-	1	-
	久 美 浜 町	1,260	-	1,260	218	1	64	4	68	1,547	-	-	-	-
郡 部 計		17,436	2	17,438	2,496	26	566	1,229	1,795	21,755	-	-	27	-
京 都 府 計		32,629	9	32,638	4,736	52	1,018	2,342	3,360	40,786	-	-	56	-

1970年世界農業センサス京都府統計書
経営耕地面積

草 地 計	林						地					宅 地	公 共 の 用 地	合 計
	人 口 林			天 然 林			未 立 木 地			竹 林 伐 採 跡 地	森 林 計			
	針 葉 樹	広 葉 樹	計	針 葉 樹	広 葉 樹	計	採 用 地 利 用 放 牧 土	そ の 他	計					
5	12961	10	12971	11635	15193	26828	2	138	140	1033	40972	6955	8829	61061
9	5318	70	5388	3729	8723	12452	6	332	338	484	18662	709	4216	26443
2	6152	33	6185	2710	16194	18904	-	321	321	1407	26817	1075	4123	34078
6	8701	-	8701	3327	13963	17290	3	383	386	423	26800	522	4185	34849
1	445	6	451	2154	969	3123	1	20	21	105	3700	869	1583	6729
4	2318	2	2320	1773	7904	9677	-	726	726	381	13104	297	2412	16969
1	2629	132	2761	8994	3716	12710	1	75	76	210	15757	658	2812	22531
1	67	-	67	665	186	851	-	13	13	58	989	383	1150	3231
-	1	-	1	9	6	15	-	-	-	96	112	293	67	800
-	71	-	71	304	203	507	-	3	3	151	732	467	305	1924
29	38663	253	38916	35300	67057	102357	13	2011	2024	348	147645	12228	29682	208615
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	15	-	15	35	51	86	-	1	1	95	197	158	204	620
-	9	-	9	21	-	21	-	1	1	-	31	267	414	1390
-	10	-	10	81	61	142	-	2	2	135	289	331	842	2351
-	104	-	104	877	380	1257	-	2	2	221	1584	348	1313	4361
-	416	-	416	500	123	623	-	48	48	92	1179	77	283	1785
-	1939	5	1944	1940	713	2653	-	31	31	46	4674	68	605	5851
-	212	-	212	483	468	951	-	2	2	241	1406	122	516	2476
2	42	-	42	321	261	582	-	2	2	109	735	126	859	2317
-	199	-	199	751	702	1453	-	37	37	61	1750	98	1079	3613
-	827	2	829	172	919	1091	-	7	7	18	1945	23	321	2374
-	2023	3	2026	1514	1403	2917	-	12	12	43	4998	73	876	6450
-	7	1	8	593	315	908	-	1	1	57	974	107	871	2563
1	176	1	777	1198	2857	4055	2	19	21	15	4868	43	1069	6371
2	8268	3	8271	4637	7160	11797	-	80	80	149	20297	124	631	21783
9	10096	11	10107	3497	17177	20674	7	503	510	403	31694	92	1508	33981
-	1125	60	1185	4271	2654	6925	-	30	30	82	8222	198	772	10248
-	690	12	702	2138	341	2479	-	23	23	93	3297	157	524	4923
1	806	23	829	2306	2248	4554	1	65	66	62	5511	158	849	7428
4	3095	14	3109	3044	4589	7633	-	91	91	63	10896	81	727	12382
-	2205	98	2303	2694	4024	6718	1	115	116	104	9241	108	865	11002
-	3098	85	3183	920	6288	7208	3	134	137	157	10685	88	689	11979
2	1633	105	1738	884	4720	5604	2	91	93	78	7513	75	815	9030
1	3819	74	3893	326	3780	4106	1	173	174	209	8382	71	1085	10155
2	2282	38	2320	515	4368	4883	2	99	101	244	7548	77	1320	9646
-	877	-	877	931	2461	3392	-	252	252	112	4633	89	630	5939
-	102	-	102	75	629	704	-	3	3	25	834	104	147	1182
-	854	2	856	546	2796	3342	-	299	299	108	4605	40	1124	6216
-	439	-	439	723	1232	1955	-	35	35	64	2493	177	420	3572
1	404	-	404	1454	2741	4195	-	156	156	40	4795	171	910	6767
-	429	-	429	1519	3266	4785	-	9	9	65	5288	155	667	6880
-	828	1	829	1745	2766	4511	-	76	76	91	5567	235	1158	7532
1	514	-	514	1160	2518	3678	-	513	513	128	4833	87	992	6519
1	624	-	624	1187	3881	5068	2	282	284	61	6037	90	1183	7976
-	1253	3	1256	2720	5902	8622	-	290	290	161	10329	157	2452	14485
27	50020	541	50561	45778	93794	139572	21	3484	3505	3632	197270	4375	29220	252647
56	88638	794	89432	81078	160851	241929	34	5495	5529	7980	344915	16603	58902	461262

1970年世界農林業センサス京都府統計書(林業編)
計画森林面積

地方課
49.1.1
国土地理院
48.10.1

1 - 2 D.I.D. おおむね10万人以上の都市の土地利用現況の内訳

区分 市	市 街 地 の 内 訳							
	商 業 区	工 業 区			住 宅 区	そ の 他		
		重 工 業 地	軽 工 業 地	計		漁 業 区	運 輸 区	公 共 区
京 都 市	925	106	1,403	1,509	6,295			4,861
合 計								

注1. D.I.D. (Densely Inhabited Districts)は、総理府統計局が行なっている国勢調査口密度1平方キロメートルあたり約4,000人以上の調査区)が市区町村内でたがいに隣接して、りをいう。

注2. 商業区は、10軒中7軒が商業的状态にあるところ。

注3. 工業区は重工業区と軽工業区にわかれ、重工業区は金属工業、金属製品工業、機械工業、化学

		市 街 地 外 の 内 訳							合 計
計	市 街 地 計	農 地	草 地	林 地	宅 地	公 共 用 地	そ の 他	計	
4,861	13,590	4,300	5	40,972	660	1,534		47,471	61,061

における「人口集中地区」を意味する。人口集中地区とは、原則として、人口密度の高い調査区（人
3和39年10月1日現在、人口5,000人以上の地域を構成している場合、これらの調査区の集ま

食品工業、化学工業

2. 自然的土地条件

2-1 傾斜区分別面積市町村別内訳

市町村		傾斜区分							計
		0～3°	3～8°	8～15°	15～20°	20～30°	30～40°	40°～	
京	都	165	31	85	134	172	24	—	611
福	知	29	86	60	29	55	5	—	264
舞	鶴	27	14	67	132	91	10	—	341
綾	部	28	105	97	97	21	—	—	348
宇	治	21	16	15	11	1	3	—	67
宮	津	14	17	67	48	24	—	—	170
亀	岡	58	11	64	61	29	2	—	225
城	陽	18	13	1	—	—	—	—	32
向	日	8	—	—	—	—	—	—	8
長	岡	11	1	4	3	—	—	—	19
(市部計 A)		(379)	(294)	(460)	(515)	(393)	(44)	(—)	(2,085)
乙訓郡	大山崎町	5	0	—	1	—	—	—	6
久世郡	久御山町	14	—	—	—	—	—	—	14
綴喜郡	八幡町	15	7	2	0	—	—	—	24
	田辺町	14	27	2	0	1	—	—	44
	井手町	4	2	9	3	—	—	—	18
	宇治田原町	1	19	26	6	4	3	—	59
相楽郡	山城町	7	10	3	5	—	—	—	25
	木津町	9	14	0	0	—	—	—	23
	加茂町	8	23	1	4	—	—	—	36
	笠置町	0	1	9	5	9	—	—	24
	和束町	0	10	37	17	1	—	—	65
	精華町	8	18	0	0	—	—	—	26
	南山城村	0	26	19	13	6	—	—	64
北条郡	京北町	2	9	35	68	80	24	—	218
	美山町	1	17	7	86	174	55	—	340

市町村		傾斜区分							計
		0～3°	3～8°	8～15°	15～20°	20～30°	30～40°	40°～	
船井郡	園部町	14	7	43	25	13	—	—	102
	八木町	14	7	7	7	13	1	—	49
	丹波町	13	17	18	21	4	1	—	74
	日吉町	2	20	24	26	46	6	—	124
	瑞穂町	7	33	33	31	4	2	—	110
	和知町	0	20	17	47	28	8	—	120
天田郡	三和町	0	23	38	21	8	—	—	90
	夜久野町	5	15	32	37	12	1	—	102
加佐郡	大江町	7	27	20	22	18	2	—	96
与謝郡	加悦町	11	10	14	13	10	1	—	59
	岩滝町	3	0	4	4	1	—	—	12
	伊根町	7	2	17	25	11	—	—	62
	野田川町	11	0	18	4	3	—	—	36
中郡	峰山町	11	19	26	10	2	—	—	68
	大宮町	8	12	38	7	4	—	—	69
竹野郡	網野町	5	17	30	21	2	—	—	75
	丹後町	4	14	22	18	7	—	—	65
	弥栄町	8	11	31	12	18	—	—	80
熊野郡	久美浜町	16	47	38	32	12	—	—	145
(郡部計 B)		(234)	(484)	(620)	(591)	(491)	(104)	(—)	(2524)
合計 (A+B)		613	778	1,080	1,106	884	148	—	4,609

2-2 標高区分別面積市町村別内訳

(単位: Km²)

市町村		標高区分(m)						計
		0 ~100	100~200	200~400	400~600	600~800	800~	
京	都	150	57	98	162	116	28	611
福	知	81	75	80	25	3	—	264
舞	鶴	116	127	86	12	0	—	341
綾	部	39	127	105	65	12	0	348
宇	治	27	13	26	1	—	—	67
宮	津	44	44	54	25	3	—	170
亀	岡	18	73	104	24	6	—	225
城	陽	21	9	2	—	—	—	32
向	日	8	—	—	—	—	—	8
長	岡	12	3	4	—	—	—	19
(市部計 A)		516	528	559	314	140	28	2,085
乙訓郡	大山崎町	4	1	1	—	—	—	6
久世郡	久御山町	14	0	—	—	—	—	14
綴喜郡	八幡町	23	1	—	—	—	—	24
	田辺町	30	11	3	—	—	—	44
	井手町	6	2	9	1	—	—	18
	宇治田原町	—	12	35	11	1	—	59
相楽郡	山城町	12	7	5	1	—	—	25
	木津町	19	4	—	—	—	—	23
	加茂町	15	14	7	—	—	—	36
	笠置町	—	9	11	4	—	—	24
	和束町	—	21	26	16	2	—	65
	精華町	18	8	—	—	—	—	26
	南山城村	11	24	29	—	—	—	64
北条郡	京北町	—	—	65	94	57	2	218
	美山町	—	3	75	156	99	7	340
船井郡	園部町	—	30	53	15	4	—	102
	八木町	13	24	12	0	—	—	49

市町村		標高区分(m)						計
		0 ~100	100~200	200~400	400~600	600~800	800~	
船井郡	丹波町	—	22	45	7	—	—	74
	日吉町	—	3	84	35	2	—	124
	瑞穂町	—	11	82	17	—	—	110
	和知町	—	17	58	43	2	—	120
天田郡	三和町	5	25	55	5	—	—	90
	夜久野町	3	24	43	25	7	—	102
加佐郡	大江町	25	38	27	4	2	—	96
与謝郡	加悦町	12	12	23	10	2	—	59
	岩滝町	5	4	2	1	—	—	12
	伊根町	14	21	18	8	1	—	62
	野田川町	16	11	8	1	—	—	36
中郡	峰山町	33	16	16	3	—	—	68
	大宮町	16	29	19	4	1	—	69
竹野郡	網野町	36	23	11	5	—	—	75
	丹後町	20	23	19	3	—	—	65
	弥栄町	22	17	27	14	—	—	80
熊野郡	久美浜町	58	41	36	10	—	—	145
(郡部計 B)		430	508	904	493	180	9	2,524
合計 (A+B)		946	1,036	1,463	807	320	37	4,609

2 - 3 地形区分別面積市町村別内訳

		山 地					火 山 地				丘 陵 地		
		大 起 伏	中 起 伏	小 起 伏	山 麓 地	計	大 起 伏	中 起 伏	小 起 伏	計	大 起 伏	小 起 伏	計
京 都 市		3	177	220	3	403	-	-	-	-	16	26	42
福 知 山 市		0	31	135	2	168	-	-	-	-	9	5	14
舞 鶴 市		2	24	230	-	256	-	1	6	7	14	7	21
綾 部 市		-	43	198	-	241	-	-	-	-	14	8	22
宇 治 市		-	-	32	-	32	-	-	-	-	-	14	14
宮 津 市		1	41	103	3	148	-	-	-	-	1	2	3
亀 岡 市		-	26	123	6	155	-	-	-	-	-	18	18
城 陽 市		-	-	0	-	0	-	-	-	-	-	14	14
向 日 市		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2
長 岡 京 市		-	-	7	-	7	-	-	-	-	-	-	-
市 部 計		6	342	1,048	14	1,410	-	1	6	7	54	96	150
乙訓郡	大山崎町	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-
久世郡	久御山町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-
綴喜郡	八幡町	-	-	0	-	0	-	-	-	-	-	8	8
	田辺町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	24	27
	井手町	-	-	11	-	11	-	-	-	-	-	2	2
	宇治田原町	-	6	11	-	17	-	-	-	-	12	23	35
相楽郡	山城町	-	-	4	-	4	-	-	-	-	-	7	7
	木津町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	13
	加茂町	-	-	5	-	5	-	-	-	-	11	11	22
	笠置町	-	5	16	-	21	-	-	-	-	-	1	1
	和束町	-	10	42	-	52	-	-	-	-	-	10	10
	精華町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16	16
北条郡	南山城村	-	10	43	-	53	-	-	-	-	5	5	10
	京北町	1	19	164	-	184	-	-	-	-	12	2	14
	美山町	-	185	133	-	318	-	-	-	-	-	-	-

台地					低地				副分類			合計
砂(上位) 礫	砂(中位) 礫	砂 礫	岩(中下位) 石	計	扇狀地性	三角洲性	自然堤防・州	計	埋立地	人工改變地	計	
—	—	29	—	29	80	55	2	137	—	—	—	611
—	—	39	—	39	29	12	2	43	—	—	—	264
—	—	1	—	1	44	10	2	56	—	—	—	341
—	—	38	—	38	37	8	2	47	—	—	—	348
—	—	6	—	6	5	10	—	15	—	—	—	67
—	—	1	—	1	14	3	1	18	—	—	—	170
—	—	20	—	20	22	10	—	32	—	—	—	225
—	—	7	—	7	2	7	2	11	—	—	—	32
—	—	2	—	2	1	3	—	4	—	—	—	8
—	—	7	—	7	3	2	—	5	—	—	—	19
—	—	150	—	150	237	120	11	368	—	—	—	2,085
—	—	1	—	1	1	—	2	3	—	—	—	6
—	—	—	—	—	—	14	—	14	—	—	—	14
—	—	—	—	—	3	12	1	16	—	—	—	24
—	—	1	—	1	5	10	1	16	—	—	—	44
—	—	2	—	2	1	2	—	3	—	—	—	18
—	—	—	—	—	7	—	—	7	—	—	—	59
—	—	7	—	7	1	4	2	7	—	—	—	25
—	—	1	—	1	4	5	—	9	—	—	—	23
—	—	2	—	2	6	—	1	7	—	—	—	36
—	—	0	—	0	2	—	—	2	—	—	—	24
—	—	1	—	1	2	—	—	2	—	—	—	65
—	—	1	—	1	3	5	1	9	—	—	—	26
—	—	0	—	0	1	—	—	1	—	—	—	64
—	—	7	—	7	13	—	—	13	—	—	—	218
—	—	13	—	13	9	—	—	9	—	—	—	340

		山 地					火 山 地				丘 陵 地		
		大 起 伏	中 起 伏	小 起 伏	山 麓 地	計	大 起 伏	中 起 伏	小 起 伏	計	大 起 伏	小 起 伏	計
船 井 郡	園 部 町	—	11	63	—	74	—	—	—	—	3	4	7
	八 木 町	—	3	25	—	28	—	—	—	—	0	6	6
	丹 波 町	—	2	43	—	45	—	—	—	—	—	7	7
	日 吉 町	—	10	85	—	95	—	—	—	—	6	2	8
	瑞 穂 町	—	2	77	—	79	—	—	—	—	—	12	12
	和 知 町	6	43	57	—	106	—	—	—	—	—	—	—
天田郡	三 和 町	—	1	75	—	76	—	—	—	—	—	—	—
	夜 久 野 町	—	26	54	2	82	—	—	0	0	2	2	4
加佐郡	大 江 町	1	8	56	—	65	—	—	—	—	7	4	11
与 謝 郡	加 悦 町	—	10	36	2	48	—	—	—	—	1	1	2
	岩 滝 町	—	—	8	1	9	—	—	—	—	—	—	—
	伊 根 町	—	—	56	—	56	—	—	—	—	—	1	1
	野 田 川 町	—	—	21	2	23	—	—	—	—	7	0	7
中 郡	峰 山 町	—	1	32	—	33	—	—	—	—	0	16	16
	大 宮 町	—	6	35	—	41	—	—	—	—	8	6	14
竹 野 郡	網 野 町	—	0	44	—	44	—	—	—	—	3	10	13
	丹 後 町	—	9	37	1	47	—	—	—	—	1	2	3
	弥 栄 町	—	10	47	—	57	—	—	—	—	2	11	13
熊野郡	久美浜町	—	17	67	—	84	—	—	—	—	11	16	27
郡 部 計		8	394	1,349	8	1,759	—	—	0	0	94	222	316
京 都 府 計		14	736	2,397	22	3,169	—	1	6	7	148	318	466

台地					低地				副分類			合計
砂(上位)礫	砂(中位)礫	砂礫	岩(中下位)石	計	扇状地性	三角洲性	自然砂堤防・州	計	埋立地	人工改變地	計	
—	—	4	—	4	17	—	0	17	—	—	—	102
—	—	—	—	0	12	3	—	15	—	—	—	49
—	—	9	—	9	13	—	—	13	—	—	—	74
—	—	9	—	9	12	—	—	12	—	—	—	124
—	—	8	—	8	11	—	—	11	—	—	—	110
—	—	10	—	10	4	—	—	4	—	—	—	120
—	—	8	—	8	6	—	—	6	—	—	—	90
—	—	1	溶岩台地 2	3	13	—	—	13	—	—	—	102
—	—	7	—	7	8	4	1	13	—	—	—	96
—	—	—	—	—	8	1	—	9	—	—	—	59
—	—	—	—	—	2	1	—	3	—	—	—	12
—	—	—	1	1	4	—	—	4	—	—	—	62
—	—	—	—	—	5	1	—	6	—	—	—	36
—	—	—	—	—	17	2	—	19	—	—	—	68
—	—	—	—	—	11	3	—	14	—	—	—	69
—	—	4	0	4	13	—	1	14	—	—	—	75
—	—	0	5	5	7	2	1	10	—	—	—	65
—	—	—	—	—	10	—	—	10	—	—	—	80
—	—	5	—	5	23	5	1	29	—	—	—	145
—	—	101	8	109	254	74	12	340	—	—	—	2,524
—	—	251	8	259	491	194	23	708	—	—	—	4,609

2-4 表層地質分布面積市町村別内訳

表層地質		未固結および半固結堆積物					固 結 堆 積 物						
		砂	礫・砂	砂・泥	礫泥・砂・泥	碎屑物	計	礫岩	砂岩	泥質岩	チャート	互層	輝岩・緑凝灰
市町村		S	g S	S m	g s m	C l		C g	S S	m s	c h	a l t	S c h
京 都 市			96	12	80		188		49		76	258	20
福 知 山 市			26		54		80		5	34	11	62	1
舞 鶴 市					63		63		10	97		34	51
綾 部 市			19		68		87		28	30	7	113	43
宇 治 市			10		22		32		1			34	
宮 津 市					20		20	27		5		32	
亀 岡 市			16		46		62		45		26	62	
城 陽 市			18		11		29					3	
向 日 市			3		5		8						
長 岡 京 市			6		8		14		2		1	2	0
市 部 計			194	12	377		583	27	140	166	121	600	115
乙訓郡	大山崎町		2		3		5		1			0	0
久世郡	久御山町		2		12		14						
綴喜郡	八幡町		15		7		22			1	1		
	田辺町		17		21		38			0		1	
	井手町		4		3		7					2	
	宇治田原町				10		10				1	48	
相 楽 郡	山城町		10				10						
	木津町		11		12		23						
	加茂町		13		7		20						
	笠置町		1				1						
	和束町		2		2		4				1	9	
	精華町		10		16		26						
北条郡	南山城村				5		5						
	京北町				10		10		26	3	39	120	20

(単位: Km²)

計	火山性岩石			計	深成岩類			計	変成岩類			計	合計
	流紋岩質 Ry	安山岩質 Ab	玄武岩質 B		花崗岩質 Gr	班岩質 Gb	蛇紋岩質 Sp		ホルンスフ Ho	角閃色変岩 Gs	片麻岩(片麻岩) Gn		
403					17			17	3			3	611
113					26	44	1	71					264
192	14	8		22	64			64					341
221						35	1	36		4		4	348
35					0								67
64		7		7	60		19	79					170
133	5			5	22			22	3			3	225
3													32
5													8
													19
1,169	19	15		34	189	79	21	289	6	4		10	2,085
1													6
													14
2													24
1					5			5					44
2					1			1	8			8	18
49									0			0	59
					15			15					25
					0			0					23
					10			10	3		3	6	36
					17			17	4		2	6	24
10					14			14	37			37	65
					0			0					26
					59			59	0			0	64
208													218

市町村		表層地質	未固結および半固結堆積物					固結堆積物					
			砂 S	礫・砂 gS	砂・泥 Sm	礫泥・砂 gsm	碎屑物 Cl	計	礫岩 Cg	砂岩 SS	泥質岩 ms	チャート ch	互層 alt
北桑田郡	美山町		2		6		8				44	285	3
船井郡	園部町		2		21		23		1		1	57	2
	八木町		16		1		17				2	30	0
	丹波町		3		15		18		3		1	49	3
	日吉町		8				8		0		8	92	16
	瑞穂町		1		6		7				14	85	4
	和知町		2		13		15		1		12	87	5
天田郡	三和町										10	72	8
	夜久野町								0	6		30	
加佐郡	大江町		1		12		13		2	43		6	11
与謝郡	加悦町				12	1	13			1			
	岩滝町				4		4	0				0	
	伊根町				2		2					31	
	野田川町				11		11						
中郡	峰山町				17		17						3
	大宮町				16		16	2					0
竹野郡	網野町	4			5		9						49
	丹後町				8		8	1					23
	弥栄町				11		11	0					3
熊野郡	久美浜町	3			27		30					26	
郡部計		7	122		295	1	425	3	34	54	134	1,108	72
総計		7	316	12	672	1	1,008	30	174	219	255	1,708	187

計	火山性岩石				深成岩類				変成岩類				合計
	流紋岩質 Ry	安山岩質 Ab	玄武岩質 B	計	花崗岩質 Gr	班岩質 Gb	蛇紋岩質 Sp	計	ホルンズフ Ho	角閃色変岩 Gs	準片麻岩 (片麻岩) Gn	計	
332													340
61	16			16	2			2					102
32					0			0	0			0	49
56													74
116													124
103													110
105													120
90													90
36	20		2	22	23	21		44					102
62		6		6		8	7	15					96
1					40		5	45					59
0					8			8					12
31	2	27		29									62
					25			25					36
3		0		0	48			48					68
2		4		4	47			47					69
49	4	2		6	11			11					75
24	1	23		24	9			9					65
3	2	28		30	36			36					80
26	11	15		26	63			63					145
1,405	56	105	2	163	433	29	12	474	52		5	57	2,524
2,574	75	120	2	197	622	108	33	763	58	4	5	67	4,609

2-5 土壤統群分布面積市町村別内訳

土壤統群 市町村		岩層土		未熟土				黒ボク土			褐色森林土					ポドゾル土			
		岩屑性土壌	計	残積性未熟土壌	粗粒残積性未熟土壌	砂丘未熟土壌	人工未熟土壌	計	黒ボク土壌	多湿黒ボク土壌	計	乾性褐色森林土壌	乾性(黄褐色)森林土壌	乾性(赤褐色)森林土壌	褐色森林土壌	湿性褐色森林土壌	計	乾性ポドゾル土壌	計
京都市		—	—	5	—	—	6	11	—	—	—	203	7	—	187	0	397	3	3
福知山市		—	—	7	—	—	—	7	0	1	1	114	—	9	56	1	180	—	—
舞鶴市		—	—	—	—	0	—	0	—	—	—	191	—	5	50	0	246	—	—
綾部市		—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	46	—	56	165	1	268	—	—
宇治市		—	—	—	10	—	—	10	—	—	—	14	—	—	13	—	27	—	—
宮津市		—	—	—	—	1	—	1	0	0	0	100	—	—	14	0	114	—	—
亀岡市		—	—	—	—	—	—	—	1	1	2	100	20	12	22	0	154	—	—
城陽市		—	—	—	8	—	—	8	—	—	—	1	0	—	1	—	2	—	—
向日市		—	—	—	—	—	2	2	—	—	—	0	0	—	0	—	0	—	—
長岡京市		—	—	—	—	—	2	2	—	—	—	5	1	—	0	—	6	—	—
(市部計 A)		—	—	12	18	1	10	41	1	2	3	774	28	82	508	2	1,394	3	3
乙訓郡	大山崎町	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—	1	0	—	0	—	1	—	—
久世郡	久御山町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	—	—	0	—	0	—	—
綴喜郡	八幡町	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—	1	2	—	0	—	3	—	—
	田辺町	—	—	—	—	—	0	0	—	—	—	0	14	—	2	—	16	—	—
	井手町	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—	6	1	—	5	—	12	—	—
	宇治田原町	—	—	—	1	—	—	1	—	—	—	22	6	—	18	—	46	—	—
相楽郡	山城町	—	—	—	—	—	2	2	—	—	—	12	—	—	2	—	14	—	—
	木津町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7	—	—	—	7	—	—
	加茂町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	13	2	—	2	—	17	—	—
	笠置町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10	—	—	9	—	19	—	—
	和束町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	26	—	—	24	0	50	—	—
	精華町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10	—	—	—	10	—	—
北条郡	南山城村	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	38	5	—	5	0	48	—	—
	京北町	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	66	—	11	119	6	202	0	0
美山町	美山町	—	—	—	—	—	—	—	0	3	3	104	—	—	206	3	313	1	1
	給	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	63	—	8	11	—	82	—	—
井	八木町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	23	—	3	8	—	34	—	—
	丹波町	—	—	—	—	—	—	—	2	1	3	7	—	18	29	1	55	—	—
	日吉町	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	39	—	10	58	2	109	0	0
	瑞穂町	—	—	—	—	—	—	—	1	0	1	17	—	23	52	1	93	—	—
	和知町	—	—	—	—	—	—	—	0	—	0	28	—	2	75	1	106	—	—
天田郡	三和町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	17	—	17	40	1	75	—	—
	夜久野町	—	—	—	—	—	—	—	2	0	2	40	—	1	42	0	83	—	—
加佐郡	大江町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	55	—	6	7	—	68	—	—
与謝郡	加悦町	2	2	—	—	—	—	—	0	—	0	25	—	10	5	—	40	—	—
	岩滝町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8	—	—	0	—	8	—	—
	伊根町	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	41	—	—	3	—	44	—	—
	野田川町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	20	—	—	3	—	25	—	—
中郡	峰山町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	46	—	—	2	—	48	—	—
	大宮町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	51	—	—	1	0	52	—	—
竹野郡	網野町	—	—	—	—	5	—	5	—	—	—	43	—	—	7	0	50	—	—
	丹後町	—	—	—	—	1	—	1	1	—	1	42	—	—	3	0	45	—	—
	弥栄町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	48	—	—	10	1	59	—	—
熊野郡	久美浜町	—	—	0	—	3	—	3	—	—	83	—	2	13	1	99	—	—	
(郡部計 B)		2	2	0	1	9	5	15	7	4	11	995	47	113	761	17	1,933	1	1
合計 (A+B)		2	2	12	19	10	15	56	8	6	14	1,769	75	195	1,269	19	3,327	4	4

(単位: Km²)

赤黄色土				褐色低地土			灰色低地土				グライ土				泥炭土		岩石地	合計	備考
赤色土壌	黄色土壌	暗赤色土壌	計	褐色低地土壌	粗粒褐色低地土壌	計	細粒灰色低地土壌	灰色低地土壌	粗粒灰色低地土壌	計	細粒グライ土壌	グライ土壌	粗粒グライ土壌	計	黒泥土壌	計			
1	8	—	9	0	—	0	14	5	9	28	1	1	1	3	—	—	2	453	
0	3	0	3	3	—	3	3	8	8	19	1	2	0	3	—	—	—	216	
15	2	6	23	1	—	1	4	2	8	14	3	1	—	4	—	—	2	290	
0	9	—	9	1	—	1	4	2	5	11	8	3	1	12	—	—	0	301	
—	0	—	0	—	—	—	0	—	1	1	2	0	3	5	—	—	—	43	
0	1	15	16	—	—	—	1	3	1	5	2	1	2	5	1	1	1	143	
2	3	—	5	0	—	0	3	16	8	27	1	1	—	2	—	—	1	191	
—	1	—	1	0	—	0	—	0	1	1	—	3	2	5	—	—	—	17	
—	1	—	1	—	—	—	0	—	0	0	1	—	—	1	—	—	—	4	
0	0	—	0	—	—	—	0	—	1	1	2	—	—	2	—	—	—	11	
18	28	21	67	5	—	5	29	36	42	107	21	12	9	42	1	1	6	1,669	
0	0	—	0	—	—	—	1	0	—	1	0	—	—	0	—	—	—	3	
—	—	—	—	—	—	—	0	2	2	4	1	1	1	3	—	—	—	7	
—	—	—	—	0	—	0	1	4	0	5	1	—	2	3	—	—	—	12	
0	—	0	0	0	—	0	—	2	4	6	—	1	4	5	—	—	—	27	
—	0	—	0	—	—	—	0	1	0	1	—	0	0	0	—	—	—	14	
—	2	—	2	—	—	—	—	—	2	2	—	1	0	1	—	—	—	52	
—	—	—	—	1	0	1	—	0	0	0	—	0	1	1	—	—	—	18	
—	3	—	3	—	0	0	—	0	1	1	—	2	0	2	—	—	—	13	
—	2	—	2	—	—	—	—	1	3	4	—	0	1	1	—	—	—	24	
—	1	—	1	—	—	—	—	—	0	0	—	—	—	—	—	—	—	20	
—	2	—	2	—	—	—	0	1	1	2	0	1	0	1	—	—	—	55	
—	2	—	2	0	—	0	—	2	1	3	—	0	1	1	—	—	—	16	
—	1	—	1	—	—	—	—	—	2	2	—	—	1	1	—	—	1	53	
—	0	—	0	—	—	—	1	1	4	6	1	—	0	1	—	—	0	209	
—	2	—	2	—	—	—	—	0	2	2	—	—	—	—	—	—	2	323	
—	1	—	1	—	—	—	0	3	3	6	4	0	0	4	—	—	—	93	
—	0	—	0	0	—	0	0	6	1	7	2	0	—	2	—	—	—	43	
—	3	—	3	—	—	—	1	1	1	3	1	0	0	1	—	—	0	65	
—	1	—	1	—	—	—	2	1	2	5	1	0	0	1	—	—	0	116	
—	2	—	2	—	—	—	2	0	2	4	1	—	0	1	—	—	—	101	
—	4	—	4	—	—	—	—	0	1	1	—	—	—	—	—	—	0	111	
—	3	—	3	—	—	—	0	1	2	3	0	0	—	0	—	—	0	81	
—	1	—	1	—	—	—	0	0	4	4	0	0	—	0	—	—	—	90	
—	1	7	8	1	—	1	1	0	2	3	1	1	—	2	—	—	—	82	
—	0	4	4	—	—	—	1	4	—	5	1	0	0	1	0	0	1	53	
—	—	—	—	—	—	—	—	0	1	1	—	0	0	0	—	—	—	9	
0	0	—	0	—	—	—	1	2	0	3	2	0	0	2	—	—	1	51	
—	0	—	0	—	—	—	—	1	0	1	1	0	3	4	—	—	0	30	
—	0	—	0	—	—	—	—	2	3	5	0	2	1	3	1	1	—	57	
—	0	—	0	—	—	—	—	4	3	7	—	1	0	1	0	0	—	60	
0	0	—	0	—	—	—	0	1	1	2	1	1	1	3	—	—	1	61	
—	1	—	1	—	—	—	1	2	1	4	1	—	—	1	—	—	1	54	
—	—	—	—	—	—	—	0	1	2	3	—	2	2	4	—	—	2	68	
1	1	—	2	—	—	—	1	4	5	10	0	2	2	4	0	—	0	118	
1	35	11	45	2	0	2	13	47	56	116	19	15	20	54	1	1	9	2,189	
19	61	32	112	7	0	7	42	83	98	223	40	27	29	96	2	2	15	3,858	

3. 土地利用可能性分級

3-1 土地利用可能性分級別面積市町村別内訳

市町村		1類地	2類地	3類地	4類地	5類地	6類地	7類地	8類地	計	備考
京	都	2	30	87	294	36	1	3	158	611	8類地に自衛隊用地を含む。
福	知	—	22	85	106	1	—	—	50	264	
舞	鶴	1	12	106	164	3	—	3	52	341	
綾	部	—	23	142	135	1	—	—	47	348	
宇	治	—	0	17	20	2	4	—	24	67	
宮	津	—	3	63	70	7	—	0	27	170	
亀	岡	—	32	74	80	3	—	1	35	225	
城	陽	—	1	8	1	—	7	—	15	32	
向	日	—	0	4	—	—	—	—	4	8	
長	岡	—	1	6	4	—	—	—	8	19	
(市部計 A)		3	124	592	874	53	12	7	420	2,085	
乙訓郡	大山崎町	—	1	0	1	—	—	—	4	6	
久世郡	久御山町	—	3	4	0	—	—	—	7	14	
綴喜郡	八幡町	—	6	4	2	—	—	—	12	24	8類地に自衛隊用地を含む。
	田辺町	—	3	13	11	—	—	—	17	44	
	井手町	—	3	6	5	—	—	—	4	18	
	宇治田原町	—	0	16	25	8	3	—	7	59	
相楽郡	山城町	—	1	11	6	1	—	—	6	25	8類地に自衛隊用地を含む。
	木津町	—	3	6	4	—	—	—	10	23	
	加茂町	0	4	10	10	—	—	—	12	36	
	笠置町	—	1	6	13	1	—	—	3	24	
	和東町	—	3	15	32	5	—	—	10	65	
	精華町	—	8	3	2	—	—	—	13	26	
	南山城村	—	1	8	32	12	—	—	11	64	
北桑田郡	京北町	—	6	27	154	23	—	—	8	218	
	美山町	—	—	5	258	56	1	4	16	340	

市町村		類地								計	備考
		1類地	2類地	3類地	4類地	5類地	6類地	7類地	8類地		
船井郡	園部町	—	3	46	43	—	—	—	10	102	
	八木町	—	9	14	19	0	—	—	7	49	
	丹波町	—	0	3	37	24	—	—	10	74	
	日吉町	—	4	31	75	6	—	—	8	124	
	瑞穂町	—	9	50	39	2	—	—	10	110	
	和知町	—	1	21	81	9	—	0	8	120	
天田郡	三和町	—	3	53	25	—	—	—	9	90	
	夜久野町	1	5	42	42	0	—	—	12	102	
加佐郡	大江町	0	5	35	39	3	—	—	14	96	
与謝郡	加悦町	—	9	21	20	2	—	—	7	59	
	岩滝町	—	—	6	3	—	—	—	3	12	
	伊根町	—	—	19	30	—	—	2	11	62	
	野田川町	—	0	24	6	—	—	—	6	36	
中郡	峰山町	—	5	43	9	—	—	—	11	68	
	大宮町	—	6	47	8	—	—	—	8	69	
竹野郡	網野町	—	2	46	12	—	—	1	14	75	
	丹後町	—	6	21	25	—	—	2	11	65	
	弥栄町	—	3	34	30	—	—	1	12	80	
熊野郡	久美浜町	—	14	73	32	—	—	0	26	145	
(郡部計 B)		1	127	763	1,130	152	4	10	337	2,524	
合計 (A+B)		4	251	1,355	2,004	205	16	17	757	4,609	

3-2 土地利用可能性分級と自然条件との関連

3-2-1 土地利用可能性分級と地形区分との関連

(単位: Km²)

地形区分		土地利用 可能性 分級	1類地	2類地	3類地	4類地	5類地	6類地	7類地	8類地 (未区分地)	合計
			山地・ 火山地	大起伏	—	—	2	12	—	—	—
中 "	—	—		55	574	103	2	3	—	—	734
小 "	2	41		671	1,249	99	—	11	330	—	2,403
山麓地	2	—		8	1	—	—	—	—	11	22
計	4	41		736	1,836	202	2	14	341	—	3,176
丘陵地	大起伏	—	4	55	34	—	—	—	—	55	148
	小 "	—	11	139	61	—	14	1	92	—	318
	計	—	15	194	95	—	14	1	147	—	466
台地段丘	砂礫	—	39	75	19	3	—	—	—	115	251
	岩石	—	1	2	—	—	—	—	—	5	8
	計	—	40	77	19	3	—	—	120	—	259
低地	扇状地性	—	92	290	52	—	—	1	56	—	491
	三角洲性	—	63	58	—	—	—	1	72	—	194
	自然堤防・砂州	—	—	—	2	—	—	—	21	—	23
	計	—	155	348	54	—	—	2	149	—	708
合計			4	251	1,355	2,004	205	16	17	757	4,609

3-2-2 土地利用可能性分級と傾斜区分との関連

(単位: Km²)

傾斜	土地利用 可能性 分級	1類地	2類地	3類地	4類地	5類地	6類地	7類地	8類地 (未区分地)	合計
		0° ~ 3° (S ₁)	3	131	176	6	—	—	—	—
3° ~ 8° (S ₂)	1	120	356	61	11	11	—	—	218	778
8° ~ 15° (S ₃)	—	—	823	126	19	1	5	—	106	1,080
15° ~ 30° (S ₄)	—	—	—	1,811	49	3	10	—	117	1,990
30° ~ 40° (S ₅)	—	—	—	—	126	1	2	—	19	148
40° ~ (S ₆)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計		4	251	1,355	2,004	205	16	17	757	4,609

3-2-3 土地利用可能性分級と標高との関連

(単位: Km²)

土地利用可能性分級 標高区分	1類地	2類地	3類地	4類地	5類地	6類地	7類地	8類地 (未区分地)	合計
低暖地帯(H ₁) (0~400m)	4	250	1,312	1,075	52	12	12	728	3,445
山間地帯(H ₂) (400~800m)	—	1	43	929	121	—	5	28	1,127
高冷地帯(H ₃) (800~1,000m)	—	—	—	—	32	4	—	1	37
合計	4	251	1,355	2,004	205	16	17	757	4,609

3-2-4 土地利用可能性分級と土壤生産力可能性等級区分との関連

(単位: Km²)

土地利用可能性分級 土壤生産力可能性等級区分	1類地	2類地	3類地	4類地	5類地	6類地	7類地	8類地 (未区分地)	合計
はなはだよい (P ₁)	4	31	186	699	91	—	—	—	1,011
ややよい (P ₂)	—	220	76	43	4	—	—	—	343
やや劣る (P ₃)	—	—	1,093	1,083	51	—	—	—	2,227
劣る (P ₄)	—	—	—	179	59	2	—	—	240
はなはだ劣る (P ₅)	—	—	—	—	—	14	17	—	31
未区分	—	—	—	—	—	—	—	757	757
合計	4	251	1,355	2,004	205	16	17	757	4,609

3 - 3 土地利用可能性分級別主要地域の概要

土地利用可能性分級 地域の概要		1 類 地		2 類 地		3 類 地		4 類 地		
		中丹地域 由良川下流河谷		京都・山城地域 京都盆地		京都・山城地域 木津川河谷		南丹地域 頭山地		
地 形	傾斜 (谷密度)	S ₁ (0°~3°) 18~20		S ₁ (0°~3°) 2~12		S ₁ (0°~3°) 2~11		S ₄ (15°~30°) 18~25		
	標高 (植栽限界)	400 m以下		400 m以下		400 m以下		400 m以上		
表層地質	岩石の種類		泥質岩		礫・砂・泥		礫・砂・泥		粘土板岩 輝緑凝灰岩 下炭	
	岩石のかたさ		硬		軟		軟		硬	
	時代		二畳紀		沖積世		沖積世 洪積世		二畳紀	
土 壤	農田	土壤統群生産 力可能性等級	—		細粒灰色低地土壤 灰色低地土壤 II		グライ土壤 粗粒グライ土壤 III		—	
		畑	土壤統群生産 力可能性等級	—		—		人工未熟土壤 粗粒灰色低地土壤 III		—
	草地	土壤統群 生産力可能性等級	—		—		—		—	
	林地	土壤統群地位級	褐色森林土壤 I		—		人工未熟土壤 III		乾性褐色森林土壤 褐色森林土壤 II, III	
水 利 用	地表水	○		○		○		○		
	地下水	×		△		△		×		
	天	×		×		×		×		
気候区分		山陰 (若狭湾)		瀬戸内 (京都盆地)		瀬戸内 (京都盆地)		北陸 (丹波東部山地)		
面 積	土地利用可能性類地別 面積府内合計 (A)		4		251		1,355		2,004	
	当該地域の類地別面積 府内合計 (B)		1		19		42		258	
	% (B/A)		25		8		3		13	

5 類 地	6 類 地	7 類 地	8 類 地 (未区分地)	備 考
南 丹 地 域 八 ヶ 峰 山 地	京 都 ・ 山 城 地 域 宇 治 丘 陵	南 丹 地 域 佐 々 里 峠 山 地	京 都 盆 地 京 都 市 街 地	
S ₄ ~ S ₅ (15°~40°) 1 7 ~ 2 1	S ₂ (3°~8°) 4 ~ 1 9	S ₄ ~ S ₅ (15°~40°) 2 2 ~ 2 6	S ₁ (0°~3°) 1 ~ 1 3	
400 m 以上	400 m 以下	400 m 以上	400 m 以下	
粘 板 岩 チ ャ ー ト	礫 ・ 砂 ・ 泥	粘 板 岩 チ ャ ー ト	礫 ・ 砂 ・ 泥	
硬	軟	硬	軟	
二 疊 紀	洪 積 世	二 疊 紀	沖 積 世	
—	—	—	—	
—	—	—	—	
—	—	—	—	
乾性褐色森林土壌 褐色森林土壌 Ⅱ , Ⅲ	粗粒残積性未熟土壌 Ⅴ	岩 石 地 Ⅴ	—	
○ × ×	○ × ×	○ × ×	○ ○ ×	○ 利 用 △ 若干利用 × 利用せず
北 陸 (丹波東部山地)	瀬 戸 内 (京 都 盆 地)	北 陸 (丹波東部山地)	瀬 戸 内 (京 都 盆 地)	気候区分の カッコ内は京都 地方气象台に よる気候区分 である。
2 0 5	1 6	1 7	7 5 7	
5 6	1 1	4	6 4 4	
2 7	6 3	2 4	8	

3-4 土地利用可能性分級別市町村別内訳

市町村名	類地区分 類地区分および包含される示性式		面積 ㎡		土 地 利 用 の 現 況												備 考	
					水 田		畑				草 地		林 地					空地・その他
					土利 占有率	平均収 穫量率	土利 占有率	主要作物 および平均 収 穫 量 率	土利 占有率	主要樹種 および平均 収 穫 量 率	土利 占有率	草地の種類 および平均 収 穫 量 率	人 工 林		天 然 林			土利 占有率
													土利 占有率	平均収 穫量率	土利 占有率	平均収 穫量率		
京 都 市	1 類地	111	2										A	スギ 120				面積の単位 : ㎡ 土地占有率 A 100～75% B 74～50% C 49～25% D 24～5%
	2 類地	112 121	30	B	93								D	スギ 120				
	3 類地	113 231 123 131 133	87	D	93	D	野 菜						D	スギ 110	C	広葉樹		
	4 類地	124 233 134 241 141 243 142 143	294										C	スギ 105	B D	広葉樹 アカマツ 80		
	5 類地	151 244 331 153 251 333 253 341 254 343	36												A	広葉樹		
	6 類地	344	1												A	広葉樹		
	7 類地	130 230 140 150	3												A	広葉樹		
	8 類地		158															
市 町 村 計		611																
福 知 山 市	1 類地		—															
	2 類地	112 121 122	22	C	101								C	スギ 110	D	広葉樹		
	3 類地	113 123 131 132 133	85	D	101								D D	スギ 105 ヒノキ 95	D	広葉樹		
	4 類地	141 241 142 243 143	106										D D	ヒノキ 80 アカマツ 80	C	広葉樹		
	5 類地	244	1												A	広葉樹		
	6 類地		—															
	7 類地		—															
	8 類地		50															D
市 町 村 計		264																

市町村名	類地区分		土地利用の現況													備考		
			水田		畑				草地		林地				空地・その他			
					普通畑	樹園地		土地	草地の種類	人工林		天然林						
面積	地利用占有率	平均収獲量率	地利用占有率	主要作物および平均収獲量率	地利用占有率	主要樹種および平均収獲量率	利用占有率	および平均収獲量率	地利用占有率	主要樹種および平均収獲量率	地利用占有率	主要樹種および平均収獲量率	地利用占有率					
舞鶴市	1類地	111	1									A	スギ 120					
	2類地	112 121 122	12	C	101							D	スギ 95	B	広葉樹			
	3類地	113 123 131 132 133	106	D	101							C	ヒノキ 100	C	広葉樹			
	4類地	124 233 134 241 141 244 142 143 144	164									D	ヒノキ 70	A	広葉樹			
	5類地	153	3											A	広葉樹			
	6類地		—															
	7類地	140 150	3											A	広葉樹			
	8類地		52															D
市町村計		341																
綾部市	1類地		—															
	2類地	112 121 122	23	C	103							D	スギ 110 ヒノキ 100	D	広葉樹			
	3類地	113 123 131 132 133	142	D	103							D	スギ 110 ヒノキ 100	C D	広葉樹 アカマツ 70			
	4類地	124 134	135											A	広葉樹			
	5類地	253	1											A	広葉樹			
	6類地		—															
	7類地		—															
	8類地		47															D
市町村計		348																

市町 村名	類地区分 面積		土地利用の現況													備考	
			水田		畑				草地		林地				空地・その他		
			土地 占有率	平均収 穫量率	土地 占有率	主要作物 および平均 穫量率	土地 占有率	主要樹種 および平均 穫量率	土地 占有率	および平均 穫量率	土地 占有率	主要樹種 および平均 穫量率	土地 占有率	主要樹種 および平均 穫量率	土地 占有率		土地 占有率
宇治市	1 類地	—															
	2 類地	121	0										A	スギ	95		
	3 類地	113 123 131 133	17	D	98										D	アカマツ	95
	4 類地	124 134 141 144	20												C	アカマツ	80
	5 類地	151 154	2												B	広葉樹	
	6 類地	125 145 155	4												A	アカマツ	40
	7 類地	—													D	広葉樹	
	8 類地	24															C
市町村計		67															
宮津市	1 類地	—															
	2 類地	112 122	3	A	103												
	3 類地	113 123 131 132 133	63	D	103										C	広葉樹	
	4 類地	114 233 141 241 142 243 143	70												D	アカマツ	90
	5 類地	234 244	7												A	広葉樹	
	6 類地	—															
	7 類地	130 140	0													クロマツ	30
	8 類地	27															D
市町村計		170															

市町村名	類地区区分および包含される示性式		土地利用の現況														備考	
			水田		畑				草地		林地				空地・その他			
					普通畑	樹園地		土地	草地の種類	人工林		天然林						
面積	土地利用占有率	平均収獲量率	土地利用占有率	主要作物および平均収獲量率	土地利用占有率	主要樹種および平均収獲量率	土地利用占有率	および平均収獲量率	土地利用占有率	主要樹種および平均収獲量率	土地利用占有率	主要樹種および平均収獲量率	土地利用占有率	土地利用占有率				
亀岡市	1 類地		—															
	2 類地	1.12 1.21 1.22	32	B	106								D	アカマツ 105				
	3 類地	1.13 2.31 1.23 2.32 1.31 1.32 1.33	74	D	106						D	スギ 90	B	アカマツ 105				
	4 類地	1.34 2.33 1.41 2.41 1.42 2.43 1.43 1.44	80										B D	アカマツ 100 広葉樹				
	5 類地	1.51 2.34 1.53	3										A	アカマツ 80				
	6 類地		—															
	7 類地	1.30 2.30 1.40	1											A	アカマツ 40			
	8 類地		35															D
市町村計		225																
城陽市	1 類地		—															
	2 類地	1.22	1	A	100													
	3 類地	1.13 1.23 1.33	8	B	100	D		D					D D	アカマツ 90 広葉樹				
	4 類地	1.24 1.44	1										A	アカマツ 70 広葉樹				
	5 類地		—															
	6 類地	1.25 1.35	7										B B	アカマツ 40 広葉樹				
	7 類地		—															
	8 類地		15															C
市町村計		32																

市町村名	類地区分 および包含される示性式		土地利用の現況														備考	
			水田		畑				草地		林地				空地・その他			
					普通畑	樹園地		土地利用	草地の種類	人工林		天然林						
面積	土地利用	平均収	土地利用	主要作物	土地利用	主要樹種	土地利用	および平均	土地利用	主要樹種	土地利用	主要樹種	土地利用	土地利用				
㎡	占有率	穫量率	占有率	および平均	占有率	および平均	占有率	穫量率	占有率	穫量率	占有率	および平均	占有率	穫量率	占有率			
向日市	1類地		—															
	2類地	112	0	A	95													
	3類地	113	4	B	95			D	タケノコ				D	広葉樹				
	4類地		—															
	5類地		—															
	6類地		—															
	7類地		—															
	8類地		4														B	
市町村計		8																
長岡京市	1類地		—															
	2類地	112 121	1	C	93							D	スギ 90	D	広葉樹			
	3類地	113 123 131 133	6	C	93			D	タケノコ				D	アカマツ 広葉樹	70			
	4類地	134 144	4										C	広葉樹 アカマツ	50			
	5類地		—															
	6類地		—															
	7類地		—															
	8類地		8															C
市町村計		19																

市町村名	類地区分		土地利用の現況													備考		
			水田			畑				草地		林地					空地・その他	
			面積	土地利用占有率	平均収獲量率	土地利用占有率	主要作物および平均収獲量率	土地利用占有率	主要樹種および平均収獲量率	土地利用占有率	平均収獲量率	土地利用占有率	主要樹種および平均収獲量率	土地利用占有率	主要樹種および平均収獲量率		土地利用占有率	
大 山 崎	1 類地		—															
	2 類地	1.12	1	A	97													
	3 類地	1.13	0	B	97			D	タケノコ									
	4 類地	1.14 1.44	1											C C	広葉樹 アカマツ 50			
	5 類地		—															
	6 類地		—															
	7 類地		—															
	8 類地		4															B
市町村計		6																
久 御 山 町	1 類地		—															
	2 類地	1.12	3	A	100													
	3 類地	1.13	4	A	100	D												
	4 類地	1.41	0										A	アカマツ 90				
	5 類地		—															
	6 類地		—															
	7 類地		—															
	8 類地		7															B
市町村計		14																

市町村名	類地区分 および包含される 示性式		土地利用の現況													備考	
			水田		畑				草地		林地				空地・その他		
					普通畑	樹園地		土地利用	草地の種類 および平均 収穫量率	人工林		天然林					
面積	土地利用 占有率	平均収 穫量率	土地利用 占有率	主要作物 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	平均収 穫量率	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率	土地利用 占有率				
八幡町	1 類地		—														
	2 類地	112 121	6	A	99								D	広葉樹			
	3 類地	113 123 133	4	A	99		D	タケノコ									
	4 類地	124 134	2										C D	アカマツ 70 広葉樹			
	5 類地		—														
	6 類地		—														
	7 類地		—														
	8 類地		12														B
市町村計		24															
田辺町	1 類地		—														
	2 類地	112	3	A	99												
	3 類地	113	13	B	99	D	D	タケノコ									
	4 類地	124 134	11										B B	アカマツ 90 広葉樹			
	5 類地		—														
	6 類地		—														
	7 類地		—														
	8 類地		17														C
市町村計		44															

市町 村名	類地区分		土地利用の現況													備考		
			水田		畑				草地		林地				空地その他			
			土地利用 占有率	平均収 穫量率	普通畑	主要作物 および平均 収穫量率	樹園地	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	草地の種類	平均 収穫量率	人工林	土地利用 占有率	天然林		土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率
井 手 町	1 類地		—															
	2 類地	112 122	3	A	96													
	3 類地	123 231 133	6	D	96			D	ミカン			B	ヒノキ	95				
	4 類地	134 141 144	5											A	広葉樹			
	5 類地		—															
	6 類地		—															
	7 類地		—															
	8 類地		4															D
市町村計		18																
宇 治 田 原 町	1 類地		—															
	2 類地	122	0	A	94													
	3 類地	123 231 131 133	16	D	94			D	茶			D	スギ ヒノキ	90 90				
	4 類地	124 243 134 141 143 144	25									C	ヒノキ	90	D	アカマツ 広葉樹	100	
	5 類地	151 234 251 254	8											A	広葉樹			
	6 類地	155	3											A	アカマツ	40		
	7 類地		—															
	8 類地		7															D
市町村計		59																

市町村名	類地区区分 おとび包含される 示性式	面積 ha	土地利用の現況													備考	
			水田		畑				草地		林地				空地・その他 土利用有率		
			土利用有率	平均収獲量率	土利用有率	主要作物おとび平均収獲量率	土利用有率	主要樹種おとび平均収獲量率	土地利用有率	おとび平均収獲量率	土地利用有率	主要樹種おとび平均収獲量率	土地利用有率	主要樹種おとび平均収獲量率			
山城町	1 類地	—															
	2 類地	112 121	1	A	97												
	3 類地	113 231 131	11	D	97	D			タケノコ						D	アカマツ 85	
	4 類地	124 134 141 144	6												B B	アカマツ 広葉樹	70
	5 類地	244	1												A	広葉樹	
	6 類地	—															
	7 類地	—															
	8 類地	6															
市町村計		25															
木津町	1 類地	—															
	2 類地	112 121	3	A	100												
	3 類地	113	6	B	100	D			カキ						D	アカマツ 80	
	4 類地	124	4												B B	アカマツ 広葉樹	60
	5 類地	—															
	6 類地	—															
	7 類地	—															
	8 類地	10															
市町村計		23															

市町村名	類地区分		土地利用の現況													備考	
			水田		畑				草地		林地				空地、その他		
			土地利用 占有率	平均収 穫量率	普通畑 土地利用 占有率	主要作物 および平均 収穫量率	樹園地 土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	および平均 収穫量率	人工林 土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率	天然林 土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率	土地利用 占有率		
加茂町	1類地	111	0										A	スギ 80			
	2類地	112 121 122	4	A	97												
	3類地	113 123 131	10	C	97	D		D	茶カキ						D	アカマツ 90 広葉樹	
	4類地	114 124 141 143 144	10												B	アカマツ 80 広葉樹	
	5類地		—														
	6類地		—														
	7類地		—														
	8類地		12														C
市町村計		36															
笠置町	1類地		—														
	2類地	121 221	1										A	スギ 100			
	3類地	131 132 133	6	D	91								B	スギ 95 ヒノキ 85			
	4類地	124 241 134 141 144	13										B	ヒノキ 70	D	広葉樹 アカマツ 80	
	5類地	234	1												A	広葉樹	
	6類地		—														
	7類地		—														
	8類地		3														D
市町村計		24															

市町村名	類地区区分 おおよび包含される示性式		土地利用の現況											備考					
			水田		畑				草地		林地				空地・その他				
			土地利用 占有率	平均収 穫量率	普通畑 土地利用 占有率	主要作物 おおよび平均 収穫量率	樹園地 土地利用 占有率	主要樹種 おおよび平均 収穫量率	土地利用 占有率	草地の種類 おおよび平均 収穫量率	人工林 土地利用 占有率	主要樹種 おおよび平均 収穫量率	天然林 土地利用 占有率			主要樹種 おおよび平均 収穫量率			
和東町	1 類地		—																
	2 類地	121 122	3	B	92								D	スギ 100	D	広葉樹			
	3 類地	123 231 131 132 133	15	D	92			D	茶				D D	スギ 105 ヒノキ 100	D	広葉樹			
	4 類地	124 233 134 241 142 243 143 144	32										C	ヒノキ 80	B D	アカマツ 95 広葉樹			
	5 類地	234 244	5												B B	アカマツ 50 広葉樹			
	6 類地		—																
	7 類地		—																
	8 類地		10																D
市町村計			65																
精華町	1 類地		—																
	2 類地	112 122	8	A	100														
	3 類地	113 123 133	3	A	100														
	4 類地	124	2												B B	アカマツ 70 広葉樹			
	5 類地		—																
	6 類地		—																
	7 類地		—																
	8 類地		13																B
市町村計			26																

市町村名	類地区分		土地利用の現況														備考
			水田		畑				草地		林地				空地・その他		
					普通畑	樹園地	土地利用	草地の種類	人工林		天然林						
類地区分および包含される示性式	面積	土地利用占有率	平均収穫量率	土地利用占有率	主要作物および平均収穫量率	土地利用占有率	主要樹種および平均収穫量率	土地利用占有率	および平均収穫量率	土地利用占有率	主要樹種および平均収穫量率	土地利用占有率	主要樹種および平均収穫量率	土地利用占有率			
南 山 城 村	1 類地		—														
	2 類地	121	1							A	スギ	95					
	3 類地	123 231 133	8	C	91		D	茶		D	ヒノキ	85	D	広葉樹			
	4 類地	124 223 134 233 141 242 143 243 144	32							D	ヒノキ	80	D	アカマツ 90 広葉樹			
	5 類地	214 224 234 244	12										A	広葉樹 アカマツ 60			
	6 類地		—														
	7 類地		—														
	8 類地		11														D
市町村計		64															
京 北 町	1 類地		—														
	2 類地	112 121 122	6	C	93					C	スギ	120	D	アカマツ 110			
	3 類地	113 123 131 133	27	D	93					C	スギ 115 ヒノキ 110	D	D	アカマツ 100 広葉樹			
	4 類地	141 233 142 241 143 243	154							C	ヒノキ 100 スギ 100	C	D	広葉樹 アカマツ 90			
	5 類地	151 234 153 251	23										A	広葉樹			
	6 類地		—														
	7 類地		—														
	8 類地		8														D
市町村計		218															

市町村名	類地区分 類地区分および包含される示性式		土地利用の現況													備考	
			水田			畑				草地		林地					空地・その他
			土地利用 占有率	平均収 穫量率	土地利用 占有率	主要作物 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	草地の種類 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率	土地利用 占有率		
美山町	1類地	—															
	2類地	—															
	3類地 123 231 131 132 133	5	A	82	D												
	4類地 141 233 142 241 143 243	258									C	スギ ヒノキ	120 110	C	広葉樹		
	5類地 151 234 331 152 251 333 153 253 341 343	56									C	スギ	110	C	アカマツ 広葉樹	100	
	6類地 344	1												A	広葉樹		
	7類地 150 240 340 250	4												A	広葉樹		
	8類地	16															D
市町村計	340																
園部町	1類地	—															
	2類地 112 121 122	3	B	103								D	スギ	100			
	3類地 113 231 123 131 132 133	46	D	103								D	スギ	90	B	アカマツ 100	
	4類地 141 223 142 233 143 241 243	43												B	アカマツ 広葉樹	90	
	5類地	—															
	6類地	—															
	7類地	—															
	8類地	10															D
市町村計	102																

市町村名	類地区分 類地区分および包含される示性式		土地利用の現況													備考		
			水田		畑				草地		林地				空地・その他			
			土地利用 占有率	平均収 穫量率	普通畑	主要作物 および平均 収穫量率	樹園地	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	草地の種類 および平均 収穫量率	人工林	天然林	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率		土地利用 占有率	
八木町	1 類地		—															
	2 類地	112 122	9	A	104													
	3 類地	113 231 123 131 132 133	14	C	104							D	スギ 135	B	アカマツ 100			
	4 類地	141 233 142 243 143	19											B D	アカマツ 70 広葉樹			
	5 類地	151	0											A	アカマツ 60			
	6 類地		—															
	7 類地		—															
	8 類地		7															D
市町村計		49																
波丹町	1 類地		—															
	2 類地	112 121 122	0	A	100													
	3 類地	113 123 131 132 133	3	D	100							D	スギ 90	B D	アカマツ 100 広葉樹			
	4 類地	141 233 142 241 143 243	37											B B	アカマツ 80 広葉樹			
	5 類地	153 253	24											B B	アカマツ 60 広葉樹			
	6 類地		—															
	7 類地		—															
	8 類地		10															D
市町村計		74																

市町村名	類地区分 （地区区分および包含される示性式）		土地利用の現況													備考
			水田		畑				草地		林地				空地・その他	
					普通畑	樹園地		土地利用	草地の種類	人工林		天然林				
面積	面積	土地利用 占有率	平均収 穫量率	土地利用 占有率	主要作物 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	および平均 収穫量率	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率	土地利用 占有率		
日吉町	1 類地		—													
	2 類地	112 121 122	4	B	92						D	スギ 130				
	3 類地	123 131 132 133	31	D	92						B	スギ 120				
	4 類地	141 233 142 241 143 243	75								D D	スギ 100 ヒノキ 110	C C	アカマツ 100 広葉樹		
	5 類地	151 251 152 253 153	6										A	広葉樹		
	6 類地		—													
	7 類地		—													
	8 類地		8													D
市町村計		124														
瑞穂町	1 類地		—													
	2 類地	112 121 122	9	D	94						C	スギ 100	D	アカマツ 100		
	3 類地	113 231 123 131 132 133	50	D	94		D	クリ			D	スギ 100	B D	アカマツ 100 広葉樹		
	4 類地	141 233 143 241 243	39								D D	スギ 70 ヒノキ 100	B C	アカマツ 70 広葉樹		
	5 類地	153 253	2										B C	広葉樹 アカマツ 50		
	6 類地		—													
	7 類地		—													
	8 類地		10													
市町村計		110														

市町村名	類地区分		土地利用の現況													備考
			水田		畑				草地		林地				空地・その他	
					普通畑	樹園地		土地	草地の種類	人工林		天然林				
面積	土地利用占有率	平均収獲量率	土地利用占有率	主要作物および平均収獲量率	土地利用占有率	主要樹種および平均収獲量率	土地利用占有率	および平均収獲量率	土地利用占有率	主要樹種および平均収獲量率	土地利用占有率	主要樹種および平均収獲量率	土地利用占有率			
和知町	1類地		—													
	2類地	121	1	C	89						D	スギ 120	D	広葉樹		
	3類地	123 231 131 133	21	D	89		D	クリ			C	スギ 110	D	アカマツ 100 広葉樹		
	4類地	141 233 142 241 143 243	81										A	広葉樹		
	5類地	151 251 153	9										A	広葉樹		
	6類地		—										D	アカマツ 90		
	7類地	240	0										A	広葉樹		
	8類地		8													D
市町村計		120														
三和町	1類地		—													
	2類地	121 122	3	C	96						B	スギ 110	D	アカマツ 105		
	3類地	123 131 132 133	53	D	96		D	クリ			D	スギ 105 ヒノキ 105	D	広葉樹		
	4類地	141 241 143 243	25								D	ヒノキ 90	A	広葉樹		
	5類地		—													
	6類地		—													
	7類地		—													
	8類地		9													D
市町村計		90														

市町村名	類地区分 おおよび包含される示性式		土地利用の現況														備考		
			水田		畑						草地		林地					空地・その他	
					普通畑		樹園地		土地利用 占有率	草地の種類 おおよび平均 収獲量率	人工林		天然林						
					土地利用 占有率	平均収 獲量率	土地利用 占有率	主要作物 おおよび平均 収獲量率			土地利用 占有率	主要樹種 おおよび平均 収獲量率	土地利用 占有率	主要樹種 おおよび平均 収獲量率					
夜久野町	1 1類地	111 1											A	スギ 120					
	2 2類地	112 121 122 5	D	97									B	スギ 110					
	3 3類地	113 123 131 132 133 42	D	97			D	クワ					B C	スギ 105 ヒノキ 120					
	4 4類地	141 233 143 241 243 42										D	ヒノキ 100	A	広葉樹				
	5 5類地	251 253 0													A	広葉樹			
	6 6類地	—																	
	7 7類地	—																	
	8 8類地	12																	D
市町村計		102																	
大江町	1 1類地	111 0											A	スギ 130					
	2 2類地	112 121 122 5	D	94									B C	スギ 110 ヒノキ 130					
	3 3類地	113 123 131 132 133 35					D	クワ					C D	ヒノキ 130 スギ 110	B	広葉樹			
	4 4類地	141 243 143 39												A	広葉樹				
	5 5類地	253 3												A	広葉樹				
	6 6類地	—																	
	7 7類地	—																	
	8 8類地	14																D	
市町村計		96																	

市町村名	類地区区分 および包含される示性式		土地利用の現況													備考		
			水田		畑				草地		林地				空地・その他			
					普通畑	樹園地		土地	草地の種類	人工林		天然林						
面積	土地利用占有率	平均収獲量率	土地利用占有率	主要作物および平均収獲量率	土地利用占有率	主要樹種および平均収獲量率	土地利用占有率	平均収獲量率	土地利用占有率	主要樹種および平均収獲量率	土地利用占有率	主要樹種および平均収獲量率	土地利用占有率					
加悦町	1 類地		—															
	2 類地	112 122	9	A	104													
	3 類地	123 131 132 133	21								D	スギ 90 ヒノキ	B	広葉樹 アカマツ 100				
	4 類地	142 241 243	20										A	広葉樹 アカマツ 70				
	5 類地	244 253	2										B	広葉樹 アカマツ 30				
	6 類地		—															
	7 類地		—															
	8 類地		7															D
市町村計		59																
岩滝町	1 類地		—															
	2 類地		—															
	3 類地	113 133	6	D	105						D	スギ 70 ヒノキ 80	C	広葉樹 アカマツ 65				
	4 類地	143	3										A	広葉樹				
	5 類地		—															
	6 類地		—															
	7 類地		—															
	8 類地		3															C
市町村計		12																

市町村名	類地区分 および包含される 示性式		土地利用の現況														備考	
			水田		畑				草地			林地				空地・その他		
					普通畑	樹園地		土地	草地の種類		人工林		天然林					
面積	土地利用 占有率	平均収 穫量率	土地利用 占有率	主要作物 および平均 穫量率	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 穫量率	土地利用 占有率	および平均 穫量率	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 穫量率	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 穫量率	土地利用 占有率	備考				
伊根町	1 類地		—															
	2 類地		—															
	3 類地	131 132 133	19	D	99						D	スギ 80	B D	広葉樹 アカマツ 90				
	4 類地	141 241 142 243 143	30										A	広葉樹				
	5 類地		—															
	6 類地		—															
	7 類地	130 140	2										A	広葉樹				
	8 類地		11														D	
市町村計		62																
野田川町	1 類地		—															
	2 類地	112	0	A	106													
	3 類地	113 131 132 133	24	D	106						D	ヒノキ 95	C D	広葉樹 アカマツ 90				
	4 類地	141 243 143	6										A D	広葉樹 アカマツ 70				
	5 類地		—															
	6 類地		—															
	7 類地		—															
	8 類地		6														D	
市町村計		36																

市町村名	類地区分 類地区分および包含される示性式		土地利用の現況														備考		
			水田		畑						草地		林地					空地・その他	
					普通畑		樹園地		土地利用 占有率	草地の種類 および平均 収獲量率	人工林		天然林						
					土地利用 占有率	主要作物 および平均 収獲量率	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収獲量率			土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収獲量率	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収獲量率					
峰 山 町	1 類地		—																
	2 類地	112 121 122	5	C	103										C	広葉樹			
	3 類地	123 131 133	43	D	103										A	広葉樹			
	4 類地	143 241 243	9												D	アカマツ	90		
	5 類地		—																
	6 類地		—																
	7 類地		—																
	8 類地		11																D
市町村計		68																	
大 宮 町	1 類地		—																
	2 類地	112 122	6	A	97														
	3 類地	113 231 123 131 132 133	47	D	97								D	ヒノキ 110	B	広葉樹			
	4 類地	233 241 243	8												A	広葉樹			
	5 類地		—												D	アカマツ	70		
	6 類地		—																
	7 類地		—																
	8 類地		8																D
市町村計		69																	

市町村名	類地区分 類地区分および包含される示性式		土地利用の現況														備考	
			水田		畑				草地		林地				空地・その他			
					普通畑	樹園地		土地利用	草地の種類	人工林		天然林						
面積	土地利用占有率	平均収獲量率	土地利用占有率	主要作物および平均収獲量率	土地利用占有率	主要樹種および平均収獲量率	土地利用占有率	および平均収獲量率	土地利用占有率	主要樹種および平均収獲量率	土地利用占有率	主要樹種および平均収獲量率	土地利用占有率					
網野町	1類地		—															
	2類地	121 122	2	B	106						D	スギ 95	D	アカマツ 80				
	3類地	123 131 132 133	46	D	106	D	チューリップ						C	アカマツ 75 広葉樹				
	4類地	114 124 141 142 143	12										A	広葉樹 アカマツ 60				
	5類地		—															
	6類地		—															
	7類地	120	1											A	クロマツ 30			
	8類地		14															D
市町村計		75																
丹後町	1類地		—															
	2類地	112 122	6	A	107													
	3類地	113 123 131 133	21	D	107	D					D	スギ 80	D	アカマツ 100 広葉樹				
	4類地	114 233 141 244 142 143	25										A	広葉樹 アカマツ 80				
	5類地		—															
	6類地		—															
	7類地	120	2											A	クロマツ 30			
	8類地		11															D
市町村計		65																

市町村名	類地区分		土地利用の現況											備考			
			水田		畑				草地		林地				空地・その他		
			土地利用 占有率	平均収 穫量率	普通畑	主要作物 および平均 収穫量率	樹園地	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	草地の種類	人工林	天然林			土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率
栄町	1類地	—															
	2類地	1.12	3	A	114												
	3類地	1.13 2.31 1.31 1.32 1.33	34	D	114									B D	広葉樹 アカマツ 100		
	4類地	1.41 2.41 1.42 1.43	30											A D	広葉樹 アカマツ 80		
	5類地	—															
	6類地	—															
	7類地	1.40	1											A	広葉樹		
	8類地		12														D
市町村計		80															
久美浜町	1類地	—															
	2類地	1.21 1.22	14	C	104								D	スギ 85	D	広葉樹	
	3類地	1.13 2.33 1.23 1.31 1.32 1.33	73	D	104	D							D	スギ 80	B D	広葉樹 アカマツ 80	
	4類地	1.14 2.33 1.34 2.41 1.41 2.43 1.43	32											A D	広葉樹 アカマツ 50		
	5類地	—															
	6類地	—															
	7類地	1.30	0														
	8類地		26														D
市町村計		145															



